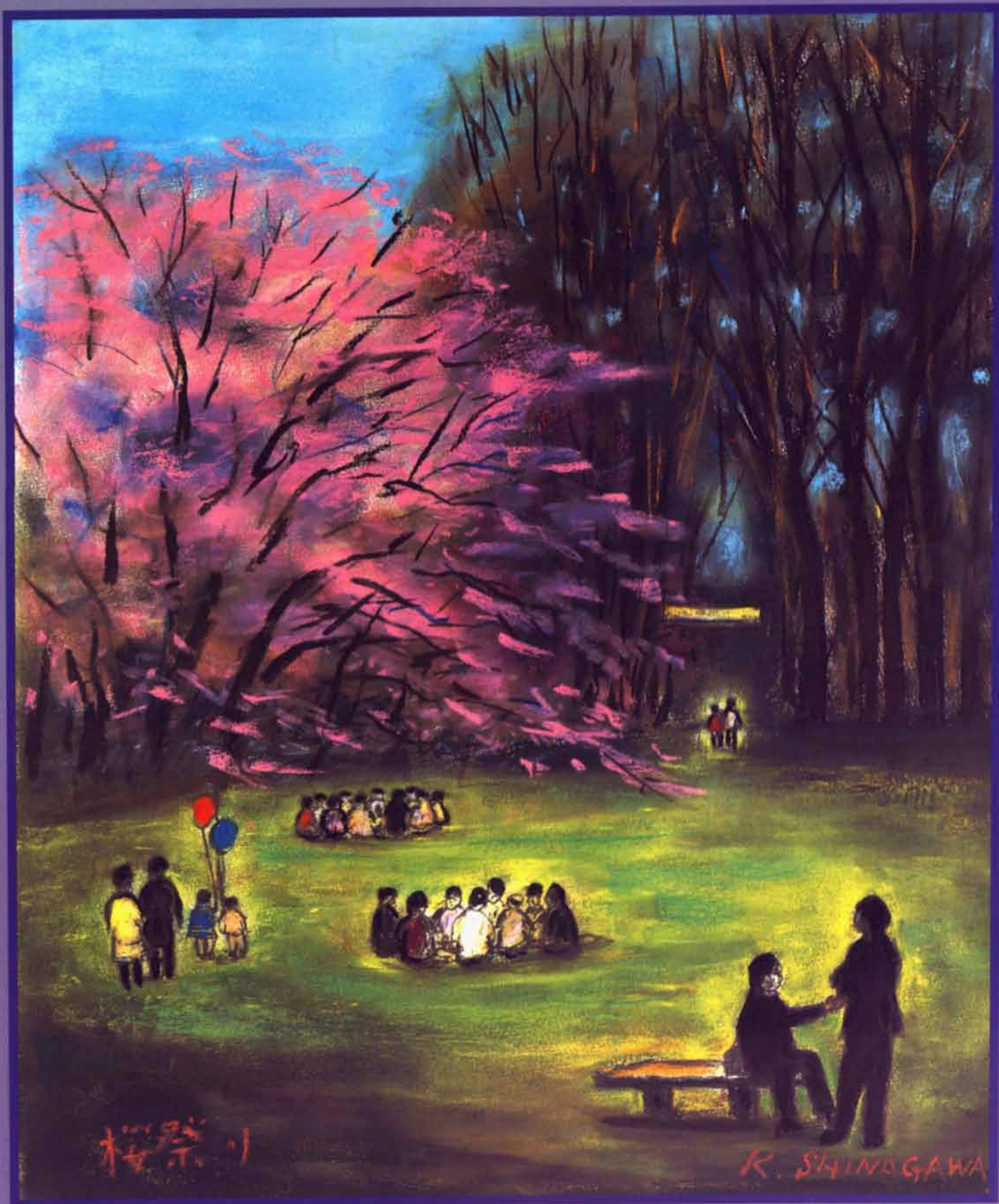


# 成蹊會誌



# ホームページのご案内!

成蹊会ホームページ <http://alumnet.ne.jp/>



校歌  
心カ歌  
の印刷ができます。



同窓会開催の  
お手伝いをします。



母校支援の原点に立って……………瀧 秀彦/2

第51回通常総会……………4

佐々氏講演……………野澤 幸弘/5

成蹊会設立70周年……………吉野 雅晴・相川 一成/6  
大山 卓治

初の全国地域成蹊会懇親会が開催される……………/8

### 特別寄稿

生涯スプリンター……………山崎 英也/10

### 随想

専攻科のこと……………小林 まり/14

『成蹊学園』の想い出……………鳥山 新一/15

「上條信山生誕百年記念展」を観る……………近藤 和夫/16

後藤英一君のこと……………山下 直/17

4時間4000円のエキストラからハリウッドへ……………横田 光史/18

禁煙は思いやり……………芝崎 容子/21

成蹊会理事候補者推薦に係わる公示/3 働く成蹊人/9 叙勲・文化勲章/52

表紙絵の言葉/13 予告/42 賛歌祭/43 成蹊会報告/71 成蹊会の設立と経緯/72

情報図書館開館/45 朝倉孝吉先生「お別れ会」/46 地域同窓会連絡先/74

成蹊ラピリントス/47 新聞・雑誌コラム/48 表紙の題字は故上條信山先生、絵は品川和彦(政経・44年)

### 同窓のつとめ

学校・年次会のつとめ/24

葉桜会  
大学卒業三〇周年  
成蹊電会  
高校卒業45周年  
昭和23年卒業成蹊小学校西組同窓会

宇野ゼミ同窓会総会・宇野先生喜寿のお祝いの会

61年ぶりの成蹊箱根寮  
高校17期卒業生によるクラス対抗ゴルフコンペ

蹊電一期会40年会の報告  
大塚直先生の喜寿のお祝いの会

体育会・文化会・OB会・趣味のつとめ/28

写蹊会写真展  
大久保宗碩(捨感)先生墓参会  
成蹊ラグークラブ桜祭り  
写蹊会前期撮影会  
写蹊会総会  
合氣道部設立三十五周年記念祝賀会  
水泳部創立70周年  
SGCゴルフ大会

東京産業(株)成蹊会  
山武けやき会

業界・企業のつとめ/32

ハワイ成蹊会  
オーストラリア クイーンズラン  
D成蹊会  
宮城成蹊会  
新潟成蹊会  
山形成蹊会  
茨城成蹊会  
群馬成蹊会  
埼玉成蹊会  
千葉支部  
千葉支部総会  
千葉支部ゴルフコンペ賑やかに  
渋谷成蹊会  
神奈川成蹊会  
遠州成蹊会  
愛知成蹊会  
大阪・奈良・和歌山成蹊会  
岡山成蹊会  
中国支部総会・広島成蹊会  
愛媛成蹊会  
九州支部総会  
佐賀成蹊会

地域のつとめ/33

物故会員/70

成蹊会設立と経緯/72

会員動静/60

地域同窓会連絡先/74

表紙の題字は故上條信山先生、絵は品川和彦(政経・44年)

叙勲・文化勲章/52

働く成蹊人/9

成蹊会報告/71

地域同窓会連絡先/74

表紙の題字は故上條信山先生、絵は品川和彦(政経・44年)

# 母校支援の原点に立って

成蹊会会長 龍 秀彦

去る六月十八日第五十一回成蹊会通常総会に併せて「成蹊会設立七十周年記念パーティー」を開催いたしました。成蹊会はこれまで学園の周年事業に合わせ、これを支援する形で記念誌発行等を初めとする企画をして参りましたが、自らの設立周年記念を、パーティーとして行うのは初めての経験でした。当日は強い雨ながら五百名以上のご参加をいただき、同窓会としての大きな会合となりました。多くの同窓の皆様は懇親を深めていただきましたことは、今後の同窓会の活性化にも繋がるのと確信しております。

しかしまた、同窓会の活性化には、これを支える多くの献身的な活動をしてくださる方々の存在が不可欠です。同窓会・会合の大小を問わず、幹事として会場・日時を定め、名簿を整え、案内を出し、出欠をまとめて人数を確定し、料理を定め、会を進行し、きちつと会費内で

運営する。終了後も各種問題を記録に留める。これら一連の活動を担い、支えてくださる会員の方には心より感謝を申し上げます。

今回のパーティーの開催に当たりまして、吉野雅晴副会長を委員長として、動員・パーティー・記念品・桜祭・広報の各プロジェクトがそれぞれに、大変忙しい中にもかかわらず何度も会合を持ち、検討を重ね実行計画を練る。このような努力を傾注していただいた結果として立派なパーティーを開催することができました。また、当日は各同窓会から多くの会員が係員としてそれぞれの役割を担ってくださいました。成蹊会ではこのように皆様に支えられ開催できる同窓会のお手間を少しでも軽減出来るよう力の限りご支援をしていくことが成蹊会としての役割であると改めて思いを致しております。

幹事となる四学部各年次委員を充実していただき、同窓会活動の更なる活性化を図っていただければと思っております。

成蹊会の活動のもう一つの柱が母校支援の活動でございます。現在、育英奨学をはじめとして、学術・教育助成、スポーツ振興、国際交流支援、文化振興の五つを大きな柱として、特別委員会において議論・検討をいただきながら母校成蹊学園に対する支援活動をいたしております。この原資は、これまで会員の皆様から寄せられた寄付とともに、毎年お支払いいただいております年会費が大きく寄与しております。卒業生として母校がいつまでも素晴らしい学園であり続けてほしいという心からの願いと共に、社会に有為な人材となるべく成蹊教育を受けている後輩に対する先輩としての責務であろうと思っております。

10周年毎の周年同窓会は、これまで大学が30周年、高校が20周年からの開催が通例でしたが、昨年より大学では10周年、20周年の同窓会を開催することといたしました。高校についても今年初めて10周年の同窓会が十一月に開催され、高校・大学ともに10周年から50周年までの周年同窓会が揃って開催できることとなりました。この周年同窓会を軸として、特に大学四学部同窓会においては該当年次の

会員の皆様からいただいている年会費は、必ずしもその年度における会員の皆様一人一人への直接的な還元となっており、機会が少ないだろうと思っております。しかし、我々が先輩より受けた様々な支援に対し、社会人となってから成蹊会会員として、これを次の世代のために還元していくことも我々の責務であり、またそのことに卒業生としての喜びを見出すことができれば、先達のご努力によって成蹊会が社団法人として公益事業を行うことの本来の意義を達しうるのではないかと思っております。

岩崎小弥太理事長が晩年今村繁三賛助

員に語った次の言葉が遺されております。「卒業生はもつと成蹊学園に誇りをもちてもらいたいものである。母校に誇りを感じてこそ初めて愛校心が湧くのである。」「どうか成蹊の卒業生も母校を真に誇りに思えるような立派な学園に育ててもらいたいものである」と。

母校成蹊学園は平成二十四年に創立百周年を迎えます。その間多くの卒業生が母校を巣立ち、社会有為な人材として貢献し、社会的評価を得て参りました。岩崎理事長は卒業生それぞれが学園・成蹊教育を支援し、立派な学園に育て得る担い手となることを期待していたのだと思っております。

学園では、今回の百周年記念事業募金が、単なる募金活動に止まらず、募金活動を通じ新たな関係を築こうとしております。百周年を迎えるのは学園のみならず卒業生も同じです。私も自身が当事者意識をもって、学園を支援し育てていくことが求められているのではないかとと思っております。

成蹊会も百周年事業を契機として、母校支援の原点に立ち、学園との新たな関係構築について議論していく必要があるのではないかと考えております。

今般、成蹊学園を小学校から大学まで学ばれた安倍晋三氏が内閣総理大臣に就任いたしました。学園卒業生から初めての総理誕生に心からお祝いを申し上げます。

(政経・35年)



岩崎小弥太理事長が晩年今村繁三賛助

員に語った次の言葉が遺されております。「卒業生はもつと成蹊学園に誇りをもちてもらいたいものである。母校に誇りを感じてこそ初めて愛校心が湧くのである。」「どうか成蹊の卒業生も母校を真に誇りに思えるような立派な学園に育ててもらいたいものである」と。

今般、成蹊学園を小学校から大学まで学ばれた安倍晋三氏が内閣総理大臣に就任いたしました。学園卒業生から初めての総理誕生に心からお祝いを申し上げます。

(政経・35年)

平成18年12月1日

## 成蹊会理事候補者推薦に係わる公示

社団法人 成 蹊 会

成蹊会理事候補者を推薦して下さい。

社団法人成蹊会には、理事会が組織されています。

成蹊会の理事は、評議員会において選任されており、次期成蹊会理事の改選は平成19年6月に行なわれます。

このため、成蹊会でのより活発な活動と母校への貢献を目指して、新鮮な企画力、判断力に満ちた理事を求めています。是非「この人」と思う方をご推薦下さい。

ご自分を推薦されても差し支えありません。

(※) 成蹊会理事会は、事業計画、収支予算・決算、財産の状況、剰余金処分、その他組織・人事・諸規則など会の運営についての諸事項を審議し、議決する機関です。

なお、成蹊会理事に選任された方の中から、理事会において成蹊会会長、副会長、常務理事が選任されます。

これらの重要な役割を認識いただき、成蹊会の運営に直接貢献しうる人材を自薦・他薦していただければ幸いです。

### 推薦方法

●所定の推薦状を使用してください。

(推薦状の用紙は成蹊会事務局まで、電話又はメールにてご請求下さい)

電 話 0 4 2 2 - 5 1 - 2 2 4 4 メール [seikeikai@jim.seikei.ac.jp](mailto:seikeikai@jim.seikei.ac.jp)

●推薦人は個人2名(1名可)までとします。(自薦の方は本人を記入)

●推薦状には必要事項を全てご記入願います。

### 推薦状の締切日・送付先

●郵送にて受け付けます。

平成19年3月31日(土) 必着<期日は厳守願います。>

●送付先 〒180-8633

武蔵野市吉祥寺北町3-3-1

社団法人成蹊会事務局気付 推薦委員会委員長 宛

### 理事の定員・任期等

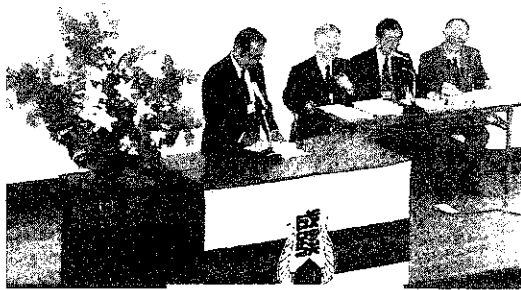
●理事定員数は20名以上30名以内(定款第13条第1号)

●任期は2年(平成19年7月1日から平成21年6月30日まで)。

再任を妨げませんが「連続」10年を限度とします(池袋・女学校各同窓会を除く)。

●原則無報酬です。理事会の出席に際し交通費・日当は支給されません。

# 第51回 成蹊会通常総会



4 議案が原案通り承認



瀧会長の挨拶

第51回成蹊会通常総会が平成18年6月18日(日)に学園で開催されました。本年度は成蹊会設立70周年記念行事が併せて行なわれました。

## 第一部 成蹊会通常総会

本年の総会は成蹊会設立70周年記念式典も兼ねて開催され、278名もの出席がありました。フリーアナウンサーの田島葉子さん(文33回)のさわやかな司会進行により会が始まり、はじめに瀧秀彦成蹊会会長(政経9回)より挨拶がありました。瀧会長からは、昭和11年の学園創立者中村春二先生胸像建立を契機とした成蹊会設立の経緯について話され、これまで成蹊会の活動を支えてこられた多くの方々への感謝とともに、これからの成蹊会活動をより豊かなものにしていくための出発の年として、新たな決意を示されました。併せて母校成蹊学園が推進している百周年記念事業に対する会員の一層の理解と募金への協力を呼び掛けられ、母校が素晴らしい学園として社会の信頼を得て発展していったほしいとの思いが語られました。

続いて、成蹊学園の岸暁理事長(旧高23回)よりご祝辞をいただき、学園と成蹊会との関係をより一層強化し、

成蹊会の更なる発展を祈念する旨のお話をいただきました。

続いて以下の議案が審議され、満場一致で原案通り承認されました。

議案1 平成17年度事業報告及び収支決算並びに剰余金処分案承認の件

議案2 平成17年度財産目録承認の件

議案3 平成18年度事業計画及び収支予算案承認の件

議案4 社団法人成蹊会同窓会規程の一部改正の件

第二部 成蹊会設立70周年記念講演

第二部は、記念講演として初代内閣安全保障室長の佐々淳行氏(旧高23回)より「宰相の危機管理」という題による講演をいただきました。

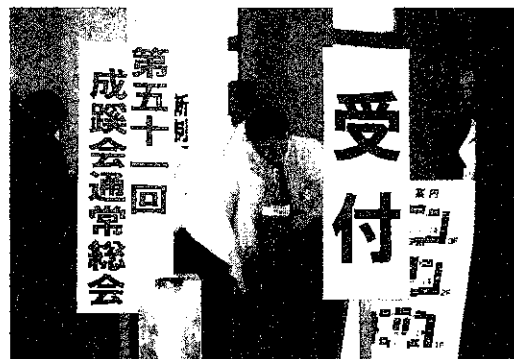
(詳細別掲)

第三部 第46回成蹊会謝恩顕彰

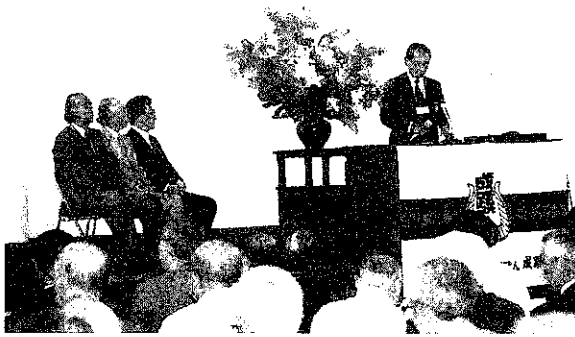
総会懇親会の場で行なわれていた謝恩顕彰は、今年も成蹊会設立70周年記念パーティーが行なわれるため、総会の場で行なわれました。今年も8名の教職員の方々が顕彰され、内3名の方に出席をいただきました。



田島葉子アナウンサーによる司会



本館玄関の受付



第46回成蹊会謝恩頭彰



会場には278名が出席

成蹊会謝恩頭彰は、成蹊学園に30年以上勤務され、定年で退職された満70歳をお迎える特別会員の方に、学園及び成蹊会の育成・発展に尽くされた功勞に対して、成蹊会より感謝の気持ちを顕すものとして始まった制度です。瀧会長からも、これまでの学園発展に対するご功績に対して謝意が表され、ご出席の方一人一人に記念品が贈られました。ご出席者を代表され、紋谷暢男様よりご挨拶をいただきました。本年度の頭彰を受けられたのは次の8名の方です。

相沢 卓 様 (中学・高等学校)  
 小木曾正和 様 (職員)  
 大野 尊一 様 (職員)  
 鈴木 護俣 様 (職員)  
 別府 祐弘 様 (経済学部)  
 紋谷 暢男 様 (法学部)  
 吉田 裕 様 (職員)  
 渡辺 一郎 様 (中学・高等学校)

\*\*\*\*\*

本年度の総会は、本館講堂を埋め、活気ある総会となりました。幅広い代からの参加により、同窓生の絆を深くする良い機会となりました。次回も多くの会員の参加をいただき、より活性化された総会となることを期待しております。

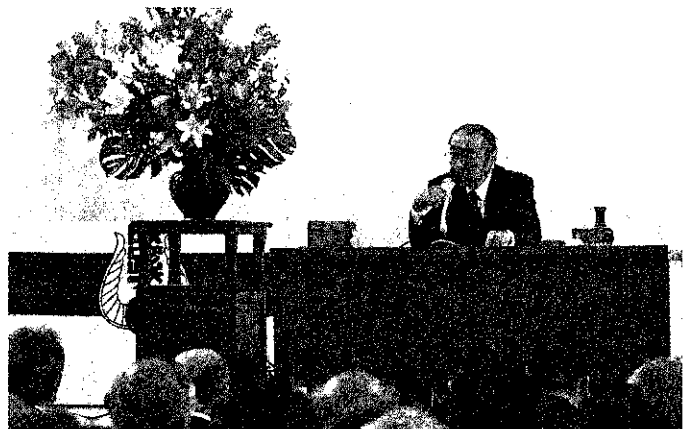
最後に、会の運営にご協力いただきました総会実行委員の皆様方に心から感謝申し上げます。有難うございました。

山須晋也 (法・61年)

佐々淳行氏 記念講演会

通常総会に引き続き、旧制高校23回卒の佐々淳行氏 (初代内閣安全保障室長) により「宰相の危機管理」というテーマで記念講演がありました。歴代総理の危機対応を阪神大震災や9・11事件等を例にとり実際のエピソードを織り交ぜながらテレビでもお馴染みの語り口で概観していただきました。加えて、欧米のような狩猟騎馬民族が強い行動的陣頭指揮型リーダーを選ぶのに対し、日本のような農耕民族は人格円満で調整能力に優れた長老型リーダーを選ぶ違いがあることや、非常事態には陣頭指揮のできる狩猟騎馬民族型リーダーが必要であることなど歴史を踏まえてのリーダー論が展開されました。また、公立・私立・国立と歩んだ経験から人間関係を重視する成蹊のよさにも触れられていましたし、最後は安倍首相待望論まで出ました。あつというまの一時間の中で、私たちを守ってくれる本当の意味で信頼できる政治家の資質について考えさせられました。有難うございました。

野澤幸弘 (法・57年)



初代内閣安全保障室長 佐々淳行氏 (旧高23回) の講演

・総会実行委員

高等学校	井田 博通 (28回)
	鈴木 慎太郎 (39回)
政治経済	角原 勲 (17回)
	山田 豊 (17回)
工 学	村上 善一 (10回)
	伊神 智之 (20回)
文 学	阿部 陽子 (26回)
	舛田 直子 (30回)
経 済	三重 野裕路 (16回)
	永野 成一郎 (27回)
法 学	山須 晋也 (17回)
	片山 崇 (27回)

・写真撮影  
 佐治邦彦 (工2回)

# 成蹊会設立七十周年記念行事

## 委員長挨拶

平成18年は、成蹊会が設立されて70年になるので、何か記念行事をやつて、この際組織的な盛り上がりを図ろうではないか、という事が理事会で決まり、私がその企画委員長を仰せつかった。

「70周年」といっても、これ迄5年、10年毎のフシ年に特設イベントをやつてきた訳でもなく、前例もないこと故、何からどうしたらよいか迷つたが、まずは衆智を集めるべく、各校同窓会から1〜2名の委員を出してもらい、総勢19名、事務局も加わり数回の「委員会」を開催した。

動員の方法、記念品選定、記念会誌の発行、成蹊校祭関連、当日のパティー、等々につき、各々プロジェクトチームを作り、具体検討に入った。

各プロジェクトチーム共、極めて熱心に取り組んでくれ、深夜に亘ることも数回、メンバーの母校愛に燃える力強い情熱を感じること屢々だった。以下、「委員会」「プロジェクトチーム検討会」で交わされた意見から、全体像を



まとめてみると、――

「70周年」を機に、成蹊会という同窓会の存在が多くの会員にとつて、より身近なものに感じてもらうにはどうしたら良いのか？成蹊会に対する帰属意識の高まりを図るには？について長時間議論されたが、決定的妙策がある訳でなく、先ずは、より多くの同窓生に懐かしの母校に集まってもらい、ゆつくりとお互いの懇親の場を作ろう、というあたりから検討を進めていった。

毎年6月に行つてゐる「年次総会」を70周年を機に活性化し、そのパワーを今後の組織強化・発展に結びつけたという考えから、兎に角「6月18日の総会に多くの人を動員しよう」としてスケジュールに入った。

まずは、4月の恒例の成蹊校祭で70周年ムード盛り上げを図る為、色々な「仕掛け」を試みた。――文字通り70周年アドバルーンを上げる為の風船の配布、パーティー予約の受付（記念Tシャツの進呈）等極めて有効だった。

当日のパティーについては、多くの参加者が、杯を片手に、親しく、懐かしく学生時代を語り合い、今後の拡がりのキツカケになつて欲しいという狙いに絞り、「ホームカミングデー」という主旨で、特に集客力のあるゲストの招聘とか、お祭りイベントはやらす、挨拶なども最小限にして、フロアでの勧誘、コミュニケーションを重視した進行とした。この点については、

一部批判もあったかとも思うが、とにかく今回は、卒業各校の同窓会、体育・文化会OB会、ゼミOB会等タテ・ヨコの組織的繋がりを利用・活用して積上げによる動員を図る事で、各々の組織結束のキツカケになれば幸いと思つた次第である。

『成蹊会70周年・懐かしの母校で700人で校歌を歌おう』

まずは成功裡に終つた。今後予定される母校成蹊学園の100周年、更には成蹊の80周年・90周年に向かつて、トータル「成蹊」への意識の高まり、組織の活性化を願つて止まない。

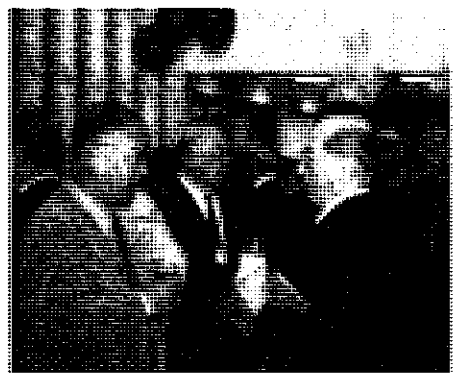
70周年委員会委員長

吉野雅晴（政経・34年）

## 動員奮闘記

七〇周年委員会は昨年十月二十七日にスタートした。十八名の初会合は内容を定める前から「何人集められるか」で議論白出。三〇〇人から一五〇〇人まで、まあ勝手なことをいう人の多いこと。

なせ、成蹊会七〇年の歴史のなかこんな周年行事をやつたことがない。前年踏襲主義が根付いている日本人集団で育つた人達では一歩も前に進まないのも当然だ。開催場所を学校に移した総会は二〇〇人を越えたことがない。ただ成蹊会の会員増強、結束強化に多



大な尽力をされてきた瀧会長の「こどもう一丁」の気迫だけは強く伝わつた。

二回目の会合で五つのプロジェクトチームができ、「動員プロジェクト」のリーダーに任命されてしまった。七〇周年の語呂あわせ？からいつの間にか動員目標七〇〇人が決められた。

年も押しつまつた十二月十九日動員プロジェクトの第一回。各同窓会に割りあてられた目標数を前にメンバーはNOとも、YESともいわず。私は小学校、高校、政経学部の同窓会には出席して大体の動きはわかるが、今や会員数の八十パーセントを占める大学四

学部と同窓会には縁がなく、まるでつかめない。その会合後とつたアンケートで四学部はいずれも五〇名がいいところとの回答。ホンマかいなと思つた。動員プロジェクトが決めないことには会場も料理の数も決められない。なにかの機会をとらえて、PRにつとめることとした。

四月二日の成蹊校祭を唯一の広報の場ととらえ委員会用テントを会場中央に設置してもらい、メンバーは特製T



シャツを着てチラシと風船を配りまくった。反応があつたのは、事前予約受付。当日会費をすっかりいただいてTシャツを進呈した。五〇人もいればとの思いがなんと一二〇人を越えてしまった。しかし桜祭の常連ばかり、計算済の人達の協力ではあつた。

五月になり行事の内容も決つて総会の開催通知に、案内が同封されることになった。体育会、文化会のOB会への呼びかけと共に各同窓会の年次委員に葉書で出席要請をした。

私の知る限り、ここ数年小学校や高校同窓会で若い人達等で年次委員を広げ若返りをはかつてきている。役員・委員名簿にのつている年次委員だけで八八〇人もいることがわかつた。この人達は成蹊会の活動の一翼を荷なつていることを意識しているはずだ。この人達が出席してくれば七〇〇人は達成可能であろう。しかし実態は私自身も年次委員になつてはいるが、誰が選んでくれたやら同意を求められたこともない。会合に一度も顔をみせない人もある。横の連絡もなければ縦の連絡はさらさないのではなからうか。動員のメンバーも顔も知らない年次委員にどう伝えていくんだらう。そこで今回は年次委員に二度、さらに理事、評議員特別委員会委員にも重複承知で連絡をさしあげた。これらメンバーの活動が組織強化につながっていくと信じていた。

小学校から大学まである成蹊で何年通したかによつて母校への愛着に濃淡があるのは当然だが、各学年ごとの交流にも大きなバラツキがある。私の高校九回卒組はメールアドレスまで整備

されここ一〇年毎年二回会合を持ち熱心な幹事のもとホームページも開いている。大学の卒業十周年の同窓会を学校と成蹊会主導で開かれる企画も始まつている。周年行事をきっかけに連絡網を整備してどなたかが中心となつてあちこちで組織づくりをしてほしい。

さて、六月に入り出欠の通知が集約されてやつと顔が見えてきた。動員メンバーには出席者名簿と共に私から二席の概文が送られた。まるで選挙前の電話作戦さながら。六月七日の最終委員会では五〇〇人分の料理発注をパーティープロジェクトに伝えた。

事前連絡なしの当日出席が二四〇名にもなり最終五二二名出席となつた。七〇〇名には届かなかつたが翌週動員メンバーに私から感謝の気持ちをFAXした。

私の高校九回卒組は十一名が出席したが、高校卒業以来はじめて成蹊を訪れたという人が二人いた。これだ。



	会員数	出席者数
池袋同窓会	23	0
やよい会	300	5
小学校同窓会	736	5
高等学校(旧制)同窓会	812	35
高等学校(新制)同窓会	8,746	74
政治経済学部同窓会	2,920	127
プレメ同窓会	345	0
経済学部同窓会	16,330	79
工学部同窓会	11,924	44
文学部同窓会	15,892	52
法学部同窓会	14,442	91
法科大学院同窓会	22	0
合計	72,492	512

動員プロジェクトチームリーダー

相川一成(政経・37年)

キーワードは「語らい」の場

懇親会パターンからの脱却

70周年実行委員会ではパーティープロジェクト委員に任命された瞬間に頭に浮かんだ言葉は、「同窓会のスタイルはどうあるべきか」という命題です。集まる顔触れはいつも大体決まっています。懇親会では乾杯の音頭の後はお寿司や大皿料理を皿に取り、顔見知り同士が丸テーブルでビールを注ぎ合うという立食式宴会の光景が恒例です。

今回の70周年イベントは全会員を対象にし、少なくとも7000〜8000名



の卒業生を一度に母校に迎えるという成蹊会として初めての企画です。恒例の「懇親会」スタイルで会場の広さだけを何倍かにすればよいということでは決まれないということを胆に命じたのです。

歩き回れるパーティー会場

パーティープロジェクトの第一回目の会合で先輩達を前に自分の考えをぶつきました。

「ホーム・カミング・デーらしく、カジュアルな雰囲気です、できれば本館前庭の芝生で飲み物を片手に懐かしい旧友を見つけては語らうような雰囲気を作りたい!」

幸いにもプロジェクトのメンバーはいずれも柔らかい発想を持った方が揃つており、私の考えに大筋同意を示して下さいました。現実的な背景から、パーティー会場は第一学生食堂(学食)で開催することにはなりましたが、そのような経緯から、飲食関係は個々のコーナーに寄せ、メインフロアには



## 成蹊会70周年委員会委員

委員長	吉野雅晴 (政経 8回)	医歯学進学課程 (プレメ) 同窓会	—
池袋同窓会	—	工学部同窓会	佐治邦彦 (工 2回) 大谷久行 (工 8回)
小学校同窓会	相川一成 (小 36回)	文学部同窓会	丸居里枝 (文 7回) 新見多可 (文 9回)
やよい会	—	経済学部同窓会	大山卓治 (経 12回)
高等学校 (旧制) 同窓会	西村 洋 (旧高 19回)	法学部同窓会	小石原耕作 (法 6回) 桑島冬樹 (法 7回)
高校同窓会	若田矢弓 (高 14回) 井田博通 (高 28回)	広報委員会	高井昌史 (法 1回) 上田祥士 (高 23回)
政治経済学部同窓会	藤田 晃 (政経 7回) 別所聡平 (政経 17回)	成蹊桜祭委員会	野村敏朗 (政経 18回) 高橋龍一 (法 6回)

歓談用のテーブルだけを所々に配置するといふ今回の会場レイアウトが決まりました。

### 校歌斉唱をイベントの華に

何十年ぶりに母校を訪れる卒業生達が懐かしいと感じるのは間違いなく伝統の威厳がある「本館」に違いありません。その誇りあるシンボルを見上げながら大空の下で「おゝ、成蹊」と高らかに成蹊の校歌を歌う。これが二つ目のコンセプトでした。

結果的に当日は時節柄の梅雨のため急遽会場内での校歌斉唱となつてしま

いしましたが、動員プロジェクトがPR展開で使ったキャッチフレーズの「懐かしのキャンパスで、7000人で校歌を歌おう!!」の主旨は貫かれ、キャンパスに集まった懐かしい仲間同士の熱唱でパーティーの幕を閉じることができました。

### ◆◆◆◆◆

実行委員会での幾多の議論や、当日の至らない部分はいくつかありましたが、70周年記念パーティーを盛大に敢行できましたことを皆様に深く感謝いたします。

パーティープロジェクトチームリーダー

大山卓治 (経・56年)

### 初の全国地域成蹊会懇談会が開催される!

総会開催に先立って前日の6月17日(土)に全国46支部の代表者、幹事長が集まり懇談する会議が吉祥寺第一ホテルで開かれた。地域成蹊会の活性化と課題の共有化を目的として企画され、翌日の総会、70周年記念行事に参加を促進する効果も期待された。全国の地方成蹊会世話役が一同に集まり懇談するのは成蹊会始まって以来初の試みであったが当日は予想を上回る46支部のうち15支部22名が出席し活発な意見交換が行われた。

まず瀧会長の挨拶・成蹊会の現状について報告があった。

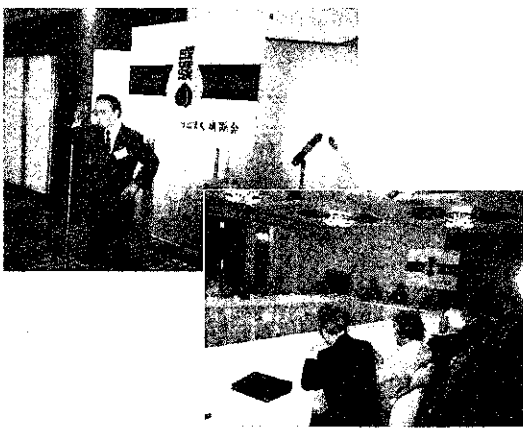
今後同窓生が誇りを保ちつづけることのできる学園、学校であるために次の施策を実施している。

- 1・成蹊会の活性化
- 2・財務基盤の安定

1・については高校・大学卒業10、20年、30年毎の周同窓会が定着し昨年より実施された大学卒業10年後の同窓会はホームカミングとして学園が全額費用を負担し、若い卒業生にも好評であることなど、周年同窓会に対する成蹊会の支援内容の説明があった。

2・については昨年から大学、大学院に入学した新入生から10年分の会費を納めていただくシステムにより財務状況は改善されるものの記卒OBの納付が減少しており若い世代にオンブする呼びかけて欲しいとの要請があった。

続いて各地域の活動状況、課題、提言など事務局が設定した議題に留まらず昭和28年卒業の代表者の方から平成7年卒業の若い幹事の方まで出席者全員が発言し活発な報告会となった。さらに在京中の台湾、ニューヨーク代表



からも国際的な話が飛び出し、いずれの支部も時間をオーバーしての発言が続いた。

- ・ 開催通知の郵便代の負担
- ・ 名簿の確度を高める要請
- ・ 転勤族の異動情報把握
- ・ 参加者の漸減
- ・ 参加者メンバーの固定化
- ・ 県単位の支部と数県単位の上位支部のあり方

などの課題が改めて生の声で浮き彫りとなった。最後の順番となった千葉成蹊会酒井事務局局長より毎年80名が参加する総会の運営について名簿整備、運営について貴重な報告を頂戴して会議を終了した。次いで懇親会に移り懇談の後校歌を斉唱し散会となった。継続的に全国成蹊会会議を実施するか否かは今後検討する事となった。

### 出席名簿

#### 【成蹊会】

会長	副会長 2名	常務理事	事務局長
----	--------	------	------

#### 【地域成蹊会】

群馬成蹊会	1	岡山成蹊会	2
栃木成蹊会	3	愛媛成蹊会	1
茨城成蹊会	1	九州支部	1
千葉支部	2	佐賀成蹊会	2
舞浜成蹊会	2	長崎成蹊会	1
渋谷成蹊会	1	台湾成蹊会	1
神奈川成蹊会	1	ニューヨーク成蹊会	1
大阪・奈良・和歌山成蹊会	1	計 15支部	22名

# 将棋指しという職業

遠山 雄亮

「20秒1、2、3、4・・・」。苦悶する男。更に明らかに焦りをみせるその手。そして「ピシッ」

TVでご覧になられた事のある方もいらっしゃると思います。日曜の朝10時〜12時にNHK教育で放送されている将棋の番組。そしてここに出演している男こそ、「棋士」である。

将棋指しという職業を正確には「棋士」という。ここからは「棋士」を通していくのでは非寛えていただきたい。

それでは棋士になるためにはどうすれば良いのか。

養成機関に入り、修行を重ね、その機関でのトップリーグで半年かけて戦い、高成績を取った者のみが棋士を名乗る事を許されるのである。



棋士番号というのがあり、私は258番。80年以上の歴史ある将棋界で、258番目に棋士になった訳である。ちなみに将棋界の有名人(羽生善治)は175番である。

さて棋士というのは、どういう事によつて生活をし、生計を立てているのか。棋士の場合大きく分けて2つ。【対局】と【普及】である。

【対局】というのは将棋の試合の事。月に数回試合をし、その勝ち負けによつて収入が大きく違ってくる。最近の言葉で言えば成果主義という感じか。

プロの世界は厳しくまた夢もある。トップ棋士ならばかなりの額を稼ぐ事が出来る。しかし下位の棋士であればその額は厳しいものとなる。

そのため棋士は皆、普通の社会では考えられないほどの集中力と根性を振り絞り、力の限りを尽くして戦うのである。

一方の【普及】というのは、これは読んで見たまま。将棋を一人でも多くの人に知っていただき、一人でも多くの人に楽しんでいただくために努力をするという事である。

競技でプロという肩書きの付く物は、それを支えるファンの方々がいなければ、それは職業とは言えない。

将棋界を支えていただいているのはこうしたファンの方であるので、棋士には【普及】をする義務があるのである。

スポンサーは、ほぼ9割方新聞社である。皆様の中にも、新聞に将棋が載っているのをご覧になった事のある方は多いと思う。

そうして新聞に将棋を載せていただき、ファンの方に喜んでいただき、我々棋士はお金を頂いているのである。

私はまだ棋士になって2年目の新米。地位も立場もまだ低い、まさに新人社員という言葉がピッタリである。まだメディアに出る事も少ないし、大きな活躍も無い。

しかし、成蹊卒の棋士というのは私だけ。これからどこかで目にしたならば、少して良いので見ていただければ幸いです。

私は成蹊には中学で入学。最終的に大卒を卒業するまで10年間お世話になった。

棋士への養成機関に入ったのは中学2年生の時。それからちょうど12年間この機関にいたので、成蹊在学中はほぼこの機関にいた事になる。

この養成機関での試合は月に2回。必ず平日に行われる為(現在は土日に行われている)、学校を休まざるを得ないという事情があった。

しかしそういった事にこの学校は寛大で、そして応援していただいた。

私が晴れて棋士になった時に、高校の先生からお祝いのFAXをいただいたのには本当に感動した。そして同時に改めて良い学校であった、という思いを強くしたものである。

2006年9月26日。

この日は、日本にとって成蹊にとって私にとつても特別な日になった。

成蹊出身では初の総理大臣、安倍晋三

内閣総理大臣が誕生した日である。同じ成蹊出身としてやはり嬉しかった。

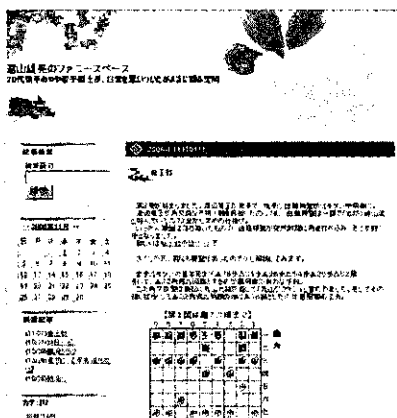
そして安倍総理は伝統文化に力を入れる事を表明。これは将棋という伝統文化を職業にしている私にとって、心強い出来事であった。

規模は違うが、同じ成蹊出身として、安倍総理の活躍に刺激を受けながら、私はこれからも将棋道に邁進していこうと思う。

この記事を読まれている方のなかには、将棋を知っている、指せる、という方も結構いらっしゃると思う。

こうして成蹊会誌という場で将棋に再会された方には、是非また一度将棋に興味を持っていただければ幸いです。

「遠山雄亮のファンスペース」  
<http://chama258.seesaa.net/>



将棋棋士(経・平14年)

# 「生涯スプリンター」

やまざき ひで や  
**山崎英也**

1951年9月15日(旧ニス)  
成蹊高等学校(於ラ・テラ)で講演したものを抄録した。

ただ今、ご紹介にあずかりました山崎でございます。

私は旧制高校十九回、昭和二十年の卒業で、西村会長とは小学校からの良きライバルでした。その西村会長から再三、総会での講演を頼まれていたのですが、こんにちまで延び延びになっしまいましたこと、誠に申し訳ありません。実は私、今日の講演のために、今までの成績などを一覧表にまとめ始めたのですが、九月の初めに少々体調を崩して病院やらを駆け回っている間にほとんど時間が過ぎ、成績表もまとまりませんでしたし、講演のレジュメも作れませんでした。どうぞお許しください。



早速、私と陸上のつながりについてお話をしてみますが、走り始めといますか、昭和十二年、小学五年には、既に小学校の代表選手ということで、リレーメンバーにも選ばれておりました。翌十三年、成蹊学園の運動会で、町内の小学校からも参加を呼び掛ける招待リレーというのがありまして、そのレースで、一番代表の第一小学校を破り、私たち第三小学校が優勝したときの感激は今でも忘れられません。第三小学校は五日市街道と中央線が交差するところにある学校でしたが、校長室にはいつも優勝旗が五、六本飾られていたのを覚えています。

私は、昭和十四年に尋常科に入学しましたが、その当時の陸上部の先輩が私のうちへすぐに訪ねてこられて、「ぜひ陸上部に入れ」というお誘いを受けました。スカウトされたのは陸上部だけではなく、その後、野球のインターハイで成蹊が準優勝したとき、私の遠縁に当たる野球部の投手の人とたまたまある会合でお会いする機会があり、「野球部へ

入れ」という誘いを受けましたし、ラグビー部の当時の主将からも勧誘を受けたことがあります。しかし、もともとが不器用な私でしたし、チームプレーより、ひたすら真つすぐに走り続ける陸上の方が性に合っていたのでしようか、最終的に陸上を選んだのは結果的には正解でした。そのおかげで八十歳を過ぎていまだに走り続けていられるわけでありませう。

成蹊の陸上部は、生徒数の少ないこともあり少数精鋭主義でした。陸上だけで言いますと、第二回のインターハイで「佐藤拓四郎」さんが三段跳びで二位に入賞しています。それと、「永井真茂」さんが、これはいまだにというか、もう大会はないのですが、八百千五百、五千の三冠王になったという輝かしい記録も残っております。

昭和十五年には、少数精鋭どころか精鋭がたくさんそろいました。今の国立競技場で行われたインターハイでの出来事は忘れられぬ思い出となりました。トラック優勝を目前にし、競技会の最後の締めくくりはいつも千六百メートルリレーです。一人四百ずつのリレーですが、そのリレーに勝てばトラック優勝は決まりというときに、第三者までは二位以下を十六、十七メートル離し楽勝のペースと見られていたのです。ところが、二高のアンカーが驚異的な追い込みを見せました。結果

は同タイムながら、着差ありということとで敗れたわけです。私が尋常科二年のときのことで、グラウンドで興奮して応援したものかなわず、敗戦に涙したこともありませう。

そのとき、尋常科のわれわれ部員は浅賀、貝島、小林正和、涌井、原野、西村、茂木と私など合計八人の部員がいました。みんなで相談をしながら「五カ年計画」を立てました。われわれが高校三年になったときに、優勝を勝ち取ろうと誓い合ったわけです。ですから十五年の秋から十七年ぐらいいまでは、この計画達成のために猛練習いたしました。

翌十八年から今日もお見えの永山さんをはじめ、相川さん、石川六郎さん、宮本さんなど、また精鋭が加わって強力な布陣が整ったのですが、昭和十八年といえは、何しろ太平洋戦争真つ最中のころです。しかも戦況は極めて不利で、陸上競技大会の開催などはもつてのほかと全部中止の憂き目です。揚げ句の果てに、われわれだけが一年短縮の卒業で、いわば二年で学校を追い出されたわけです。ですから、せっかく目標を立てた「五カ年計画」の五年目は、まさに夢幻になってしまいました。

やがて戦争は終わりました。戦後復活第一回のインターハイというのはちよつと変則ながら、昭和二十一年の十

月、京都大学で行われました。杉山直樹キャプテン以下、見事にトラック優勝を果たして憂さを晴らしました。

ついでに今の成蹊大学の陸上部の状況についても、ちょっと触れておきます。大学になって、例の関東大学箱根駅伝では、体育系の学校以外で完走したのはわが成蹊だけです。山岸常夫さんを中心に、見事な歴史のページを残してくれています。また現役の成蹊大学の陸上部は、昔の七年制大会に当たる四大学戦、成城、武蔵、学習院、成蹊で争っております。三連覇、四連覇、五連覇と、いつも学習院と競っているわけですが、今年も九月十日の日曜日、大井埠頭競技場で行われ、トラック競技もフィールドも完全優勝を果たしております。余談ですが、隠れた異色ランナーとして、二年前に成蹊大学を卒業した早川英里さんという方、ひよっとして女子マラソンに登場するかもしれません。

四百は強い人がいて、勝ったり負けたりだったんです。それが、三十年のブランクを経て、またスパイクを履いて走り出したきっかけでした。さらに五年後の昭和五十五年、日本でも「日本マスターズ陸上競技連合」が創立され、織田幹雄さんが初代の会長に選ばれました。その目的というのをちょっと読んでみますと、「いつまでも心身の維持・増進に努め、陸上競技の普及と振興を図りつつ、生きがいのあるライフワークに寄与せん」と。四半世紀前ですから大変古めかしい目的になっております。ユニークなのは、これは世界も同じですが、男子は四十歳以上、女子は三十五歳以上、五歳刻みで日本記録もあれば世界記録もあるというところですね。例えば四十歳から四十四歳のクラス、四十五歳から四十九歳のクラス。今、私は八十一ですから、八十歳から八十四歳のクラスで競うわけです。この五歳刻みというのが大変重要で、新しいクラスの三年目ぐらいまでは何とかなるんですが、四年目、五年目になると、下手すると入賞ができません。そうになると、早く年を取って次のクラスに入りたいたい(笑)。五年たつて、また新たな年齢枠のクラスに入るとそこでは最若手となり、再び優勝と記録更新のチャンスが生まれるというわけです。

思えば昭和五十五年九月、第一回の全日本マスターズ陸上競技選手権大会が和歌山で開催されました。OBインターハイの先輩たちに「こういうのができたぞ」と私は知らされ、締め切りぎりぎりに申し込んで第一回から参加しております。

ちょうど五十五歳のクラスで、百、二百で優勝、優秀選手賞をもらいました。全日本の次の五十六年一月、ニュージーランドで開かれた第四回世界マスターズ陸上競技大会にも出場いたしました。そのときは会長でもある織田幹雄さんが団長を務めていました。クライストチャーチ大会に参加したのですが、南半球の一月ということで、ヨロツパ勢とかアメリカの選手はあまり参加していなかったせいもあるのですが、何と私は百と二百でそれぞれ二位になったのです。

まず百で二位に入ったときに織田さんに、「短距離でメダルを取るのほすごいもんだ」とお褒めいただきました。そして、「次の二百も出て走ります」と。予選は難なく通過したのですが、決勝は六コースの一番アウトコースになりました。織田さんは国際陸連のコーチを兼ねているわけで、私は織田さんに「どう走ればいいですかね?」と聞いたたら、「山崎君、指先に集中して走れ」と。

ですし、硬くなるんです。肩が張ってしまうのです。よく私の走りを西村会長が亀の子たわしみたいだと言うのですが、それは首をすくめた格好で走るのが型だったのを指しているのです。「指先に集中を」というアドバイスをもらって走り続けた私は、コーナーを曲がって直線に出てもなかなか相手が左側に出てこないんです。百五十ぐらいまでトップだったのですが、これはひよっとすると優勝しちゃうぞと思ったら、背の高い、プエルトリコの選手にスイツと抜かれてしまった。

まあ、そんなことから病みつきで、以後、エントリコーそしたものの体調が悪く参加しなかった南アフリカ大会以外は、ずっと出続けております。去年はスペインで第十六回世界大会が開かれました。私はちょうど八十歳でした。誕生日が四月の終わりなのですが、五月早々の東京マスターズの記録会で、百メートルを十四秒七五という、これは七十五歳代でも出ないという記録を出しました。

百メートルは面白いレースだと、最近つくづく思います。例えば、黒人以外の現役で百メートルを十秒切ったのはいないわけです。日本では東海大の伊東浩司がゴールしたときには、九秒九九と出ました。それを私は見ていましたけれども後で訂正されて、十秒〇に変更された。

今年の五月でしたか、女子の池田久美子が幅跳びで六メートル八十四の日本記録をつくったのですが、走力もあるので、百メートルハードルで十二秒八八という、日本で初めての十二秒台が出ました。ところが何と、追い風二・一メートルという不運で公式記録にはなっていない。

そういうように百メートルは、本当に微妙なレースなのです。私の日本記録の場合も、相手が私より若い七十五代が二人と、七十代が三人。だから、プレッシャーが全くなかったのと、その前のレースはみんな三メートルぐらいの追い風だったのですけれども、私るときは運よく二・〇メートル、限度ぎりぎりの追い風だったので、もう一遍走れと言われても走れそうもない十四秒七五の記録が出たわけです。

今は大体が国立競技場のトレーニングセンターで、ランニング中心の練習をしています。午後一時から練習開始です。国立が使えないときは、武蔵野の競技場とか、東京体育館は午前九時から使えますので、朝から練習しております。それと、ボケ防止ではないですけれども、必ず一時間ぐらいいは図書館とか資料館に通って、陸上関係の本に限らずいろいろな本を読むのが、私の日常生活です。

元氣だから走っているといっても、一番気を使うのは何といっても健康管

理です。特に食生活が大事です。この間、テレビで「六十過ぎたら腹八分目、八十過ぎたら腹六分目が健康の秘訣」と、聖路加病院の日野原院長が話しているのを聞いたのですが、まさにそうではないかと思えます。

快食・快便・快眠と私はいつも言っています。食生活の基本は私の場合は牛乳です。私はアメリカで生まれたので、おふくろがしほってくれた牛乳を飲ませてもらったことが、体質に合っていたのかも知れません。ともかく朝は牛乳とヨーグルトにトースト。これを何年来続けており、おかげさまでここ二十年來、菓のやつかいにはなっておりません。

「五ヶ年計画」を立てた当時は大変無茶な練習もさせられたのですが、それが今になって生きています。また練習の日常化といって、スリッパのかかとを切り落として爪先だけで授業中も歩くとか、まあ、非科学的な練習もなきにしもあらずだったので、それが今になって、どんな練習をしても平気だという自信になっております。ただ、その当時は、練習中水は一切飲まなと言われていました。逆に試合なんかのときは役に立っています。今見ると、みんなボトルを持ってグラウンドに降りて行きます。そうい

うことに耐えられる体の基礎が、成蹊のときにできたと思っております。

陸上競技は個人競技で孤独の競技だと言われますが、私は決してそう思っておりません。関係者のサポートがあつて、初めて走れるということ。先ほども触れましたが、京大で開催された復活第一回のインターハイには、

今日もお見えの河盛さんが当時、応援団長で、条件の悪いのに大挙して京大に応援に来てくれました。これが優勝の原動力になったのではないかと思っております。まさに自分が今日まで陸上を続けられているのは、大勢の方々支えがあつたればこそその思いを強くしています。

その陸上に限らず、スポーツ一般がパラエティー化というか、面白おかしく報道されるようになって心配しているところ。報道の反響というのは大変大きいわけで、過大報道としては今年も冬季オリンピックがありました。始まるまでは日本は金メダル十個なんて報道されていたのが、何と荒川静香の一個だけでした。サッカーのワールドカップも、決勝進出間違いないというようのがあつさり予選で落ちてしまった。スポーツに対する報道のあり方についても、心配される点が多々あるのではないかと思います。

それから、世界大会は終わりましたが、百聞は一見に如かずということで、

日本においては分からない国際感覚を養うというのも大変重要だと感じております。白人社会といいますが、サッカーのワールドカップで、ジダンがイタリアのマテラツツイとかいうのを頭で突ついで退場させられました。あの場面を見ていましたけれども、そういう人種差別的なものが世界大会なんかでも見られます。それから地域の差別と見えますか、そういうのも感じます。

例えば去年のスペインはサン・セバスチャンという一番北のところですが、「サン・セバスチャンなんてテロの巢だよ」と、行く前にお役人の友達から言われたんですね。行つてみたら全然違つていたとか、そういうことがマスターズのときにも感じたことでもありました。

まとまりのない話をいたしました。最後に皆さんに「走れ」とは言いませんけれども、歩くことは健康の一番の基礎であります。そして「継続は力なり」ということも確かだと思えます。せいぜい皆さんには歩くように心がけていただきたいと思います。これで私の話を終わりにしたいと思います。ご清聴ありがとうございました。



# 随想

成蹊会誌用箋

## 専攻科のこと

こばやし  
小林まり

私は成蹊高等女学校に昭和三年から四年間通いました。

専攻科には在籍しなかったが、今回当時の専攻科について同窓会の方からなにか書いてほしいとお話がありましたので、ずいぶん古いことになりましたが、父が専攻科に勤めておりましたので、その当時のことを父の目を通して書いてみます。

### 一、中村氏との出会い

私の父西尾実が、はじめて成蹊学園の中村春二園長先生にお目にかかったのは、大正九年九月末のことであった。長野県から所用で上京していた折に、

成蹊女学校の専攻科で中村先生が、「徒然草」を生徒と一緒に読んでおられることを聞き、その教室を見学したいとお願したところ、その代わりに一時間西尾と話したいと言われ「徒然草」や教育について語り合った。

その後大正十四年末上京し、大正十五年四月から成蹊高女国語専攻科主任として三年間つとめた。そのときはすでに中村園長先生は亡くなられ、奥田校長の時代であった。

教室は女学校と別棟であったが、昼食は教師、高女、専攻科みんな一緒に食堂に集まってお経を唱えた後無言で

いただいた。また三時に授業が終わると全校生徒が講堂に集まり勝鬘経を唱え、西行の「山家集」を読み奥田校長が講義した。

### 二、専攻科での講義

古典の講義が中心であったが文学史「徒然草」「論語」「老子」と世阿弥の「花伝書」、更に奥田校長のご方針で道元禅師の「典座教訓」なども講じた。

生徒の中には謡曲や仕舞に熱を入れていた者がいたので「花伝書」の講義によって実際の稽古の問題が原理的に解明されてゆくのに深い感動を与えられた。

### 三、作文指導

「作文教育こそ真の人間性を育てるものである」という考えから、一週に一回作文を提出することを生徒に求めた。その中で「言葉」という作文の課題が出された。提出した作文の批評を聞こうとして

「私が「先生作文はまだでしようか」というと「なまけてしまつて」とおっしゃった。そのとき私は「おや」と思つた。そしてもう一度口の中で「なまけてしまつて」と言つてみた。私であつたならばこのかはりに「いそがしかったので」この言葉を用ひたであらう。どうしてこの様な言葉が出るのだらう。

同じ断る言葉にこれだけの差があるのだ。私はもう一度口の中でくりかへして見た。」

### 西尾の評

「僕はありのままの心持を言うのだ。しかしあなたの考えた問題は深い。こういうやうに聞き分け得るあなたの素直さと鋭い心の働きをたのもしく思う。」

### 四、奥田校長先生による茶の湯指導

西尾が専攻科を担任して二年たった昭和二年三月に奥田校長から「四月からはわたしについて茶の湯の稽古をしてみませんか」と勧められ、「是非稽古の仲間に加えてください」と答えたところ毎週木曜日の三時以降不言庵において一対一の指導をしてくれるようになった。奥田校長の茶の湯は、利休のわび茶に対する復古運動であつた。基礎をなす平手前を何万遍でも稽古するところに、人間形成の茶道があると





いう信念で一貫していた（流派は裏千家）

以上の大部分は「西尾実の生涯と学問」（安良岡康作著）を参考に記したものである。

昭和四年以降、専攻科は奥田校長の茶の湯、五味先生の和歌などを特徴とする授業が中心となり、週一回雑刀（雑刀）を園部秀雄先生に習いにくる人もいた。

## 『成蹊学園』の思い出

とりやましんいち  
鳥山新一

他の人はいざ知らず、不思議なことに何故か私は単に「成蹊」という「言葉」だけでは余り「心に響きません」が、『成蹊学園』というと急に「心が暖まる」気がします。

私は昭和7年に東京市立誠之小学校から尋常科に入学して、昭和14年に高等科を卒業したので7年間在学したわけですが、その間一番印象に残ったことは、次の3つです。

1. 合唱団で日比谷公会堂の、『全国合唱コンクール』出場
2. 開校10周年記念祭で、『アーチ構

専攻科の関西修学旅行もあり、法隆寺に泊まった折には朝三時半に起きて朝のおつとめをした。僧侶の方々と一緒にお経を唱えた。

いまからすれば学生生徒数が少なく、教育内容も私塾に近いが、先生たちの個性と情熱がそのままに表れた学園でありました。

（女・7年）

築作業

3. 昭和7年尋常科入学祝いに、祖父から《世界最初のミニサイクル》を買ったこと

1. 『全国合唱コンクール』では優勝したことは1度もありませんでしたが、それよりも「精一杯歌った」後で、校門を出てから皆で帰る途中の雰囲気はとても楽しいもので、いま思い出しても胸が暖かくなります。

私は「テノール」でしたが、この合唱団と一緒に歌った堀内さんや歌橋さん影山さんなど諸先輩の影響を強く受

けて、大学はこれら諸先輩の進学された東大医学部の薬学科（当時未だ薬学部は未開設）へ進みました。特に薬学に興味があったというわけでもありませんし、現在も薬学とは全く無関係な仕事をしていますから、考えてみれば将来の道を決める大切なことなのに、我ながら本当に可笑しい話です。

2. 開校10周年記念祭での『アーチ構築作業』は、小冊子「成蹊の歌」の14

ページの「成蹊祭」の1番の「アーチくぐれば俺等の世界ー」という歌詞の『アーチ』です。正門の前に「アーチの片側の太さ約2m×2m×高さ約8m」という大きなものを「杉の枝」を沢山集めて皆で力を合わせて造

りあげました。完成した時には、余りにも見事な出来栄で、本当に『感激×感激』でした。

これは『成蹊学園』独特の「毎週1回の作業」という『教育科目』の一環で、普段は主として裏の農園で農作業をしていた『腕前の見せ所』というわけです。

3. これは『成蹊学園』とは直接関係はありませんが、昭和7年尋常科入学祝いに祖父から《世界最初のミニサイクル》（自転車の200年史）にも載っていない珍品を買ったことで、これが「私の一生」の方向を決めるとは、全く気がつきませんでした。



日本は「世界有数の自転車大国」なのに、自転車を《科学的に真面目に取り組む人》が殆どいないことは、本当に不思議です。

今では「自転車のソフトからハード

まで」、最近特に「自転車と健康」を中心に、例えば《自転車は「癌」の死亡危険度を約1/3に削減》などをテーマにしています。

鳥山研究所(旧高・14年)

# 「上條信山生誕百年記念展」を観る

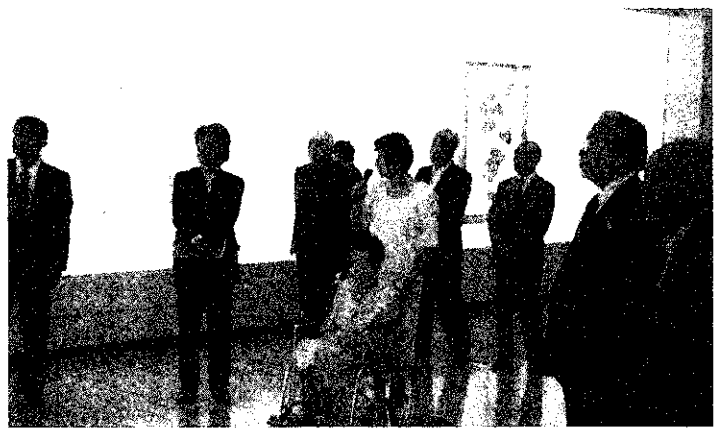
こんどがかずお  
近藤和夫

本誌前号でのご案内のとおり、文化功労者・故上條信山先生生誕百年を記念して、先般(7/15~9/24)先生のご郷里松本で、大回顧展が開催された。先日都内の書道展会場で、偶々田中節山先生(書家会理事長・成蹊会特別会員)にお会いした際、本展の感想を成蹊会誌に寄せてほしい旨、示唆があったので、最古参弟子の一人として一筆させていただくことにした。

本展は松本市美術館主催、書家会



(信山一門の書道団体)共催で、信山先生の生涯を回顧し、その代表作をはじめ石碑拓本、関連資料等を陳列し、その書と人の魅力に迫ろうとするものであった。先生の書はよく剛健、雄勁、或いは清冽と評されるように、観る者の心を突き動かす迫力に富み、重厚にしてかつ凛とした気品に満ちている。文字の造形表現は不調和の調和を含む独特の美しさを持ち、鍛えぬかれた線とその墨痕は精神性の高さを示して余りある。会場には、先生若かりし頃の端正な小字作品から、最晩年作に至る約九十点が展示されていた。その中には、老荘思想のこころを追求して顔真卿流の書法で、内面性豊かに一つの境地を示された「谷神不死」、いわゆる信山書風による日展出品作の内閣総理



大臣賞「堅勁」、同じく日本芸術院賞「汲古」などの名作が並ぶ。書体は、作品により楷・行・草のほか、篆・隸更にかな・調和体に至るまで実に驚くべき多様さ万能ぶりで、壁面構成も変化に富み、重量感の中にも見事な調和を保っていた。先生が好んで発表された少字数・大字作品には、字句や文字の意を造形的にも象徴しようとする作者の意図や工夫が見えて興味深い。先生は古典をひろく徹底して学び、その上に恩師宮島詠士の書風を継承発展させ、加えて現代感覚のモダンな光を当



てて格調高い独自のスタイルを築かれた。石碑に刻された長野県庁にある「県歌・信濃の国」、松本城大手門に建つ「国宝松本城天守」の快心作は、永遠に長野県民に愛され親しまれるだろう。参考陳列品の中には、先生が太平洋戦争に応召された際に、成蹊学園全教職員の方から贈られた武運長久の日章旗寄せ書があり、戦後六十年、往時を思い起こし感慨深いものがあった。私は昭和十年成蹊小学校入学時、先生が担任をされたクラスの一員で、爾来書道部や書家会で永年に亘りご指導ご薫陶を頂いた。そんなご縁で今回お招きを受け、オープニングセレモニー

# 友

に参上した。式典、テープカットが行なわれ、内覧会では、米倉美術館長、田中理事長、先生の奥様、ご令嬢による作品解説をかねたギャラリートークなどもあつて興味深く拝聴した。ホテルに場所を移しての祝賀会は、ご家族中央書壇の先生方、松本市関係者、書象会員等二百名を超える参会者で盛会を極めた。会場のスクリーンには、作品揮毫に取り組み厳しくも活気に溢れたお元気な姿、芸術院賞授与式で、昭和天皇のご下問に恐懼緊張して答える紋付羽織袴のお姿など、在りし日の貴重なひとコマが映し出されて嬉しく拝

見した。

書道教育・国際交流の面でも大きな足跡をのこし、日本書道界の重鎮であつた先生は、稀にみる才能の持主であるばかりでなく、常に高い志をもち、自らに厳しい努力を生涯貫いた方であつたと回想する。こよなく愛した故郷

後藤英一君とのこと

山下直

やましたすなお

……………

## 《成蹊が生んだ世紀の天才》

ご存知でしょうが……。後藤君の略歴。昭和6年生れ。昭和18年尋常科に入学、旧制高校理科を経て昭和25年東大物理学科入学、昭和29年パラメトロン（注）の発明により、23才で朝日賞受賞。昭和45年東大教授、理研主任研究員、東大大型計算センター長併任、平成16年6月没

後藤君とは、尋常科、高校とほとんど同じクラス、大学も部は違つが同じ理科系で趣味も同じ、という事で最も仲の良かったのは、この私（山下）ではないでしょうか。多くの方々より、

松本での回顧展の実現は、先生ご自身にとつてもさぞかし大きな喜びであつたに違いない。

（松本市美術館には、上條信山記念室が常時開設されています。是非お出かけ下さい。）

（旧高・23年）

同君の成蹊時代を紹介すべきだとのお声があり、筆をとつた次第です。

彼との出会いは戦時中でしたが、食糧事情もあり、やせぎすで手足が長く顔が三角な奴だという事で、間もなく「三角おむすび」というあだ名がつきました。しかしこのおむすびは、数学、物理、英語などすばらしい実力を発揮し、クラスで有名となりました。ただし、かなりの変り者で奇行も多かったようです。ここに同級だった金井弘夫さんの自分史より、彼のエピソードをご紹介します。

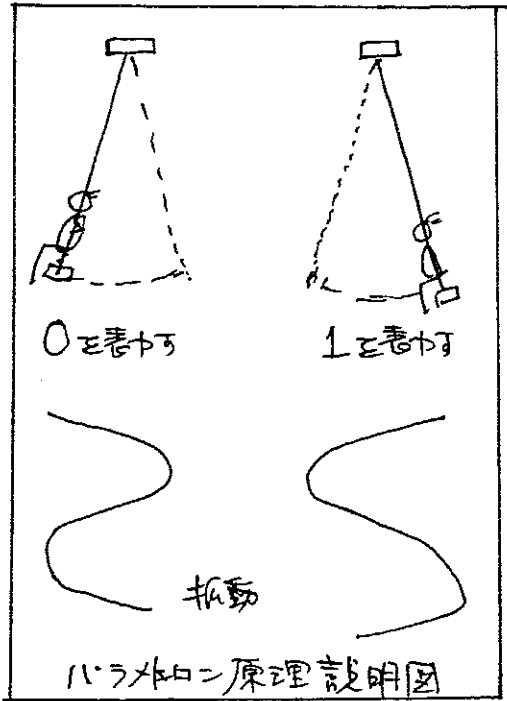
同じクラスに後藤英一と横原稔がいて、どういふいきさつか忘れたが、三

人で「共同研究」をしようということになった。カエルにどのくらいの電気を流せば死ぬか、というテーマである。エーコンから昇圧型のトランスを借り出し、ノミに頼んで日曜日に実験室の鍵を開けておいてもらい、校庭で運の悪いガマガエルを一匹つかまえてきた。トタンの解剖皿では漏電するので、板の上にじかにカエルをのせ、麻酔してから腹を開いて両腕に針金を巻いて通電するという、残酷きわまる実験である。ところがいくら電気を通しても、カエルの心臓は止まらなかった。半日ほど繰り返したあげくあきらめて、花壇のわきにカエルを埋葬して引き上げた。

さて彼の父君は、宮内省式部職（皇室の通訳）をされた方で、非常に国際的な家庭だったようです。ただし、母上は継母で、その遠慮もあつてか、週



若き日（助教授時代）の後藤英一君自ら開発した回路素子を手（私の最も好きな写真です）



の半分位は、私の家に入りびたりでした。当時うちの父は化学分析計の工場を始めた所で、彼がほとんどの回路設計をしてくれました。(何と豪華な設計陣ではありませんか。今私が会長をやっている東亜ディーケーケーの初期の頃の話です) したがって彼が放課後勉強してた事など見た事がありません。それどころか、試験の前になると、むやみに映画が見たくなると云って、私をさそっては映画館のハシゴをするのが通例でした。おかげで私はいつもひどい成績でした。学校では、当時ハシリであった軟派をおさえ、ラジオ派なるグループを結成し、その親玉におさまっていました。これは硬派の一部に属するもので、協力して当時はやりの

電蓄を作り、お客に売りつけては小づかいをかせぐ技術屋集団でした。そんなある日、彼がマツチ箱に入れたコイル状のものを取出し、私にこれで計算機の性能の良いものができる事を説明してくれました。つまり、彼の大発明「パラメロン」を最初に見たのはこの私です。彼の説明によれば、デジタル信号(0、1)にかえて位相を使った計算素子を実現したというのです。位相とは下図のプランコ(彼の図解による)のふれ方で0、1を表わすもので極めて革新的なアイデアであり、初期のコンピュータ素子の決定版といわれました。

彼はこの着想を大学時代に発展させ、何と卒業した頃には、パラメロンによる大型計算機が出来上り、実用化が行なわれるという急展開をとげ、一躍世界中から注目されるようになりました。

その後の彼の着想は広範囲なもので、

純物理である磁気のモノポール提案から、テレビブラウン管の改良研究、情報処理学会の主催しては自動車用エンジンの改良とまことに多岐にわたりました。このように彼はすばらしいアイデアマンであり、それを惜しむ事なく周囲の人々に開陳し、一致協力して難問を解決するという大きな仕事をこなして行くのです。彼のまわりには日本の頭脳ともいえるすばらしい人脈がたがり、それが単なる理論ではなく、

さて、ロスアンゼルス空港に機は無事定刻にランディングした。成田から約10時間煙草を吸う私にはチョットこたえたが、カリフォルニアワインを貰いシルベスタスタローンの映画を見て知らないうちに眠ってしまった目が覚めたらロス空港に着いていた。

生まれて初めて見る、USA空港である。ビジネスクラスのタイグウ(?)を受け、大きな体をのびのびとした10時間であった。

実は此の度こうしてロスに来たのは、

4時間4000円の  
エキストラからハリウッドへ

よこたこうし  
横田光史

チョットした装置は皆で組上げてしまいうという工学的センスもかねそなえていました。この辺がノーベル賞の小柴さんと共通するセンスです。彼が早くしてなくなってしまう事は大変残念ですが、彼のような天才と青年時代を過せた事は大きなしあわせであったと実感しております。終りに情報を提供して下さった奥様、菟世子さん、同級の久保盛唯さんに感謝いたします。

東亜ディーケーケー(旧高・25年)

過日(3〜4年前) キンカ・マツシヤーと言うハリウッドのディレクターが来日し、そのオーディションを受け、見事パス(社長役で)。コカコーラのCFの撮影のために訪れたのである。

私は、中学から成蹊にお世話になって、高校時代演劇部に入り「屋上の狂人」「三年寝太郎」などに出演した憶えがある。瀧秀彦氏と井原一雄氏とは同じD組で、私はこのお二人の考え方に大きな影響を受けている。瀧君は、営業一筋とことん損得を考えず人の為



につくす。井原君は弁護士がら真実、本物とにせ物、うそか本当か？この二面が私の目を開いた。本物、にせ物を見分け、人の為にとことんつくす。これが人間として、この世に生まれて死を迎えるまで、貫き通す姿だと思ったからだ。

思い起こせば15年ぐらい前、(株)綜芸企画(通称芸プロ)というエージェントから始まって4h¥4000のエキストラから余生は俳優として生きようと、志を立てての、やっと訪れた一生忘れられないハリウッドの仕事であった。

この芸プロの、土田嘉男氏と言うマネージャーにエキストラとしてのマネーから芝居を徹底的に教えこまれた。彼は、カノックスの今は故人となられた、久世光彦氏のお気に入り「オイ嘉ちゃん、芝居つけろ」等とかわいがられていた人である。この芸プロと言

うエージェントは歴史も古くしつかりした、エージェントである。私は運がよかった。

迎えの車でホテルに着き\$500のオコズカいを頂き各部屋に入った。アメリカは実に大きい、私の第一印象であった。でも空の青さやポツカリ浮かんだ白い雲だけは日本で見えるものと同じであった。

エキストラと言う仕事は、俳優さん達をより上げる仕事である。仕事に入ると何時に終るか分からない。弁当も出る時もあるが出ない時もある。交通費と弁当代を差し引き計算すると生計は立たない。アメリカのエキストラには組合があつて、生計の保障はされているそうだ。でも、役者さんでも、この点が真剣に芝居らしきものをするちやんと受けて下さる。

エキストラを始めて10年ぐらいたった頃であつたか、初めてセリフが来たのがあの高名な森光子さんの「時間ですよ」であつた。森さんとやりとりがあつて、ふと振り返ると、あのあこがれの篠ひろ子さんが「おじさんいらっしやい」と言つて立っておられた。私は裸ではずかしくあわててロッカーを左に曲がり、手ぬぐいをはずしたら場内爆笑がおこつた。それもそのはず、

私の全裸の前にカメラがあり、ドアツプで私のモノそのモノが写つていたのである。もちろんカットされたが、次回画廊の客で篠さんと一緒にしたときに「この前私あなたの裸見ちゃったわね」と言われまかつたくひや汗が出た。

池内淳子さんと言う女優さんとはとても出来た方で、横断歩道をトリ囲んで渡つたあと「皆様大変お世話になりました。」と。やはり役者も人間性が問われるのかとふと思つた。

又ある時は、ミニスカートをはいた若い女性が歩道橋を上がつていくのをあとから上りパンティーの色は何色かというシーンで、ミニスカートにカメラがついているので顔がモロにうつり、米代かせぎの管理人をしていた会社のOLさん達に「横田さん昨日TVで見たけどイヤラシーわねえ!!」と言われて説明に究した。

中井貴一氏や山本孝氏、山本圭氏に一緒にしたこともあつたが、勿論ご存知ないだろう。又ある時は東野英心氏(故人)の死体の後で白装束でサスペンションライトの下で、顔に白い布をのつけて、うっかり眠つてしまい、ふと気が付くと、まわりがやけに静かなので、恐る恐るおき上がると、誰もおらず、ADさんに「横田さんごめん忘

れてたよ」と言われたこともあつた。

又時代劇「はぐれ雲」の時、床やまさんが、頭の大きい私の為に夜遅くまで作つて下さつたづらをのせ、うっかり眼鏡をかけたなら大きな声でドナられ「俺はもうあんたのづらは作らねえ」とかかんかに怒られた。メガネのつるが、づらの横の手入れした毛を乱すからである。これだけ怒られると一生忘れられない。

「づら」で思い出したが、NHKのメイク室でふとトナリの人を見たらあの「北大路欣也」さんではないか、大物程静かで控えめである様な気がする。

づらでも鉄製のものもあつて重くてフラフラするわ痛いわ、富士の裾野までロケに行つて、つけっぱなしで参つたこともあつた。

私はこのエキストラの仕事に夢をかけた。好きだからこそ出来るのである。そして夢は実現した。なんと誇らしいうれしいことか、本当に自分がハリウッドに居るといふのが夢の様である。ハリウッドでの撮影は7日間のうち2日で済んだ。私は少し英語が分るのでこの英語であるが私の夢の一つである。ある日TBSの緑山スタジオで外国人と話していた時女性が近づいて来て「貴方はどこのエージェントの方です



朝食のケータリングで役者が集まったがいいが、メニューが英語でひとよわり!!

「辰芸者」と言うんですよとか。

USAと日本のスタッフの大きい違いは、どちらも職人さんではあるがDがADを台本で頭をひっぱたくと言う様な体育会系の雰囲気のある日本と、人権、人格をあくまで尊重してディベートで物事を進める、USAとではその点違う。人間として大いに見習うべきであろう。

さて5日間はフリータイムでマネージャーやコーディネーターの2人の東洋系の女性に案内されてあのピンホールのYシャツを着た、ビバリーヒルズコップスのエディーマーフィーで有名なビバリーヒルズとかスピルバーグの手形のあるなんか言う場所とか、夕食は何にしますか、ステーキですか、明日は中華ですかと色々案内して下さって、フリータイムを思う存分楽しんで。

日本に帰ってからもTVで放映されるビバリーヒルズコップス等を見ると、あーあそこを車で案内されたんだなあーと懐かしく思い出される。とにかくアメリカは大きいしクリーンである。

私はエキストラを始めて本当に良かった。三度の飯より好きだった、エキストラが、私に、いや私達家族にこんなすてきな思い出をプレゼントして呉

れたとは。今70才であるが、これからも続けるし、又ハリウッドへ行きたいし、人間夢を持つことがこんなにすばらしいことか、つくづく考える。

学生時代「うつ病」にかかり自ら命を絶とうとしたことが本当に母に対して申し訳がない。母1人子1人、母はひたすら私の将来に夢を託していたことか、その母も17回忌を迎える。母に一目ハリウッドへ連れて行って私のほれ姿を見せてやりたかった。エキストラと英語とこの2つを大事にしている本当によかった。

長男健一は、平成18年6月19日マンチェスター大学へ会社の命で留学した。今度はカミさんとマンチェスターを訪ねてみるのが楽しみであるが、ながらも一度あのビバリーヒルズへ母の遺影を持ってカミさんと二人で散歩したい。私の夢が叶った、思いきり両足で踏みしめたあのハリウッド、ビバリーヒルズよ!! 広いロデオロード、青い空、体が夢がどんだん、どんだん広がってゆく、あのビバリーヒルズよ、私は一生初心を忘れない。

長男健一は、ピーターフランクルと言う数学者の弟子になりジャグリングと言う大道芸をやる。その健一がお父さん、芸人は呼ばれるうちが華だ



津川雅彦氏と出演。筆者中央右

よ」だつてさ。芸人は呼ばれるうちが華。

ケッコウいいこと言うじゃん、なあー母さん健康に気を付け私も呼ばれるよう出番を待とう。

末筆乍ら、高校で英語をご指導頂いた、川合先生又大学で同じくご指導頂いた広瀬三男教授のご冥福を心からお祈り申し上げます。又、中学D組で世話になった吉崎恵次先生のご健勝、ご多幸を心から祈り上げます。先生どうぞお元気で!! では  
Good-by for now To every成蹊人へ。

稲川素子事務所(政経・37年)

か?」と聞かれた。その女性が稲川素子事ム所の社長稲川素子さんであった。私はその社長にスカウトされた。それ以後ずっと今もお世話になっている。しかしこの業界に身を投じた時、芸プロさんから生れて初めて仕事をし、芸プロさんなくして、この機はなかったのである。芸プロさんが元である。私は日本の事を外国人に説明しなければならなくなった。「辰芸者」とは江戸城から見て深川の方向は「辰」の方角にあたるから深川の芸者さんを



# 禁煙は思いやり

しばさきようこ  
芝崎容子

紆余曲折をえて勤め先の病院で禁煙外来を担当しております。六月に禁煙治療が保険適用になってから、禁煙外来を受診される方が増加し、喫煙できる場所が少なくなり肩身が狭くなったとか、健康の為に禁煙を決意されたと言われます。一方、喫煙者はタバコを吸う吸わないは個人の趣味、嗜好の問題とか、この年まで吸ってきたのだから今さらやめるつもりはない等と言わ

れます。本当に喫煙は個人の問題で、高齢になって禁煙するのは意味が無いのでしょうか？私が禁煙に初めて興味を持った奈良女子大学の高橋裕子先生著「こちら禁煙外来。38のちよつとい話」の中の一章をご紹介します。

「Aさんは85歳で慢性気管支炎がありますが、病院へはよほど悪化した時しか来ません。普段から息切れがひどいAさんは自宅から病院までの歩いてたつた5分の距離でも、わざわざタクシーを呼ばなければならぬのです。

ある日、「一日40本のスモーカーです。宜しく」と院内の紹介状を持って、車椅子で高橋先生の禁煙外来に来られました。Aさんは20年前に奥さんに先立たれてから一人暮らしです。息子達も寄り付かず、趣味もなく、陽の当たらない長屋の一室で毎日テレビを見ながらタバコを吸っていると言います。「早くお迎えが来て欲しい」がAさんの口癖です。高橋先生の勧めに義理堅いAさんは、「だまされたと思って三

日だけやってみましょう。」と言って帰りました。

二週間後、Aさんは歩いて診察室へ来てこの二週間のことを淡々と話し始めました。禁煙して二日目の朝、起きて雨戸を開け、朝の空気がうまいのにびつくりしたこと、その翌日いつもより咳が少なく思い切って近所まで出かけたこと。

「先生、田圃の畦、歩きました。こんなこと久しぶりです。そしたら、先生雀が鳴いているんです。見てたら本当にかわいいもんで。この年でもう何にも楽しい事なんてないと思ってたけど、歩けるようになって本当によかった。禁煙のおかげだと思いました。」Aさんは三日の禁煙のつもりを延ばしました。一週間目には土手沿いの短い坂道を歩いて登り、十日目にはもう一生乗ることはないだろうと思っていた自転車を引きっぱり出して乗ってみました。そして二週間目、自転車で土手の坂道を登って外来まで来たのでした。」

Aさんのような慢性気管支炎と肺気腫を合わせてCOPD（慢性閉塞性肺疾患）と呼びます。代表的な症状は、咳、痰、息切れで放置すると肺の機能が低下し酸素ボンベが手放せなくなり、COPDの9割近くは喫煙が原因

因です。長年タバコなどの有害物質を吸うと、気管支が炎症を起こし肺の細胞が壊れ、呼吸機能が低下するのです。他に、タバコの健康被害はどんなものがあるのでしょうか。タバコの煙に含まれる約4000種類の化学成分のうち、有害物質として認定されているものは200種類以上に上り、そのうち40種類以上が発ガン物質です。その中には猛毒のシアン化イオキシニンなども含まれますが、なかでも体に対し有害性が大きいのがタール、ニコチン、一酸化炭素です。

タールはいわゆるタバコのヤニと呼ばれるもので、付着部位の上皮の発ガン物質として、一部は唾液と共に飲み込まれ消化管に付着し、又肺から血中に吸収されて全身の臓器に達して発ガン促進物質として働きます。これにより一般に知られている肺癌だけでなく、口腔や咽喉の癌から喉頭癌、食道癌、胃癌、肝臓癌、膵臓癌、大腸癌、膀胱癌、子宮癌など全身の癌の発生率が高まるのです。タールをうさぎの耳に塗って初めて皮膚癌を発生させた有名な実験は既に半世紀前に行われています。一日当たりの喫煙量が増すほど癌の危険は高くなり、非喫煙者と比べると、全癌の危険性は一日10本未満では1・

3倍、20本まででは1・9倍、40本以上では3・2倍になります。先進国では禁煙についての取り組みが進み、癌患者数は抑えられるようになり、肺癌は減少しています。しかし日本では喫煙率は依然として高く、男女共、肺癌の死亡率は上昇しています。10歳代で早く喫煙を始める程、未熟な細胞の遺伝子が傷つき、肺癌になる確率が高くなります。子供たちがいつでもタバコを買うことのできる自動販売機の設置は大きな問題です。タバコの自動販売機が全国津々浦々あるのは世界中で日本とドイツだけです。でもドイツのは木製で小さく、どこにあるのかわからない位地味なものです。日本の将来を担う子供たちがタバコの煙と縁がなく育つよう、タバコの自動販売機は撤廃されるべきだと思います。

次にニコチンはタールと異なり表面に付着するのではなく、毛細血管に吸収されて、数秒後には全身に達します。ニコチンは、交感神経系を刺激して末梢血管を収縮し、血圧上昇、心拍増加をきたします。又、ニコチンは喫煙後数秒で中枢神経系に達します。中枢神経の神経細胞間の伝達物質としてセロトニンやアセチルコリン等があります。脳に入ったニコチンはこれらの神経伝達物質にとって代わって神経細胞間伝達物質として働きます。これによって覚醒と不安抑制などの効果が出るわけですが、常習喫煙者では長年のニコチンの使用によってセロトニンやアセチルコリン等の神経伝達物質を自力で分泌する能力が低下しており、喫煙してニコチンを取り込んでようやく非喫煙者と同レベルに回復することが確かめられています。つまりタバコはその人本来の中枢神経の能率のレベルを上げるものではないのです。

次にタバコの煙には一酸化炭素が4パーセント含まれています。私たちの体では肺から取り込まれた酸素は血液中のヘモグロビンに結合して全身に回ります。喫煙すると一酸化炭素が酸素に代わりヘモグロビンと結合して全身に回るので慢性的酸素欠乏状態を作りだします。これにより運動能力の低下をきたし、反応性に血中の赤血球数が増加します。又血管内皮を障害すると共に、HDLコレステロール(善玉)を減少させ動脈硬化を促進させます。胃腸の血流も低下しますので、胃潰瘍、十二指腸潰瘍が治りにくく、これらの潰瘍の再発が非喫煙者の倍になると報告されています。又喫煙によりビタミンCが破壊され、皮膚の老化をきたす

他、脱毛、歯周病の増加やインポテンツ(勃起不全)が起ります。以上喫煙により、高血圧、動脈硬化、酸素欠乏症、血液粘調となり心筋梗塞や脳梗塞の原因となります。クモ膜下出血の発生は、喫煙者は非喫煙者に比べ男性では1・6・6倍、女性では2・2倍と高くなります。ところで、タバコの煙は本人がフィルターを通して吸う主流煙と、タバコの中から立ち上がる煙と本人の吐く息を合わせて副流煙と言いますが、有害物質は副流煙に多く含まれています。副流煙は主流煙と比べ、タールが3・4倍、ニコチンが2・8倍、一酸化炭素は4・7倍多く、発癌物質であるニトロソアミンは52倍、ベンゾピレンは3・7倍多く含まれています。非喫煙者が副流煙を吸わされてしまうことを受動喫煙と呼びますが、飲食店、職場や家庭などさまざまな場所で起こります。喫煙の許されているレストランで働くウエイトレスさんの肺や心臓の病気になる死亡率は、他の職業についている女性より高いので、欧米や豪州などの先進国では、レストランやバー店内において喫煙を禁止する州法や条例が次々に誕生しています。日本でも最近、学校、劇場、駅、バス等での禁煙

の表示が目につきますが、これは2003年5月、他人のタバコの煙による受動喫煙の被害防止を法律で定めた健康増進法が施行されたからです。妊娠中の喫煙が早産や死産などの原因になることは広く知られています。喫煙する母親の赤ちゃんは非喫煙の母親から生まれた赤ちゃんに比べ、生下時の身長、体重が劣っています。又、生まれてからも発育が遅れたり、気管支炎や喘息、中耳炎にかかりやすくなる他、乳幼児突然死症候群の危険度が5倍近くになるという報告もあります。母親がタバコを吸わなくても、近くに喫煙者がいれば赤ちゃんは胎内にいる時から受動喫煙の影響を受けることになります。

又、喫煙は、外科手術後の様々な合併症の原因になります。子供の全身麻酔による手術後の呼吸器合併症においても受動喫煙の影響は明らかです。最後にタバコを吸うと効き目が低下する薬があるという事実を紹介します。タバコ煙に含まれる多環芳香族炭化水素やダイオキシンは肝臓や腸で薬物を処理する数種の酵素を増やす働きがあります。その為、抗精神病薬、抗うつ薬、喘息薬(テオフィリン)、降圧剤(インデラル)、抗不整脈剤(リドカイ



ン)、解熱鎮痛薬(アンチピリン)、抗血栓剤(ヘパリン)、抗潰瘍薬(タガメット)、インスリンなどが喫煙によって体から早く排泄されるので効果が低下してしまいます。例えばテオフィリンの血中半減期(濃度が半分になる時間)は非喫煙者で7〜9時間ですが、喫煙者では4時間程度に短縮します。テオフィリンの血中濃度低下は受動喫煙でもおこります。又麻薬に近い鎮痛剤であるソセゴンもグルクロン酸抱合に関与しますので喫煙者では代謝が40パーセント増加していると報告されています。これらの喫煙による酵素誘導の程度は人によって違い、禁煙によって短期間で消えたり、数カ月以上も続く人もいます。心筋梗塞や癌などのタバコ病が発病してから禁煙しても、術後の不整脈や痛みを和らげる薬が効きにくい可能性があるということになります。

日本の禁煙対策は先進国に比べ30年遅れていると言われています。私も30年前からこれらの事実を知っていたら、どんなにたくさんのお客さんに禁煙指導できた事でしょう。30年前というと私は医師として夢中で仕事を始めた頃です。しかしその頃からすでに禁煙活動をされていた方々がおられました。その方々のご尽力によりやつと昨年9月、禁煙に取り組む9学会(日本循環器学会、日本肺癌学会、日本口腔外科学会、日本産婦人科学会、日本小児科学会、その他)が厚生省に禁煙治療に対する保険適応の要望書を提出し、平成18年4月よりニコチン依存症を保険対象の疾病として認め、6月よりニコチンパッチも保険収載されました。福島県の病院長の元日本医師会長、坪井榮孝先生も30年前から青少年の禁煙に力を注ぎ、「自分は子供たちや患者さんに禁煙を勧めているのだから、病院職員は全員禁煙しなければいけない。」と病院をあげて禁煙されていたそうです。そういう職場に勤めていた職員やその家族は本当に幸運だったと思います。成蹊の卒業生には、各分野で指導的立場で活躍されておられる方々がたくさんいらっしゃると思います。どうぞ、職場の方々のために、その家族の為に是非禁煙を勧めて頂きたいと思えます。

昔は禁煙することは大変な精神力や忍耐力を必要としていました。しかし1994年ニコチンガムが販売され、1999年にニコチンパッチが治療用に認可されてから、離脱症状を和らげる方法により日常生活に支障をきたすことなく、容易に禁煙できるようになりました。朝起床時、タバコを吸いたいと思った時にニコチンパッチを1枚貼り、夜寝る前にはがします。2ヶ月かけて大一中〜小とパッチを小さくしていきます。6月からプリンクマン指数(一日喫煙本数×喫煙した年数)が200以上というような条件に合えば、ニコチンパッチが保険診療で処方できるようにになりました。

Aさんが禁煙して行動範囲が広がり、楽しみが増えたように、禁煙すれば一人一人違いますが何か良い事が必ず起こります。禁煙すれば皮膚は若返り、運動能力は向上し、胃潰瘍や歯周病が治ります。癌の恐れや火事になるので、はという不安もなくなります。なによりもあなた自身の健康を心配していらつしやる家族の方がどんなに喜んでくれることでしょう。禁煙することは自分の健康の為ばかりでなく、家族や職場の仲間たちへの思いやりなのです。一人でも多くの方が禁煙され、禁煙支援をされることを祈っております。

国分寺病院(高・41年)

お知らせ

成蹊高等学校卒業生の皆様へ

平成18年10月頃、成蹊高等学校卒業生を対象にしたと思われ、『成蹊高等学校同窓会名鑑』発刊に関する内容の往復はがきが「人事新報社」より、送られており、成蹊会に問い合わせが寄せられておりますが、成蹊会が発行いたします名簿とは、一切関係がございません。ご理解のうえ、ご対応下さいますようお願い申し上げます。

# 学校・年次会 のしどろい

## 葉桜会

は様々です。

今回は全員が60歳になるこの時期を選んで「祝還暦！葉桜会」として開催。内容も還暦に相応しいようにと高校卒業以来42年の間に生み出した「作品」「記録」等々を展示するコーナーを設け、皆さんに出席を依頼しました。プロになった人の作品、はまってしまった趣味の披露、子育てに一段落してからの海外留学の報告など充実した「葉桜ギャラリー」が実現しました。又、獣医師の中川さんの

4月16日、11回目の「葉桜会」を霞ヶ関ビルの東京會館で開催しました。「葉桜会」は同期の女子だけの会で、昭和27年4月から39年3月までの間に成蹊小学校・中学校・高等学校(高15回生)のどこかに在籍した約60名が会員。成蹊の同窓会の中でもユニークな存在ではないでしょうか。創立は15年前で、「葉桜」のネーミングは爽やかで力強い成蹊の女子のイメージに合っている(？)と投票で決まりました。開催時期・内容は全て幹事に一任で、幹事は高校卒業時のクラスの持ち回りです。講演会の時あり、食事会の時あり、ウォーキングの時もと企画

「最近の脳科学から・子供を人に育てる」、医師の茂木さんの「生活習慣病について」と題するミニミニ講演は参加者の関心が高く、再度講演の機会をとの声を多数聞かれました。

次の投稿は喜寿か米寿か…お楽しみに！

金森禮子(高・39年)



## 大学卒業三〇周年

平成十八年五月二十日(土)

午後四時から品川の開東園において、昭和五十一年度成蹊大学卒業の全学部合同「大学卒業三十周年記念同窓会」が開催されました。

当日の天気予報は雨の心配が

あり、スタートの全体写真が撮れるか心配されましたが、写真撮影をお願いしたアパッチ先輩の気合で見事晴天となりました。開東園もバラが満開のシーズンで、同窓会開始前に皆バラ園を散歩するという優雅な雰囲気でのスタートとなりました。

学校側からは、岸成蹊学園理事長のご祝辞、栗田成蹊大学長のご挨拶、成蹊会から学生会長のご祝辞を賜りました。司会進行はゴルフ部の桑島冬樹君・杉山美紀子さん、同窓生の開会挨拶は体育会本部長の本多紀雄君、突然の指名で野球部の両角雄功君(現成蹊高校教頭)のご挨拶、お開きの挨拶はラグビー部の小生という若干体育会色の強いメンバーでの進行となりました。

君は会を間近に控えた四月、辞令によりニューヨークへ赴任、その後を前田周一郎君に引継いで頂き、同窓会が盛会に開催できたのも両名の力による所大と感謝しています。

大学卒業三十周年同窓会です。出席者は五十二歳以上、外見的にはかなりパラツキが出てきました。会が始まるとあつという間に三十年前にタイムスリップをしてバラツキが消え、大いに盛り上がりました。お祖父さんお祖母さんになった人も出てきましたが、今日の皆は完全に独身に戻っていたと思えます。

今回の大学卒業三十周年記念同窓会を機に、又成蹊の輪が広がり、第二の人生をスタートす

昨年十一月から幹事会をスタートさせ準備を開始しましたが、成蹊会が高橋章建様を中心に全面的にバックアップをして下さり、幹事会としては出席者の勧誘に集中できました。そのお陰で、二百七十名の出席者と盛大な会となりました。幹事会も良くまとまり、実行委員長であるサッカー部の丸田讓二君

(約一年間準備に携わった丸田



頃四十周年記念同窓会が今以上に盛大なることを期待します。皆で、桃や李の木の下に蹊を成す様に集まりましょう。

(幹事) (工) 伊藤宏・島田寿正・関本孝三・高橋道哉・西村香子・松田成樹 (文) 猪飼真由美・井上町子・今村加代子・高山知也・南雲一乃・古屋郁子・矢部京子 (経) 井口三津子・小山隆也・片岡健・鶴田潔・本多紀雄 (法) 飯村正高・植木和子・川西由美・桑島冬樹・杉山美紀子・野村和也・前田周一郎・松岡正子・溝呂木秀悦 以上卒業時姓にて記載

小山隆也(経・51年)

### 蹊電会

平成18年7月8日(土)、恒例の蹊電会(電気電子工学科同窓会)特別講演会、総会・懇親会が開催されました。

当日、13:30~14:45は特別講演で、講師は㈱デュープロ社長の志磨克彦氏(13回卒)、演題は「自動認識技術が広げる新し

い世界―POSからユビキタスへ―です。あらゆる商品の配送・貯蔵等にユビキタス技術が浸透し革新が行われていることが良く判りました。

その後、15:00~17:00に総会並びに懇親会が10号館12階ホールで開かれました。

冒頭に、平成17年11月30日逝去された相田実先生に全員で黙禱を捧げました。また、豊田淳一先生を囲む会が平成17年10月15日に10号館12階ホールにて開催されたこと、窪田啓次郎先生を囲む研究室のOB会が平成18年4月20日に開催されたことの報告がありました。

引き続き、懇親会に移り、島田会長の挨拶、水上先生の音頭による乾杯、電気電子工学科瓜

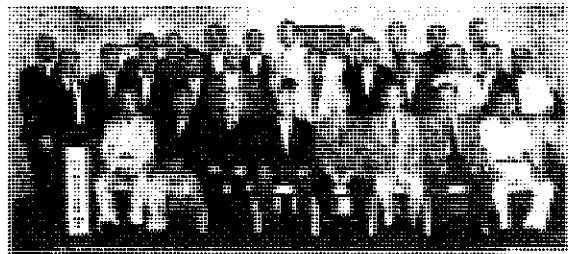


講演中の志磨克彦氏

生主任教授の挨拶、出席された水上、桐澤、涌井の各先生の挨拶、15回生の国司行相さん、38回生の安達弥真人さんの近況報告等があり、和やかに進行して午後5時に記念撮影の後にお開きとなりました。

なお、当日の出席者は、以下の通りです。

恩師の先生: 水上憲夫先生、桐澤潔先生、涌井秀治先生。  
卒業生: 明山哲(1)、石郷岡猛(1)、前田則一(1)、森山善弘(1)、大久保泰之(3)、津田野栄一近(6)、瓜生芳久(8)、国井一夫(8)、島田寿正(11)、志磨克彦(13)、鈴木智(13)、近藤茂雄(14)、近野



宏(14)、国司行相(15)、江幡真(19)、萩原秀治(19)、篠宮克巳(31)、佐藤昌代(32)、安達弥真人(38)、菊池宏直(40)、伊藤正彦(41)、植松大輔(41)、宋泰樹(41)、深野翔平(41)

石郷岡猛(工・41年)

### 高等学校(第12回)

1961年

### 卒業45周年同窓会

我々12回生は、5年毎に全体の同窓会を開催しています。今回は2006年7月8日(土)に卒業45周年を記念して教習屋橋ニユートーキョー本店「ラ・ステラ」で開催しました。

前回2001年は40周年を吉祥寺で開催、それ以降「還暦の会」「同期の栗田学長・谷中高校長の就任お祝いの会」等、この5年間に2件の大きなイベントも開催されました。

今回は、平田博則先生、中島知先生をお迎えして約90名の同窓生が一同に介し、旧交を温めることが出来ました。

我々の年代は丁度65歳直前で

すので、まだ会社に在籍の者、既に退職しのおんぼろになっている者、子供を結婚させるべき奮闘中の者、孫が一杯で爺婆実行中の者、両親の介護に追われる者等、いろいろ存在するのが現況でございます。

また同期の約1割、25名の方が既に亡くなられており、会が初めに黙禱をささげました。

司会は、畑口(大塚)裕紀子さん、福田(赤松)美弥子さんの2名にお願いしました。すごいアットホームの雰囲気となりお互いの健康を祝し、卒業後の人生を語る良い機会となりました。しかし話に夢中になると即高校時代に逆戻り、お酒はどんな無くなりませんが、お料理はいつもながら一杯残してしまうのは誠にもったいないことですね。

2人の先生も大変お元気の様子で昔と変わらないスピーチをいただきました。甚のような趣味を持ってほけない、常に健康維持に注意せよとの話があり、我々は深く受けとめてこれから人生に向けての励ましをいただくこととなりました。

今こうして生かされてこのよ

を感じなければいけないと思います。

最近、成蹊学園の創設者中村春二先生の建学の精神がテレビで放映され注目されました。もう一度、桃李成蹊を覚えて生きて行きたいものです。

会の終了近く、昔の卒業アルバムから集合写真や思い出の映像、40周年以降の各イベント映像を纏めたビデオが放映されました。

特に卒業時の写真に自分を見つめ、また頭髮たつぷりの友人を見つけ、大きな歓声があがり、楽しい思い出がよみがえりました。今生きてこうして皆さんと再会でき、お話が出来ることがどんなに素晴らしいことか・実感できることができました。

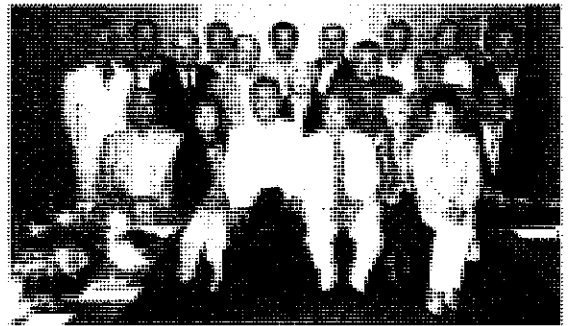
さて次回は卒業50周年2011年に開催予定です。5年後にまた健康で再会できることを祈って、楽しかった会はお開きとなりました。

今回参加できなかった方は次回には顔を出してください。

佐伯 紘(高・36年)

## 昭和23年卒業 小学校西組 同窓会

7月20日は本格的な夏の前奏曲と言えるような陽気で、行き交う人も日陰を求め思わず汗を拭う程の猛暑となりました。『吉祥寺東急インは駅の直ぐ前だから汗をかく暇もない』と場所の選定は好評で、遠路三島・黒磯から駆けつけた方々、文芸春秋に投稿記事が記載されたVIPのT君が東組から特別参加され、定刻の12:30pmには総勢22名が揃い、開催のはこびとなりましたが、46名中物故者や連絡出来ない方8名を除けば、皆様方の旧友への思いが溢れる集いであることが察せられます。それだけに、深々と降る雪中の小学校入学試験、戦中に類焼を避け取り壊された木造校舎、辛かった疎開学園の思い出話、戦中本館の周りに張巡らされた防空壕と兵舎跡の工作室、遊ぶには事欠かない校庭の広さと緑が取り巻く恵まれた環境の話から、防空壕探検や葉蒔拾い、火



の無いストロブの煙突を使った私設校内放送?本館廊下のボール遊びやどんぐり合戦、所謂「禁じられた遊び」や厳しい罰ゲームとその受刑者の話等、個別の近況報告に話題が集中しても、何時しか幼かった日々の思い出話に戻って仕舞うことは、当時育まれた屈託無い在りし日の思い出が、今も心の片隅に焼き付けられているからと思われました。こう言ったエピソードの登場人物は何故か優等生ではなく、常に遊び心と悪戯の先進的インベーターであることも付け加えておこなうてはなりません。この外に理化館の取り壊しと

新校舎の普請や本館のドレスアップ、果ては震災が無ければ本館に塔が設置されたと言う奇談迄飛び出す等話は尽きず、会話のサークルが小集団に分かれたり退席者も無いまま、同じ話題を中心に3時間も語り合えることは、お互いの絆が未だ解れることなく結ばれていることを物語っておりました。少し経ったらまた集まろうぜ!の合言葉の基、再開を約し終会となりました。

幹事一同

## 宇野ゼミ同窓会 総会・宇野先生 喜寿のお祝いの会

7月22日(土)10号館ホールにて18年度『宇野ゼミ同窓会総会・宇野先生喜寿の会』が開催されました。今年は先生の喜寿のお祝いも兼ねて行い、57名の参加者でした。

総会では、1年間の活動報告、会計報告を行い、有志で続けている生涯学習研究会の活動報告も行いました。

その後「喜寿のお祝いの会」

に移りました。最初に湯山代表幹事(48年)よりのお祝いの言葉から始まり、ご来賓としてご出席いただいた法学部加藤節、亀嶋庸一両教授よりお祝いと成蹊時代の宇野先生との関わりについてお話いただきました。その後同窓会より花束、記念品の贈呈がありました。宇野先生からは、島根県立大学大学院が今年度先生が取組責任者で文部科学省の「魅力ある大学院教育」イニシアティブで北東アジア研究科の教育プログラムが新規規程として採択されたことが紹介されました。また「これからの時代受身であつてはならない。自分の人生どう特徴を作り出していくか、常に新しいものを求



め積極的に生きていこう」というメッセージを私達にいただきました。最後に奥様から先生の家庭でのお姿などが披露されました。

懇親会は、恒例の出席者の1分間スピーチがあり、途中からは先生のご長男（宇野重規東大助教授）とお孫さんも加わりアットホームな雰囲気の中で終了しました。詳細につきましてはHP <http://www1.parkcity.ne.jp/mosoni/>をご覧ください。  
岩尾英之（法・55年）

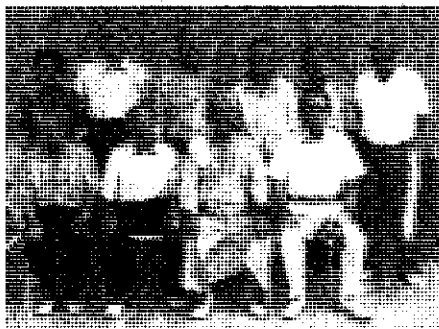
## 61年ぶりの成蹊箱根寮

8月3日に、61年ぶりに、箱根寮を訪れました。我々昭和18年入校組は、太平洋戦争が激化し、東京も3月10日と5月25日の大空襲で焼け野原になった昭和20年6月に、急遽、箱根寮に疎開しました。引率の先生方は、数学の鈴木一郎先生と川上芳郎先生と英語の清水護先生、及び谷岡喜久蔵先輩でした。ここで、の生活は、晴耕雨読の毎日で、

バラックみたいな寮の四つの大部屋に寝て、粗末な食事の時を過ごしました。

終戦後、東京に帰りましたが、成長期の少年たちには、忘れがたい経験でした。疎開したのは約50人ばかりでしたが（正式な記録は残っていない）、今回の参加人員は9人（一人はご夫人が同伴）でした。もう75歳以上になっているので、参加したくても都合により、或いは健康上の理由により、人数が限られました。参加した方々は、赤石定次、石坂泰彦、岡田昭五郎、相馬誠吾、伊達洋一、永田明、宮崎俊吉、宮本雄治と岩崎洋一郎でした。

東京からバスを仕立て、湖尻から船に乗り、駒ヶ岳の頂上にケーブルで上つてから寮につき



夕食を共にしながら歓談して、その夜宿泊する3人を残して、後の6人は帰京の途につきました。

寮の建物はもちろん建て替えられて立派になり、その位置も大幅に移っていて、今昔の感がありません。しかし、往時を偲び、小涌谷から元箱根まで徒歩で荷物を負って間違つたに歩いたこと、寮の肥液みをして畑の肥料にしたこと、進駐軍が小銃を構えてジープで乗り込んで調べにきたことなど、話題は尽きませんでした。

岩崎洋一郎（旧高・25年）

## 高校17期卒業生によるクラス対抗ゴルフコンペ

9月10日（日）埼玉県の新武蔵丘ゴルフにおいて、高校17期卒業生によるクラス対抗ゴルフコンペ「66 全蹊オープン」（名称がやや大きすぎではありませんが）が開催されました。今年で7回目になります。今回は51名という多数の参加となりました。皆熱心で、一時間前には



全員集合しているという状況でした。

当日は9月とは言え、関東地方では真夏の陽気となり、最高気温33度の酷暑の中の戦いとなりました。I組を担任された横手先生が最高齢でご参加いただきましたが、無事最後までプレイしていただきました。

ダブルペリア方式によりクラス対抗と個人戦を競いましたが、個人優勝はF組の松本君、団体優勝はI組でした。

試合後の表彰式では、2年後輩のゴルフクラブデザイナーで

有名な竹林隆光君に講演をしていただきました。学生時代の授業とは異なり全員が少しでも上手くなるうと熱心に聞き入り、質問時間も短縮するほどでした。

竹林君から人気のMT-28というアプローチウエッジが賞品として提供されるなど、大いに盛り上がりました。

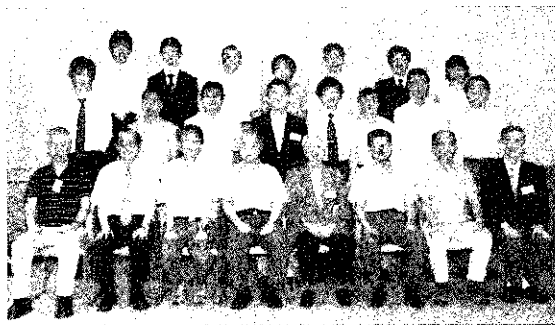
次回から幹事はA組から順番の持ち回りとなり、来年再会することとしてそれまで精進を重ねることを誓いました。尚、次回新規に参加希望の方はA組幹事 佐藤隆さん・赤松義生さんへご連絡ください。

高橋 明（高・41年）

## 蹊電一期会40年会の報告

平成18年9月30日（土）、卒業40年を記念して電気電子工学科第一回卒業生クラス会「蹊電一期会40年会」が開催されました。

当日は、会に先立ち、発展著しい母校の近況を視察するため、のキャンパスツアーが行われ、



名古屋から藤村泰充君、長野から中井俊機君が参加してくれて、旧友や恩師の先生と楽しい語らいに大いに会は盛り上がりしました。

なお、当日参加された方は以下の通りです。

恩師の先生…水上憲夫先生、杉沼義隆先生、豊田淳一先生、野垣正義先生。

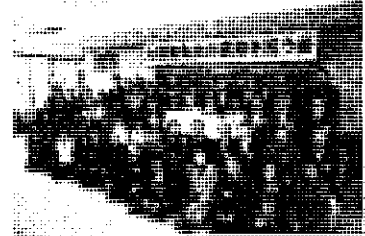
卒業生…阿部喬、明山哲、石郷岡猛、伊藤眞、沖勝彦、川生修、菊地隆、岸継名、北村一彦、窪田信孝、齋藤勲、齋藤知茂、柳原直次、佐藤和夫、鈴木紘一、関矢孝雄、高野照日、多賀三朗、中井俊機、中村暢男、藤村泰允、前田健雄、前田則一、水野勝之、森山善弘、山田道夫、横須賀良夫、和田俊男

石郷岡猛(工・41年)

## 大塚直先生の 喜寿のお祝い会

当日の参加者は、先生方も含めて32名に上りました。遠くは台湾から前田健雄君が参加してくれました。また、大阪から中村暢男君、伊勢から齋藤勲君、

平成十八年九月三十日(土)  
成蹊大学一〇号館にて、かくしやくとした大塚直先生をお迎えして、喜寿のお祝いの会が盛大



に開催されました。

大塚先生は昭和五年(一九三〇年)四月十九日に京都でお生まれになり、東京教育大学を卒業後、昭和三十九年に成蹊高校へ体育の教師として着任されました。平成七年まで三十二年間にわたり教鞭を執られ、昭和四十三年、五十年、五十六年、六十一年に卒業生を送り出されました。クラス替えのあった学年があり、都合七クラスをご担任されましたが、今回は七クラスでの教え子八十名強がお祝いの会に出席しました。開会にあたり、四十三年度卒業生の同期で、現在成蹊中学・高校の副校長である吉崎純二氏にご祝辞を頂戴し、更に各学年の代表に挨拶をして戴きました。大塚先生を囲み、昔話に花を咲かせたり、近況報告したり、約三時間にわたり楽しく和やかに時が経つ

を忘れて過ごしました。会の途中で大塚先生には喜寿のお祝いとして記念品と花束が贈呈され、非常にお喜びになられた先生を拝見して、参加者一同も大変嬉しくなりました。

会の締めは字らん姿の幹事による指揮で校歌斉唱となり、最後に大塚先生を交え全員と各学年ごとの記念撮影で、楽しくお

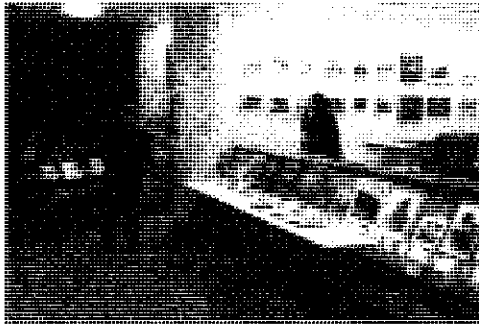
開きとなりました。  
大塚先生は現在も都立高校で社会人を対象にした生涯学習クラスや、市立中学でバドミントンやテニス、書道の講師としてお元気に活躍です。次回は傘寿のお祝いでまた集まろうと誓い合った次第です。  
小田部裕(高・43年)

## 体育会・文化会・OB会 趣味のじぎい

### 写蹊会写真展

懸念された雨に見舞われることも無く、例年と変わりなく満開の桜が、開会前から来校されたお客様をお迎えしておりました。  
今年も学園側のご好意で、去

年同様史料館二階ロビーを拝借し、広い壁面を埋め尽くす秀作が展示されましたが、好都合なのは案内通りに参観すると、同じ導線を二度通らないで全部の作品を見ることが出来ることです。写蹊会結成以来8年の平均を遙かに超える84点の作品が展示され、これも例年を上回る236名の方々が来訪されました。特に気付いた事は今年の作品特性の傾向として、静的な風景写真が減少し、動体を追う作品



が増える傾向が見られ、特に風景描写の中に動体のアクセントが加わるものや、スナップ等でも動作の中で更に動体の表情を強調する作品が増えたことで、画面に作者の主張する意図が表現され、年々向上の足跡が見られるとの声も聞かれることから来展された方々の心に何らかのプラスの印象を与えたのではないかと思います。

一方お客様サービスとして、お友達やお子様連れで来られた方を中心に記念撮影をし、即プリントアウトし進呈したところ、非常に好評を得ました。

尚、今年には桜祭写真展開催の創生期からご協力下さった野田先生の代表的遺作を、明るい窓辺の休憩所卓上に展示しました

が、武蔵野の初秋を描写した風景の中で、静かな時の流れを感じさせる作風に、多くの方々が先生の人柄を偲んで居られました。今後も来年度の写真展を目標に、より深い感動を与えるような作品創りに努力し、ご来訪のお客様の期待にお応えしたいと感じて居ります。

写真会世話人一同

## 大久保宗碩 (捨蔵) 先生 墓参会

成蹊大学茶道部では平成二十一年の創部五十周年に向けた企画を毎年実施しています。OB稽古、ホームページ開設に続き、今年の四月十六日(日)には初代師匠の大久保宗碩(捨蔵)先生の墓参会を行いました。

当日参加者は、大久保先生のご親族、成蹊茶道会の旧成蹊職員を含めた茶道部OB・現役、茶道部関係者合わせて40名を数え、武蔵五日市駅に集合するとお墓のある「龍珠院」へ向かいました。桜が咲き誇るお寺は桃源郷を思わせる目にも素晴らし

い小高い場所にあります。

龍珠院本堂で任職に読経をいただき、参加者全員で「般若心経」を唱えると本堂全体に響き渡りました。その後、本堂裏手にあるお墓を清め、一人一人がそれぞれの思いを胸に手を合わせました。

墓参の後、龍珠院そばの石焼料理の店「光明山荘」で懇親会を行い、参加者それぞれが大久保先生の思い出を語り合うと、懐かしい時間が過ぎていきました。

懇親会の後、茶道部ゆかりのお寺「大悲願寺」を訪れました。あいにく加藤章雄住職(工一回)はご不在でしたが、今回の墓参に参加の住職の妹さん後藤弘子さん、姪の茶道部OB竹田喜久子さん(文19回)に案内さ



れ、寺所蔵で大久保先生が襖大の板に彫られた観音像が披露されると、一同感激してしばし見入りました。由緒あるお寺と茶道部との関係に、不思議な縁を感じました。

高橋章建(法・60年)

## 成蹊ラグークラブ 桜祭り

好天に恵まれた「みどりの日」の平成18年4月29日、毎年恒例となった「成蹊ラグークラブ・桜祭り」が新緑に囲まれた学園グラウンドで行われた。

小、中、大学の各チームの選手、OB、先生方、家族など、300名ほどが集り、懇親、交流、旧交を温める催しとなった。当日は、成蹊オーババー40OBチーム対学習院同。中学生チーム対オーババー50OB。成蹊オーババー30OBチーム対学習院同。大学現役チーム対若手OBの4ゲームが行われ、いずれも熱気の入ったゲームが展開された。今回も父母会のご好意による焼きとり、ビールなどの模擬店

もあって、グラウンドで奮闘する選手に熱い声援がおくられた。本年はとくにオーババー30OBのゲームで27対5のスコアで勝利をえた成蹊チームに「桜桃杯」のカップが贈られた。

正午には一同でメモリアル前に集合、物故者を偲び黙とう。ラグークラブ高島信之会長(旧高20回)、成蹊会齋藤悠常務理事(政経17回)、続いて遺族の方々から献花が行われた。

高島会長より、シーズンに向かって、現役各チーム選手へ、ベストを尽くして健闘するよう激励の挨拶があった後、昨シーズンとくに活躍した優秀選手へ「キヤップ」が贈られ、又、新しく戦力となる新入部員の夫々





部歌を合唱し、盛会裡に終了した。

原 一郎 (政経・28年)

## 写蹊会 前期撮影会

「前回鎌倉で行われた撮影会は健脚向きどころか、鎌倉武士に似合った「剣客向き？」の険しいコースだった」との酷評もあることから、今回は趣を変えて好評だった東京旧市内の続編であり、在りし日の文豪や高名な写真家が好んで散策した日暮里(タタスマイ)と江戸後期からの由緒有る寺町を撮影対象に選び、三回の下見を経て、必見の撮影ポイントと多少のグルメモもできる遊び心溢れる企画を立ち上げました。当日6月10日は梅雨の中休みで好天に恵まれ、今回は男性陣23名が日暮里駅に集合、予め目標を記した地図を頼りにスタート、彰義隊を狙った弾痕のある山門、入口と本堂が二階に設置されたり、入口と拝殿が左右対称に二つある奇形の



寺、或いは三千数百の地蔵を擁する異様な雰囲気の内等、凡そ三十数か所の寺院を撮影、朝倉彫削館やいにしえの和時計を収集した大名時計博物館を見学する傍ら、和紙工芸の店、下駄屋、仕立て屋、反物屋、駄菓子屋、着付け師や表具師の店等平素街中では見られない商家の風情は絶好の撮影対象となりました。商店街を過ぎ一人やつとすれ違うことが出来る狭い路地を通り抜けると、道路を挟んで額を寄せ合う様に家の軒が連なり、互いに張り合った紐には場所を憚ることなく洗濯物の満艦師が掲げられ、立ち話に花を咲かせる主婦達がたむろする光景、2〜3軒先から聞き取れる泣きじゃくる子を窘める母親の声、着付け師の家の引き戸をさ

り気無く開け、数人の和服姿の女性が出てくる様など、下町ならではの風情を垣間見る場面もありました。ところで、この撮影コースに、女性のグループが好んで立ち寄る著名な「甘い物の店」があり、一時は休憩する写蹊会の男性群が占拠、入店できない女性が店外で待つという珍現象も発生しました。かくして全員予定の撮影コースを完歩した後、有り余るエネルギーで、谷中銀座や上野の森、動物園、根津神社へ足を伸ばした方も多く、お土産はあたかも申し合わせた様に「根津の鯛焼」だった様です。

写蹊会世話人一同

## 写蹊会総会

好天の9月3日は、学園側のご好意で、大学10号館の会場入口と会場正面に第8回写蹊会総会の看板が掲げられ、本日の課題である会の運営に関わる大きなテーマを前に、会員各位28名をお迎えし、会場はかなり緊張

した雰囲気漂っており、思えば桜祭で「文化的色彩を打ち出したイベント」として先生方とOBの写真展が発足、是を母体に平成11年7月に写蹊会が誕生し、以来桜祭写真展を中心に活動を続けて参りましたが、会員各位の積極的協力により、活動も多様化し且つ活性化するに至り、組織強化を図る為に「会則」の内容の策定を控えていたからです。

前以つてその方向性が示され、欠席された方々のご意見と投票も加わり、満場一致で可決されましたが、会則の根底を流れる思想は、聖徳太子曰く「和を以つて尊し」にあり、写真を媒体として学園に協力すると共に、成蹊人の親睦の輪を広げて行くことであります。

会議終了後、今回はプロの創造写真家Apache氏(日本写真家協会会員、1965年入会以来41年に亘る「写蹊会会員」)による「新しい写真造り」をテーマに講演が催され、優れた写真造りには基本的に技術や知識は必須であるにせよ、重要なものは各々が具備する「感性」を常に磨くことであり、平素の生活の中で常に美や感動を得る機会

から自己紹介、決意の表明と続いた。  
終りに参会者一同でグラウンドに集まり、大学チーム大友敬志主将(経済4年)のリードで



を求め、多忙の中でも「ゆとりと余裕」或いは「遊び心」を忘れず、常に情操に磨きをかけ、その鮮度を高めることが必ずや優れた作品造りに繋がること、強調され、拡大写真や実写CDRと投影機を用い、具体的に女性ファッションや京都は歌舞練場、一力茶屋の雰囲気と舞子さん、等をモデルに解説が為され、改めて「感性」の重要性を認識した次第でした。

講演終了後、予め会員各位に持参をお願いした作品の添削があり、「作品をより良くするには具体的にどうするか」拡大投影により、前向きに改善点が指摘され今後の作品造りに大きく



役立つと感じました。作品添削と評価は写真会では初めての試みで、今後も続けて欲しいとの声や、初級デジカメ技術講座のご要望もあり、好評のうち終了しました。

写真会世話人一同

## 合気道部 設立三十五周年 記念祝賀会

前日の大雨がすっかり上がり、雲ひとつ無いまさに秋晴れの平成十八年十月七日(土)、大学十号館十二階ホールにて、「合気道部設立三十五周年記念祝賀会」が催されました。秩父連峰の雄大な山々をバックに、会場にはご来賓十名様、OB約六十名、現役学生三十名集まっただけにぎやかなお集まりとなりました。

会は、主催者を代表して、現主将の工学部三年・齊藤桂亮君と、OB会会長・萩原政昭氏(経済・五十二年)の挨拶から始まり、続いて、ご来賓を代表して顧問の中里明彦先生、部のご指導をお願いしている合気道

正気会会長・栗田稔師範、初代合気道部監督・服部嘉夫氏(政経・三十二年)からご祝辞を頂戴して、木村和泉現監督(経済・五十三年)の乾杯の後、和やかな歓談へと進みました。

昭和四十六年に宮下輝明氏(経済・四十七年)の一念で愛好会として設立された合気道部は、初代顧問を足田啓吉先生にお願いして三十五年のスタートラインに立ちました。

万有を愛護し万物を育成する心を研鑽する和の武道、合気道は、試合形式を取らず、部としての実績を作り上げるにはなかなか困難な環境の中、三十五年間にわたり、実社会に役立つ人間づくりを目指して日々稽古を重ねてまいりました。投げる事や抑える事等、とかく派手な演武に目をうばわれがちな合気道ですが、実際には心の力の養成こそがその原点です。OBの中には社会に出てもお引き継ぎ稽古を続け、合気道の心を実生活に役立てる事を目標としている方も多数おられます。現在はそんなOBが中心となり、「まづ稽古ありき」を合言葉に現役部員を心、技の両面からサポートしています。



三十五年の月日の思い出の穴埋めにはまったく短すぎた祝賀会も大盛会のうちに進み、現在まで部の発展にご尽力いただいた多くの諸先輩方に感謝しつつ、未来永劫に続く合気道部の隆盛を祈念してお開きとなりました。

服部真久(経・58年)

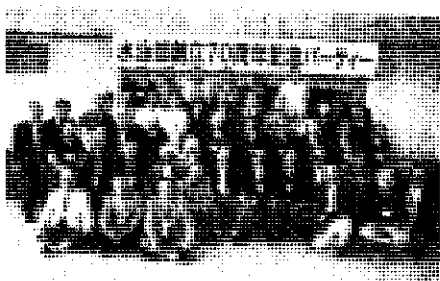
## 水泳部創立70周年

成蹊水泳部は昭和11年1月に創設され、本年「創立70周年」を迎えたことから、去る、10月9日成蹊学園においてOB・OG160名、現役、中学・高校・大学生80名、合計240名

が一同に会し記念行事が盛大に開催された。

ご来賓として日頃学生を指導いただいている、鈴木滋先生、田中恵美先生、塩川千夏先生、梅田礼敬先生、跡部清先生、永田研史先生並びに成蹊会からは瀧秀彦会長がご参列になられ、選手の泳ぎ、水球競技等を熱心に観戦されました。

午前中は、現役学生による競泳披露・OB参加によるリレー競技もあり特に70歳代の小島豊吉野誠一、今井正継、吉野雅晴、石田恭一、早船準一、浜口義勝先輩らの活躍が目をひいた。又、若手OBと現役による水球競技が行われ、インカレ出場の現役が歳には勝てないOBチームに圧勝した。



水泳部「創立70周年記念」60歳以上の部

場所を移したパーティは、原周太郎事務局長の司会の下、蹊泳会別所聴平会長の開会挨拶、鈴木滋大学顧問、成蹊会瀧秀彦会長のご祝辞に続き、旧制高校昭和23年卒業の西原春夫（元早大総長）先輩による乾杯でスタートし、望月常次幹事による、懐かしい写真が画面一杯に投影されると、大いに盛り上がりを見せた。会場内では「70周年記念グッズ」も販売され現役支援に貢献した。最後に小川史男幹事長の中締め、部歌「我は水の子」を全員で斉唱し、楽しい・懐かしい会は終了した。

別所聴平（政経・43年）

## SGCゴルフ大会

十月二十九日（日）Jゴルフ鶴ヶ島に於いて、第九回SGCゴルフ大会が開催されました。平成十年十一月十五日に第一回大会が茨城県セバレストロスゴルフクラブで、十八チーム七十二人の参加で開催され、その翌年、二十四チーム九十六人の



参加で開催されたのが、今回と同じコース、旧鶴ヶ島カントリークラブでした。その後、三十チーム、更に第四回大会から四十チーム百六十人でコースを貸切つて開催されるようになりました。

何と言いましてもこの大会の特色は、大学クラブOBの「団体戦」ということで発足したことです。四人揃って好スコア（しかも新ペリア）を出さないとなかなか勝てません。過去八回の優勝チームは、ラグビー部が四回、ゴルフ部が三回、軽音楽部が一回です。そして、今回の優勝チームは、初優勝のアメリカンフットボール部でした。詳しい成績は左記の通りです。なお、ヨット部の本橋一彦氏が八番ホールで見事ホールインワンを達成しました。九回目にして初の快挙です。

（団体）  
優勝 アメリカンフットボール部（293）初

## 業界・企業のつどい

### 東京産業(株) 成蹊会

東京産業(株)の成蹊会員は今年新人3名が加わり総勢20名となりました。今年の新人11名の内3名ですので我々としては非常に嬉しい思いであります。

新人歓迎会を兼ねて4月26日に品川屋台村（会社の近く）で成蹊会を行いました。老若男女16名の組合せの懇親会となりましたが先輩後輩入り乱れて楽しい飲み会となりました。東京産

準優勝 ゴルフ部（294）  
ベストゴルフ部（314）  
（個人）  
優勝 斉藤邦治（N69・6 G84）

準優勝 吉田修一（N70・2 G81）  
ベストゴルフ 三浦正博 72  
参加者数 158人  
西川 廣（政経44年）

### 山武けやき会

っておりますので宜しくお願い申し上げます。

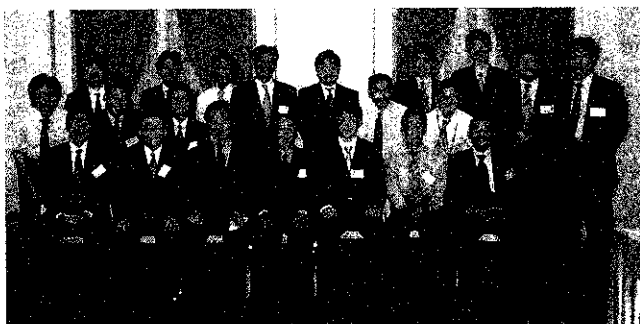
伊藤 宏（工・51年）

6月2日数寄屋橋ニユートーキョー・ロチエスターで年一回の総会兼新人歓迎会を開催しました。

参加者は東北支店からの鈴木君（工・昭63年）や名古屋より

業は4月1日現在、全社員293名ですが成蹊大卒が社内で大派閥となっております。

今後も東京産業成蹊会の発展を願い来年後も素敵な成蹊大からの新入社員が入られる事を願



毎年参加の山下君(工・平14年)が駆けつけてくれ22名の参加者がありました。

今年の新会員は佐々木君(工・電気電子)1人でしたが新入社員54名を代表して挨拶をした優秀な新人です。

「山武けやき会」は既に退職された方々も全て会員で、OBにもご参加頂き孫世代?迄お互いの仕事の事や近況話で世代を超え直ぐ和気あいあいと成れるの

△▽△△▽▽△△▽▽▽▽△△▽▽△△▽▽△△▽

は「けやき並木」と「レンガの本館」言う共通の良き思い出のお陰と思います。

今回入社以来26年振りの参加者もありましたが、来て良かったという感想で来年の参加を誓っている人も居ました。

最後は学園校歌を高唱し解散となりましたが別れ難く、直ちに2次会を同じビルで行い多数参加者がありました。

池原正夫(政経・36年)

# 地域のつどい

## ハワイ成蹊会

開催日時:2006年1月18日  
開催場所:ホノルルカントリークラブ、クラブハウス(ホノルル空港の近くにあるゴルフ場で

す

参加人数:9名

要旨:ハワイに在住、またはハワイに住所を持つ成蹊出身者を中心に、昨年より新年会の開催をするようになりました。第2回目の今年は昨年のメンバーにジャルパックにお勤めでハワイに転勤でいらした称津氏が加わりよりにぎやかな会となりました。

来年も今年と同じ時期の再会を誓って散会いたしました。

望月一男(法・54年)

## オーストラリア ワイーンズランド 成蹊会

第22回QLD成蹊会を2006年8月5日(土)12時にゴ

ルドコースト市内の中華料理店(シャークスフィン)で飲茶の昼食で半年振りに開催いたしました。出席者は、東京五日市、大悲願寺の住職加藤章雄さん(S41工)が当日の朝ゴールドコーストに到着してすぐに参加してくれました。

Junko Van Dorcken(旧

姓高橋淳子)S54文・英米文学科、中橋和夫さん(S35高校)ご夫妻、州立グリフィス大学、元交換留学生(1992-1993)のAshley Brook(アッシュリーブルク)さんが2回目の出席となりました。そして幹事役の素子Donoghueさん(S44政経)。また今年の1月から交換留学生州都ブリスベンで1年間の予定で勉強しておられる鎌田由利恵



さん(日本では経済学部経営学科グリフィス大ではCommunity, International relations, Englishの専攻)、杉浦かおりさん(日本では文学部英米文学科、グリフィスでは国際関係専攻)のお二人が出席されました。鎌田さんのご両親と妹さんがゴールドコーストにご旅行中にご参加いただきました。おめでたい事にお父様が誕生日で、皆でハッピーバースデーを合唱いたしました。

は自分なりにいろいろな行動を起こしてきたので、他の留学生よりもいろいろなものを得ていると思います。これからの残りの留学生生活でも、もっと行動を起こし、充実した留学にしていきたいと思えます。

杉浦さんからは「今回成蹊大学から交換留学生としてオーストラリアに来て感じた事は人との出会いの大切さでした。こっ

ちに来てからたくさんの人に出会い、そしていろいろなことを学ぶ事ができたと思います。成蹊会を通じて、大先輩方にお会いできたりと、こちらに来なかつたら出会わなかつたであろうなと思う方々とも出会えて本当にうれしく思っております。」とのコメントを後日頂きました。

この会誌が発行される頃にはもう決まっていると思われる9月の安倍晋三さんの自民党総裁総理大臣就任を祈念いたしました。

成蹊会に先立って、5月下旬に城戸崎晴(S31政経)さんが奥様とご友人ご夫妻でゴールドコーストに観光に來られ、尋ねていただきました。

なお当会では学園(小中高校大学)の卒業生に限らず広くご

家族、友人の参加も歓迎しておりますのでご連絡下さい。今年のゴールドコーストの冬（日本の夏）は大変暖かな（10-20℃）日々が続きました。皆様もゴールドコーストに来られるときは「遠慮なく」一報下さい。  
 e-mail: samishijima@hotmail.com  
 Tel: 07-55947585 Mobile: 0118763717

西嶋 勇（政経・40年）

## 宮城成蹊会

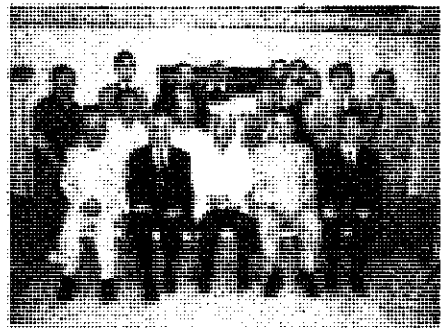
8月25日平成18年度宮城成蹊会総会および懇親会を仙台ホテルにて開催いたしました。

当日は成蹊会本部より吉野雅晴成蹊会副会長を来賓にお迎えし、小田島司郎会長をはじめ会員11名の出席をいただきました。また、成蹊会前常務理事の根岸孝彰様、山形成蹊会からも事務局の鈴木隆一様、伊藤寿一様、鹿柴正幸様のご出席をいただきました。

はじめに小田島会長よりご挨拶

をいただきました。昨年来懸案となつておりました会長人事につきご提案があり、新会長に岡田正昭先輩（政経15昭和41年卒）を選出いたしました。小田島会長には永年にわたり成蹊会東北支部長として、また、宮城成蹊会の会長としての会の発展にご尽力いただきましたこと、本当にありがとうございました。なお、東北支部支部長の職は引き続きお願いすることになりました。続きまして吉野雅晴成蹊会副会長より学園近況報告、各地域成蹊会の現況など、また、ぜひとも良い意味での「成蹊はか」になつて母校成蹊のため力をとのお話がありました。昨年より交流をしております山形成蹊会事務局の鈴木隆一様からご挨拶をいただきましたあと懇親会にはいりました。

懇親会では、柳沢栄司先輩（新高9昭和33年卒）の乾杯に始まり、以前仙台に赴任中宮城成蹊会の運営に大変ご尽力いただき、東京より参加いただいた根岸前常務理事のお話、山形成蹊会からご出席いただいた伊藤様、鹿柴様によるサックスとギターの演奏で大変盛り上がりしました。また、今年2月にテレビにて放送された中村春二先生のご挨拶



ビデオを全員で鑑賞し、成蹊学園の歴史を振り返ることができました。会員同士の懇談、在学中の思い出話など時間の経つのも忘れ大いに盛り上がりました。最後に昨年同様グリークラブOBの倉田泰雄先輩（政経14昭和40年卒）のリードにて成蹊学園校歌を合唱しお開きとなりました。

お願い・宮城在任の成蹊学園卒業の皆様、転勤などで在仙の方ぜひご一報下さい。  
 ソニー生命保険（株）仙台ライフプランナーセンター第3支社  
 メール: syouzou.murata@sonylife.co.jp  
 電話022-296-15301

村田 昌三（法・52年）

## 新潟成蹊会

夏空のまぶしい七月二十三日日曜日、毎年恒例となりました新潟成蹊会を料亭「行形亭」で開催致しました。

創業三百年の歴史を持つこの料亭は、新潟の食文化・料亭文化をリードしてきた日本料理の老舗で、平成二年経済学部卒業の行形和滋さんが経営をしています。

二千坪の庭園を散策し、風情いっぱいの「流し素麺」を頂戴し、受付です。

出席者は総勢で二十九名（内女性七名）、ご夫婦による同伴四組、大学の校歌をBGMとしていよいよ会の始まりです。

まず最初は、社団法人成蹊会常務理事の齋藤悠様が多用の所駆け付けて頂き、大学の近況報告をお聞かせ下さいました。

その後、当会会長、有沢栄一様のご挨拶、そして参加者の自己紹介と続きましたが、当日の専ら話題は、無論「安倍晋三、



新首相待望」の件でした。

例年以上に盛り上がった総会も終了し集合写真撮影後、いよいよ懇親会のスタートです。

地元の銘酒、新鮮なお造りなどを老松の見守る広々としたお座敷で頂き、食事は土用の丑の日という事で鰻を満喫し致しました。当日の主な話題をご披露します。

- ①「子供を成蹊大学に入れたと思うけど私達の時代よりレベルが上がって、とても難しい。」（成蹊高校→大学の女性）
- ②「来月ゴルフに行きたいからメンバー集めろ！」（わがままオヤジ）
- ③「俺、そろそろ定年なんだけど……」（空気が読めないおじさん）



平成18年度 山形成蹊会 総会

去る8月20日(日)、ホテルメトロポリタン山形で平成18年度総会を開催しました。平成12年の設立以来、山形成蹊会は毎年欠かさず総会を続けてまいりましたが、第7回目となる今回

### 山形成蹊会

④「初参加なんですがとても雰囲気が良いので、来年も必ず出席します」(若手優等生)  
⑤「ここってあの料金で夜も食べれるの？」(分かってない人)  
以上、充実した時間を堪能致しました。来年も七月開催です。  
浜田忠博(経・52年)

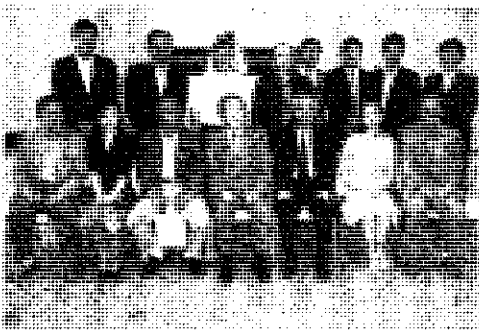
は(社)成蹊会の瀧秀彦会長、宮城成蹊会の小田島司郎会長ら4名のご来賓を含む17名の皆さんが出席され、新総理誕生への期待も膨らんで大いに盛り上がりました。  
懇親の部は年長の中村隆夫さんが乾杯の首頭を取りスタート。山形が誇る伊藤寿一会員のテナーサクソ、鹿柴正幸会員のギターによるセッションが始まると一同食事も会話も忘れて聴き入りました。今回は「恋の街札幌」「コモエスタ赤坂」「ベサメムーチョ」などを選曲し、ちょっと泣かせるムーディーな演奏が終わるたびに大きな拍手が沸き起こりました。大好評につき二人は翌週仙台で開催された宮城成蹊会総会にも出張出演し、山形宮城広域連携の先駆けとなりました。

今年には本山会長が急遽欠席されましたが、次回は来年8月に会長のお膝元である庄内地方で開催することを決議しました。そして庄内地方の会員である三矢正士さんが来年の再開を誓う中締めを行い、二次会へと進みました。(来年につづく)  
鈴木隆一(経・53年)

### 茨城成蹊会

第12回茨城成蹊会(海野宣三代表世話人)は成蹊会本部より齋藤悠常務理事をお迎えして、7月8日(土)水戸市内のホテルにて開催されました。

成蹊会名簿では茨城県内に80名近い卒業生が記載されておりますが、その割には少し寂しい15名の参加となりました。しかし毎年のように顔を見せていただけの皆様は互いに一年の無事を喜びながら、また初めて参加された方もすぐにうちとけて、



茨城成蹊会

和やかな時間を過ごしました。一人一人の近況報告に一喜一憂できるのも、同じ成蹊の門を往復した共通の思い出、家族意識に他なりません。これを読まれた茨城県在住の皆さん、初めて参加する時はなんとなく不安で面倒な気がすると思いますが、ちょっと勇気を出してください。今後はもう少し多くの方に参加していただき、茨城成蹊会の友情の輪を更に広げてまいりたいと思います。  
相山孝志(法・56年)

### 群馬成蹊会

平成18年7月29日(土)に第7回群馬成蹊会を、2年ぶりに開催致しました。

今回も(社)成蹊会にお願いして、群馬県内在住の成蹊OB・OGの宛先ラベルを提供して頂き、489名という多数の皆様が群馬県内各地で活躍されていることが判明し全責に開催通知を郵送させて頂きました。

尚、今回の開催に先立ち、なるべく多くの方に参加して頂くために、過去参加者に対する開催日アンケート・開催通知送付専用封筒作成等を行いました。  
当日は、群馬県伊香保温泉の旅館「古久家」を会場に、(社)成蹊会の高山知也副会長様を来賓として迎え、22名の出席で開催致しました。

また、大川会長から、群馬の書道家岡庭和人氏により、「桃李不言下自成蹊」と書かれた掛け軸を貸与して頂き、総会・懇親会とともに、成蹊会の旗とともに、会場に飾らせて頂き、会の雰囲気が大変良いものになりました。  
総会では、岸正(昭和35年政経)様によるご挨拶・大川会長(昭和24年アレメ)挨拶代読の後、高山知也副会長様から学園資料を基に最近の成蹊学園の現状についてのお話を頂きました。また、成蹊会からお借りした、みのもんだ司会の午後はおもいつきりテレビで本年2月21日に放映された「きょうは何の日・成蹊学園創立者中村春二が亡くなった日」のビデオを全員で見せて頂き、中村春二先生の偉大さ・成蹊学園の教育方針の素晴らしさに一同感激いたしました。



ラオケ大会で盛大に盛り上がったことを付言しておきます。

羽鳥 亘(法・55年)

## 埼玉成蹊会

9月15日川口駅前の中華料理店「江南春」に於いて「第3回埼玉成蹊会」が行われた。

昭和49年経済卒の京野さんが支配人をしている関係で毎回の会場を使わせて頂いている。

成蹊会から瀧会長、齋藤常務理事、加えて今回は成蹊学園から米倉豊比古さんもご出席下さり、総勢25名の盛会であった。

開会に先立って昨年11月に他界された最高齢会員の水谷政静先輩のご冥福をお祈りしての全員による黙禱を行なった後、瀧会長からの成蹊学園の近況についてご報告を頂戴した。

その後成蹊学園の米倉豊比古さんから100周年記念事業への寄付に対する要請のお話があり、引き続き長老(失礼)の藤原尚先輩のご発声による乾杯で開宴となった。

しばし欲談の後、恒例の一人1分半の全員による自己紹介が始まったが、同じ1分半でも各自の時計でどうも違うのかと妙な関心をさせられる一面も。

最後はいつものとおり校歌斉唱となったが、前回はお配りした歌詞が幹事の手違いで1番と2番だったために、やや居心地の悪い感じだったが、今回は正調校歌で気分良く1番と3番と締めくくった。

現在の埼玉成蹊会登録者数は約80名。埼玉県には在住者だけで約5000名の成蹊卒業生が居られ、成蹊会会員約7万人のうちの相当な勢力となっているが、それにしてはやや寂しい感じがする。今後ますますこの会を発展させるためにも皆様の積極的なご参加を期待したい。

参加ご希望の方は下記まで電話またはFAXにてご連絡下さい。登録用紙をお送りいたします。

埼玉成蹊会事務局

昭和45年卒 水谷 一郎

株式会社ハチケン

〒334-0013

埼玉県鳩ヶ谷市南5-3-11

TEL

(048) 281-3615

FAX

(048) 281-7287

ic.rizutani@hachiken.com

水谷 一郎(工・45年)

## 千葉支部

千葉の歴史と文化を訪ねる  
タウンウォーキング

さる、四月八日、千葉城さくら祭り実行委員会(会長は当支部長の安田敬一氏)主催の千葉の歴史と文化を訪ねるタウンウォーキングに千葉支部会員10名とともに参加した。

当日は絶好のウォーキング日和、千葉都市モノレール県庁前駅をスタート。文化の森、郷土博物館、猪鼻城址、千葉市美術館、千葉神社、千葉公園(旧鉄道連隊跡)、千葉大学構内、来迎寺・大日寺(千葉氏ゆかりの寺)、千葉都市モノレール作草部駅と回る約8kmのコースである。

途中、千葉公園での昼食休憩時には瀧のようなスコールに見舞われたが全員無事、千葉



出発前に勢揃い

都市モノレール作草部駅にたどり着くことができた。普段住み慣れた街中ではあるが、ガイドの説明を聞いて千葉の歴史・文化を再認識することができた。

千葉支部では七月の第一土曜日を総会の日とし、毎年大勢の出席を得て賑々しく開催されている。しかし、年一回の総会だけでは物足りないとの意見もあり、親睦を目的としたイベントを行ってみようということになった。それが春のタウンウォーキングであり、秋の有志によるゴルフコンペである。

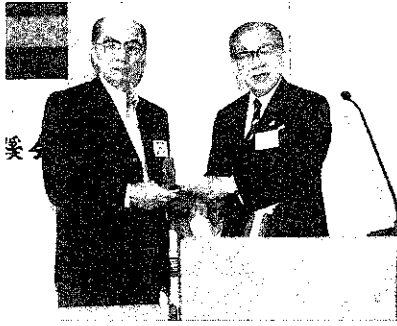
今後も会員相互の交流を図れる企画を検討して支部の活性化に努める所存である。

鈴木茂樹(文・44年)

# 千葉支部総会

千葉支部第55回総会並びに講演会・懇親会を盛大に開催！  
演壇に成蹊会大旗を掲出！

平成18年7月1日(土)、千葉市中央・千葉商工会議所14階・第2ホールにて第55回総会(別称・七夕の集い)が、学園より岸曉理事長・橋本竹夫専務理事(新任)、本部より瀧秀彦会長・高橋章建事務局長を迎え、根岸孝彰氏(元成蹊会常務理事/政経10回)他、嶋崎仁氏(財)千葉原青少年女性協会理事長・藤倉誠一氏(社)千葉市観光協会専務理事)にもご参



加をいただき、総勢72名(内、初参加者13名)の出席を得て賑々しく盛会裡に開催された。

定刻午後3時、司会・鈴木茂樹幹事(文1回)により開会宣言。初めに初代支部長・香月秀雄先生及び元成蹊会会長・谷岡喜久蔵先生並びに鬼籍に入られた諸先輩を徳ひ慰霊黙禱の後、

安田敬一支部長(財)安田教育振興会理事長/政経2回)より来賓・出席者一人ひとりに対して懇切なる謝辞が述べられ、続いて団体として千葉支部より成蹊学園創立100周年記念事業業募金寄付目録が岸曉理事長に贈呈された。

次に、岸理事長・瀧会長より、それぞれの立場から祝意の籠った謝辞並びに学園の動向や新役員人事を含めた現況と会員把握の方向性についての考え方、100周年記念事業の募金の活動の意義と一層の協力を懇請された。

続いて、事務局より平成17年度の会計報告並びに千葉支部規約についての説明がなされた。(成蹊会千葉支部の歩み/55周年配付)

今回の総会のもう一つの核は、安田敬一支部長(千葉市観光協

会会長/千葉原青少年女性協会会長他)の講演。演題は「千葉はこれから……」と題して、千葉県の観光事業の経緯と現況及びその方向性について言及された。しかも、今回は千葉支部発足55周年という節目でもあり、適切な演題と講師に恵まれたこと。

更に続いて、園田信行幹事(日本大連会副会長/政経4回)による「中村春二先生の『處世七則』の詳説があり、出席者全員深く感動したことを付記したい。

講演会終了後、片山正樹事務局次長(工経4回)による出席者全員の記念集合写真の撮影。

続く第3部・懇親会は、ホール9階「レストラン・ピープル」にて、満藤庸也幹事(経7回)の司会で進行。深澤勝彦副支部長(政経7回)の懇切なる開会の言葉に続いて、初参加の橋本竹夫専務理事(工機5回)のご挨拶の後、当日の大先輩・落合和雄先生(旧高13回)の熱情あふれる音頭にて、安田支部長寄贈のシャンパンで乾杯。会場の各テーブルには清楚な生け花(中部智子・TMフローラ代表/文14回による飾付け)、豊



かな料理・飲物が並び、欲談・交流の至福の時が流れた。加えて、当日飛び入り参加の林一雄氏(新潟成蹊会/経3回)や初参加の伊藤和行氏(政経1回)各位による自己紹介など、司会の巧みなりードにより多くの出席者の声を聞くことができた。また、今回も元氣な姿を見せてくれた久我太郎元幹事長(旧高16回)、里村洋一先生(千葉大 学名誉教授/高8回)が副支部長に選任されたことで安田支部

長からの紹介があったこと。小出善三郎相談役(前市原市長/政経2回)の近況報告など頗る楽しい懇親会となった。

午後7時定刻、津田英彦副支部長(千葉市医師会前会長/高5回)の閉会の言葉に続いて、全員による校歌斉唱、大塚克彦幹事(政経17回)の先導で、千葉開府880年の伝統ある千葉締め「シャンシャンシャン。シャンシャンシャン。シャン」で結びとした。

尚、今回の盛会は、学園・本部の絶大なるご協力、新任の竜崇正幹事(千葉県がんセンター長/高13回)をはじめ、役員各位並びに若い世代の積極的な参加。会議を重ねた役員各位のチームプレーによるものであること。更に、丸山忠男幹事(政経11回)を中心に受付業務や会場設営を担当してくれた柏靖博・北井良彦(政経13回)伊藤兼六(経1回)幹事各位に対して深甚なる謝意を表したい。

☆七夕や昭和は遠くなりにけり  
酒井四平(政経・28年) 秀洋  
片山正樹(工・44年)

# 千葉支部 ゴルフコンペ 賑やかに

優勝は新ペリア・ルールでアンダーバーを出した柳沢正孝さん、栄えある第一回安田支部長杯カップを手にした。準優勝は河島伍一さん、3位は山田徳兵衛さんが僅差で続いた。

千葉支部(安田敬一支部長)のアウトドア・イベントとして、ゴルフコンペがスタートした。

従来の少人数の集まりではなく、広く懇親の場にしようと、

7月の千葉支部総会で呼びかけたところ、最終的に23人が参加。まさに『安倍新内閣』よろしく〈老・壮・青(?)〉の賑やかな構成となり、秋晴れの10月25日、袖ヶ浦カンツリー・新袖コースで行われた。



“成蹊・千葉オープン”開幕前に勢揃い

安田支部長は「会員の交流を深めるいい機会。さらに参加を呼びかけましょう」と、挨拶。参加者は来年の夏の総会、秋の第二回コンペでの元気な再会を誓った。

参加者は次の通り(敬称略)

- 片山剛(旧高24)▽津田英彦(高5)▽安田敬一(政経2)
- ▽深澤勝彦(政経7)根岸孝彰(政経10)▽河島伍一(政経10)
- ▽小宮和雄(政経10)▽山田徳兵衛(政経11)▽近藤和義(政経13)▽曾我明哲(政経14)
- ▽三城康照(政経14)▽五木田宏彦(政経17)▽末松剛(政経17)▽西克二(政経17)▽木村明彦(政経18)▽山本表明(工機2)
- ▽柳沢正孝(工化4)▽三澤健一(法1)▽須藤伸次(法3)
- ▽能條昭雄(法13)
- 幹事▽片山正樹(工経4)▽柏靖博(政経13)

柏 靖博(政経39)

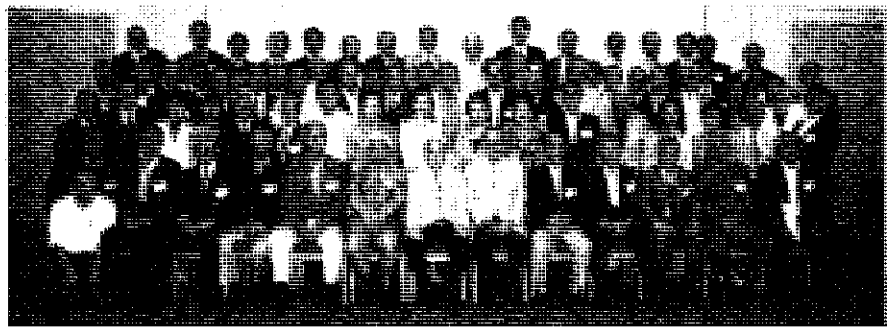
# 渋谷成蹊会

7月11日18時より第38回渋谷成蹊会を「青山ダイヤモンドホール」で開催致しました。新入会員17名を迎え82名の参加者が有りました。

18時より40分間、「渋谷の今昔」と題し渋谷区郷土博物館・文学館と個人所蔵の写真やデジタル化し、江戸時代から現代までの渋谷の歴史を映写しましたが、特に昭和30年代の風景には懐かしく思われた方が多いようでした。

もちろん、赤石先輩(政経27年)提供の昭和25年から2年間だけ山手線を歩き運行されていたゴンドラの写真も非常に鮮明に写っておりました。

乾杯のご発声は参会者中の最長老にお願いしておりますが、今回も赤石先輩にお願いしました。乾杯には会員の渡辺美香さん(文56年)経営の渡辺酒造より取り寄せた「吟雪」を使いました。



ご挨拶希望された菅野建雄君(政経39年) 神奈川成蹊会事務局より神奈川成蹊会の活動を再開する旨の紹介と会員募集の呼びかけが有りました。

閉会に先立恒例の学園校歌は丹羽君(政経44年)にヨットで鍛えた喉でリードしてもらいバックコーラスにはグリーククラブOBの米倉君、高橋君、市川君の豪華メンバーで何時もの様に1番2番3番を高唱し一次会は終了、二次会はそれぞれのグループ毎に雨の表参道に散って行きました。

今回で4度目ですが、会費の内から「成蹊学園創立100周年記念事業」に8万5千円を寄付させて頂きました。

来年2月9日(金)に第39回の会を開催致します。新たに参加ご希望の方は野口修君までFAXで氏名、住所、電話、勤務先等ご連絡下さい。  
(FAX) 03-3463-5593

平成卒の方々の参加が増えて来ました。若い方々の参加を歓迎致します。

池原正夫(政経・36年)

今回は新会員が多い為新会員のご挨拶は止め壇上で司会者よりお名前紹介とし、ご挨拶は希望者だけにして懇談の時間を長く取るようにしました。初参加の方々も直ぐ会話の輪に溶け込めるのも、けやき並木とレンガの本館という風景の中で学園生活を過ごした共通の想い出が有るからだと思えます。





## 神奈川成蹊会

さる9月21日に横浜のホテルニューグランドにおいて神奈川成蹊会総会が開催されました。神奈川成蹊会総会は平成5年以来休会していましたが、今回久しぶりに再開の運びとなり

ました。会には瀧秀彦成蹊会会長様、橋本竹夫成蹊学園専務理事様もご出席くださり、ご祝辞をいただきました。

岸曉成蹊学園理事長様はじめ、多くの地域成蹊会の方々から丁寧なご祝電を頂きました。厚くお礼を申し上げます。

岩崎英二郎様のご発声による乾杯の後、出席会員80名が立食形式のパーティに移り、秋の夜のひとときを賑やかに過ごしました。「女性や若い方がもう少し多いほうが」という声が聞かれました。これは次回への宿題にさせていただきます。

会の締めくくりとして全員で校歌を歌い記念の集合写真を撮り、再会を願ってお開きとなりました。次回は来年の秋に開催する予定にしております。再び多くの方がお集まりくださいますように願っております。

今回は幹事不慣れもあり、出席ご希望の皆様にご案内をお出し出来ず失礼をいたしました。次回から参加してみようかと考えるの方は左記事務局までご連絡くださるようお願いいたします。連絡先

神奈川成蹊会事務局 菅野建雄

〒231-0002 横浜市中区海岸通3-9 郵船ビル2階  
 御ヨコハマ大連芸内  
 TEL045-662-9189  
 FAX045-662-9234  
 菅野建雄(政経・39年)

## 遠州成蹊会

去る6月10日(土) 第11回遠州成蹊会総会および懇親会を浜松駅前オークラクトシティホテル浜松にてpm6:30より2時間半をかけて実施いたしましたので報告します。

今回は16名の方から出席のご返事をいただきましたが、都合のつかなくなった方もおられて、当日は15名の会員と成蹊会常務理事の齋藤悠さんのご参加をいただき懇親会を実施いたしました。

懇親会では齋藤常務理事から成蹊学園の近況やその発展の様子をお話いただき、在学当時の違いに思いをさせながら談笑しつつお聞きしました。出席者各位からは近況の報告などをお

話いただきました。会員同士の懇談も時間を忘れて延々と続きましたが、残念ながら時間が迫ってまいりましたので、最後に成蹊学園校歌を合唱してお開きとなりました。

遠州成蹊会は静岡県の大井川以西の地方成蹊会組織で、地方

出席者一覧

氏名	学校	卒	回	学部	学科	氏名	学校	卒	回	学部	学科
田村 信彦	大学	S40	14	政治経済		井口 雅裕	大学	S49	5	法	法律
佐津川 肇	大学	S42	2	工学	工業化学	鈴木 常之	大学	S51	7	経済	経営
加治攻一郎	大学	S43	3	工学	機械工学	武田 辰巳	大学	S52	8	経済	経済
甲谷 富彦	大学	S43	17	政治経済		立木 茂地	大学	S53	9	経済	経営
生熊 克己	大学	S45	1	経済	経済	和田迫 三志	大学	S58	18	工学	工業化学
磯部 慎治	大学	S46	6	工学	経営工学	鈴木 誠一	大学	H09	32	工学	機械工学
鈴木修一郎	大学	S46	2	経済	経営	廣岡 雄二	大学	H09	32	工学	機械工学
湖東 喜明	大学	S47	7	工学	工業化学						

組織に配られている成蹊会旗を一番最初に頂いたところです。会員数は二百数十名を把握しており、遠州成蹊会名簿も毎年更新を致しておりますが、全ての会員を把握できているかどうかは解りません。毎年5、6月ごろに懇親会を開催しております。成蹊会のホームページでも懇親会開催の告知を致しておりますが、毎年5、6月ごろに懇親会の案内状を遠州成蹊会名簿に基づいてお送りしております。受け取っていない方は幹事までご連絡をいただければ幸いです。

加治攻一郎(工・43年)

## 愛知成蹊会

去る8月8日(火)名古屋市中区にあるホテルプリシード名古屋において、2年振りとなる愛知成蹊会が開催された。昨年は開催を見送ったためか本年は80名弱と例年より多くの会員が参集した。

大成建設の立松氏の進行により開会。先ずは志田会長より挨拶



過ぎ、最後は恒例の由比先輩のリードのもと全員で大きな輪を作り「お成蹊」を合唱。記念写真をとった後、閉会となった。今後も年数回の有志懇親会・寮歌祭への参加等活動を続けて参りますので多くの方のご参加お待ち致します。

浅野好司(法・49年)

## 大阪・奈良・和歌山成蹊会

抄をして頂き、東京よりご参加の成蹊会、瀧会長の成蹊会及び学園の現況報告のご挨拶。引き続き三菱商事、金井中部支社長の発声による乾杯となり懇親会が始まった。

本年は参加人数も多く、女性会員の出席もあり、会場のあちらこちらで輪が出来、話もはずみ、又、成蹊卒業生、安倍総理誕生も間近の雰囲気の中、盛り上がった会となった。

会の途中では、この8月に中部電力社長に就任されたばかりの三田敏雄氏を初めとして、幹事、初参加者、女性、久しぶりの参加者等々数多くの方から自己紹介並びに近況報告が行なわれた。

予定の時間はあつという間に

蹊学園創立者中村春二先生の評伝映像(DVD「中村春二 大正自由教育の旗手」)の提供も賜りました。

昭和29年政経学部ご卒業、橘翠様の乾杯発声に始まり和やかに歓談の時は進みました。会場に飲付けのプレーヤーでは「午後には〇〇おもいっきりテレビ」の「きょうは何の日」コーナーで「枯林忌」(中村春二先生がお亡くなりになった日)として

2月21日に紹介された映像が再生されました。また昨年末の高校ラグビー部対天理高校戦(於：大阪・近鉄花園ラグビー場)の白熱したVTR画像には現地に応援に行かれた方・行かれなかった方も思わず見入り、箸やグラスを持つ手も宙に浮くほどでした。

今回は参加者数としては昨年とほぼ同数ながら、20歳代30歳代のフレッシュな方々の参加が



成蹊会から常務理事の齋藤悠様、学園からは広報の伊藤昌弘様にお越しいただき、また成

例年になく多かつたように思われます。新たな試みとしては会場の禁煙化を図り、会場外に喫煙席が設置されました。このビアレストランでは阪神間や奈良の会員相互の親睦を図るべく、年4回の定例会も行われています。

〈次回定例会のご案内〉

12月20日(水) 18時30分

場所：「バンダリア」

〒530-0001

大阪市北区梅田2-4-2

桜橋ボウル2F(桜橋吉豊ビル2F)

TEL06-6345-2038

☆都合のよろしい方は是非ご

出席ください。

岡村久美(文・52年)

## 岡山成蹊会

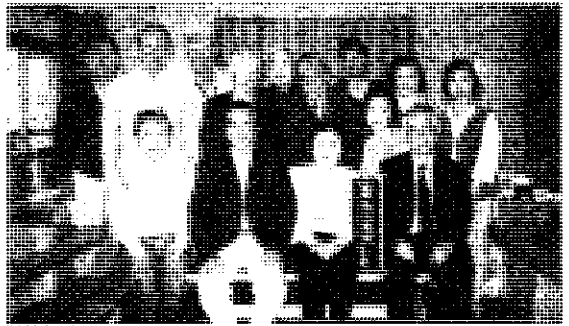
新緑薫る五月一三日、平成一八年度岡山成蹊会総会を十一家族・十六名と本部から齋藤常務理事をお招きし、岡山県瀬戸町のキリンビール岡山工場に併設される「キリンビアパーク岡

山」で開催しました。キリンビールご出身の齋藤常務理事も岡山工場は初めてということでしたが、衛生的で環境に配慮された最新のビール製造工程をご案内頂いた後、レストランで総会を行い、尾崎さん(工S四一年)が会長に再選されました。

齋藤常務理事には学園の近況をお伺いし、久しぶりにご参加頂いた「成蹊やよい会」第二十一年の横山女史(女学校S十四年)にはお持ち頂いたセピア色のお写真で学園の昔の様子をお聞かせ頂き、一同、成蹊学園の誇れる歴史を再認識しながら、出来立てのおいしいビールと食事に舌鼓を打ちました。

秋色深まる十月一四日には有志九名によるゴルフコンペが行われ、潮上さん(法S四六年)がグロス八一というサラリーマンとしては驚異的なスコアで優勝されました。その後、場所を岡山市内に移し、誰とも言わず自然発足した「安倍総理誕生を祝う会」がご家族を含め二五名で開催され、安倍総理の遠慮にあたられる高木さん(政経S四一年)、高校時代三年間同じクラスで学業を共にされた野崎さん(高S四八年)から安倍総理

予定の時間はあつという間に



## 中国支部総会・ 広島成蹊会

安倍総理大臣の就任を陰ながら  
祝う会

平成18年11月11日(土)午後  
5時30分から、昨年と同じ広島  
駅前福屋11Fバンケットルーム  
「レイエ」にて開催いたしました。  
本部より2名・山口より2  
名・岡山より2名・広島は28名  
の参加を得ました。奥田成蹊会  
中国支部会長のご挨拶後、「社  
成蹊会齋藤常務理事から成蹊学  
園の現状報告、三宅広島成蹊会  
会長・宮野岡山成蹊会副会長・  
上田山口成蹊会会長から各地区  
の状況報告をいただきました。  
議事の中では、①総会を毎年  
9月第2土曜日、午後5時30分  
から、広島駅前福屋11Fバンケ  
ットルーム「レイエ」にて開催  
すること、②理事会を毎年7月  
第2金曜日、午後6時から、広  
島全日空ホテルにて開催するこ  
と、③女性会を設立し鼻岡さん  
本多さんが共同代表に就任する  
ことなどが決定されました。

松田洋一(法・56年)

その後、広島在住で安倍総理  
大臣の実兄である会員安倍寛信  
さんから楽しいご挨拶をいただ  
きました。お話の内容をご報告  
したいところではありますが、  
拘腹絶倒、とても紙面に現すこ  
とはできません。

堀江理事の乾杯の音頭で懇親  
会が始まり、佐藤理事の司会に  
より本部からご出席の田上さん  
をはじめ参加者全員が指名され  
近況報告や学生時代の思い出話  
など、和気藹々とした成蹊らし  
い雰囲気では進みました。最  
後にテレビで放映された成蹊誕  
生のビデオを鑑賞し、音大の教  
壇に立っている会員光井さんの  
タクトにより校歌を大合唱して  
終了いたしました。

今回は、今年より一人でも多



くの会員の参加を期待いたしま  
す。

木曾真理行(工・45年)

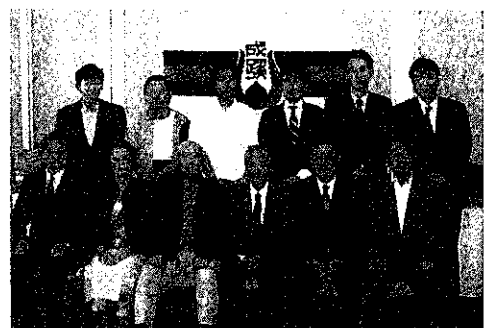
## 愛媛成蹊会

H18年度愛媛成蹊会総会を、  
H18年6月24日(土)に伊予鉄  
会館にて、開催を致しました。  
この日は晴天のなか12名の方が  
出席をされました。成蹊会本部  
から、高橋事務局長がおいでに  
なりました。また、新規会員の  
方も2名参加されました。

懇親会は明るい雰囲気、成  
蹊大学時代の思い出を懐かしく  
思いました。

私は事務局として、先週地域  
成蹊会懇談会に参加させて頂き、  
非常に感銘を受けました。全国  
各地で地域成蹊会が積極的に行  
われていることに、感動しまし  
た。

今後も参加させて頂きたいと  
思いますので、是非今後も懇談  
会の開催をお願い致します。  
転勤で愛媛にいる方、又は愛  
媛が地元で県外に転勤されてい



る方で、愛媛成蹊会に参加しよ  
うと思う方がいましたら、是非  
ご参加下さい。

問い合わせ先  
愛媛県松山市大可賀2-3-17  
TEL  
089-952-1111  
担当 福崎太郎

右記の方ご連絡下さい。宜し  
くお願いいたします。

福崎太郎(法・平7年)

「同窓のつどい」に  
「寄稿ください」  
五百字(写真付の場合)  
八百字(写真無しの場合)  
締切 いつでも結構です。

# 九州支部総会

去る十月十四日(土)博多東急インに於いて、総勢三十七名の参加者により平成十八年九州支部総会が盛大に行われました。すがすがしい秋晴れの中、私は初めて参加させていただきま

した。思い起こせば幼少の頃、電車やバスを乗り継ぎ成蹊の校門をくぐっていました。子供の私にとって遠い道のりは、とても不安で緊張しながら通っていたような気がします。

春になると見事に咲く大きな桜並木や赤レンガの校舎が、今でも目に焼き付いています。又、林間学校や臨海学校で行った箱根や館山での楽しい出来事が今でも鮮明に心に残っています。

現在私には成人した二人の娘がいますが、親の役目も一段落し、やっと肩の荷をおろした時福岡での成蹊会の事を知りました。遠い昔の東京での想い出が彷彿として、今回参加させて

いただくことにしました。同窓という事もあって、気心が知れているので、すぐに打ち解け楽しいひとときを過ごす事が出来ました。又、二次会では生バンドによる懐かしい曲に合わせて踊ったので、学生気分に戻れました。このような会を開催して下さった幹事の方々のご尽力に深く感謝します。再会出来るのを楽しみにしていますので、どうぞこれからも宜しくお願いします。

最後になりましたが、此の度内閣総理大臣に就任されました安倍晋三先輩に心よりお祝い申し上げます。記念に九州支部会員でお祝いの言葉を成蹊会旗に寄せ書きして、十一月二十二日



の「お祝い会」に、会員代表が届けることとしました。今後の益々のご活躍とご健康をお祈り申し上げます。

長谷川慶子(小・52年)

## 佐賀成蹊会

去る6月3日(土)恒例の四大学ゴルフコンペ(武蔵は不参加)が大和不動CCにて、開催されました。5組17名(成蹊10名、成城6名、学習院1名)の参加で天候にも恵まれ、初夏の陽射しを浴びながら和気藹々とプレーを楽しみました。

その後、会場を佐賀駅前の佐賀ワシントンホテルプラザに移し佐賀成蹊会総会を開催。ゴルフ参加者に加え14名の出席を得て、先ず、北九州方面から参加の丸橋章生、荻野毅の両氏からご挨拶を頂き、事務局からは今後の日程(九州支部総会の案内など)を紹介し、無事に終了。

引き続きゴルフコンペ表彰式も兼ねて(三大学)合同懇親



会：参加者24名(成蹊12名、成城7名、学習院5名)を開催。各会の会長及び代表幹事から挨拶の後、乾杯。皆さん和やかに、往時の思い出話や近況報告など大いに盛り上がりつつ最後の校歌斉唱エールの交換にてお開きとなりました。

三々五々、次回の再会を約束しつつまた、二次会の会場まで盛り上がりが続く、この合同懇親会も散会と相成りました。

九州方面(福岡・佐賀・長崎)へお越しの際は、是非ご一報ください。

お待ちしております。

園田恭郎(法・54年)

## 予 告

### ■第32回彩蹊会展

- ・日時 平成19年1月15日(月)〜
- ・日 時 21日(日) 午前11時より午後7時
- ・場 所 銀座地球堂ギャラリー

### ■第八十四回枯林忌追悼会

- ・とき 平成18年2月17日(土)
- ・ところ

1 墓参(12時30分)

中村春二先生墓地

(巣鴨染井墓地二種イ九号二側)

2 追悼会(13時)

三菱スポーツセンター

・かいひ 2,000円(昼食代)

・さんか 申し込みはがきで成蹊会へ

### ■第13回清和会総会(中村清一ゼミ同窓会)

- ・日時 平成19年2月24日(土)
- 午後1時〜

・場 所 成蹊大学10号館12階ホール

・文集 『想い出中村清一ゼミナール』

を当日配本

### ■高校卒業50周年記念同窓会

- ・平成19年3月3日(土)
- ・(於) 成蹊大学10号館12階

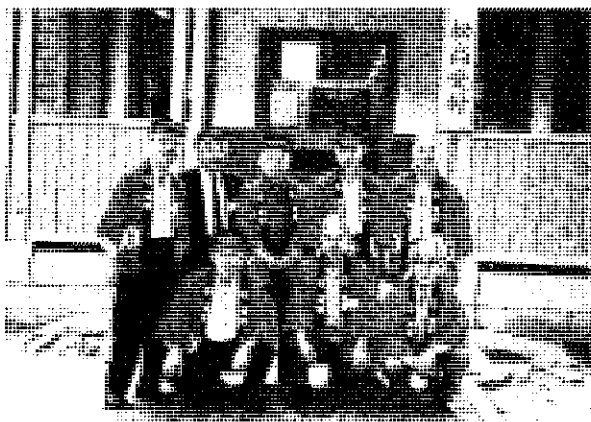
### ■大学卒業30周年記念同窓会

- ・昭和52年卒業(昭和48年4月入学)
- (工)12回 文(工)9回 経(法)8回
- ・平成19年5月12日(土)

・(於) 東京ドームホテル

## 第二十一回 信州寮歌祭

恒例の信州寮歌祭が平成十八年六月十日（土）正午より午後四時まで、松本市あがたの森にある県宝・旧制松本高等学校講堂で二十四の参加校・二百余名を集めて青春の息吹を再現させた。今年の寮歌祭の特徴は二つあり、一つは梅雨時にも拘わらず二十回台の最初を寿ぐように晴天であったこと。他は、例年のむせ返るような会場が参加者の減少か、ややゆとりのある雰囲気



気で寮歌を楽しむという雰囲気を醸し出したことです。

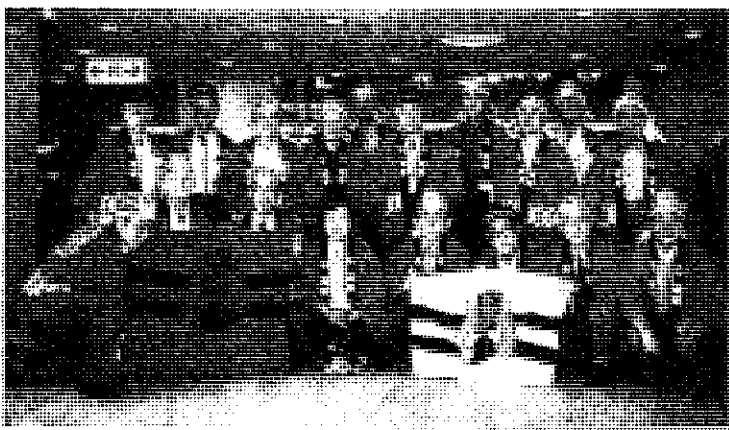
成蹊高からは常連の七名に加えて、ドイツ語の片山尚先生のご令息・義君が参加して一貫校の強みを示してくれりと共に、父君が旧制松本高校時代に作曲された「嗚呼青春」を同校のグループと一緒に歌って供養をされました。演壇では少人数の参加校が多く見られる中で、わが校は参加者全員が舞台一杯に拡がって「校歌」を全章披露して聴衆から盛大な拍手を浴びる一方で、他校の応援斉唱にも参加して友情も示すという楽しい寮歌祭の一日を過ごすことができました。

いずれの会合も縁の下の力持ちがあつて成り立つのですが、この寮歌祭では谷橋さん（二十一回理甲）が信州白線会副会長としてこの盛会に貢献され、また当日の式典における乾杯の音頭を取られたことはわが校の誇りの一つとして付記しておきたいと思えます。

井川舜喬（政経・29年）

## 第四十回 横浜寮歌祭

大きな節目を迎えている第四十回横浜寮歌祭が平成十八年六月二十五日（日）正午より十七時まで横浜市磯子区の横浜プリンスホテル三階宴会会場「桜の間」で参加二十八校・七百六十八名を集めて例年通り華々しい青春を回帰させることができました。省みれ



ば、一九六七年（昭和四十二年）に開始されたこの寮歌祭は今年で日本寮歌祭と同じ節目を迎えることになりました。奇しくも今回の会場がまた終焉を迎えることにもなったのです。まことに感慨無量なものがありません。

このような環境下で、成蹊高は一貫校の強みもあつて旧制高の常連十三人に加えて、新制高（女子一名を含む）・大学五名計十八名という過去最高の参加者を得ることができました。会場正面に設えられた舞台にはみ出さんばかりに拡がって、第一部ではこの会場で評価の高い「校歌」を全章、第二部では寮歌「膚を濡らす」を斉唱して観衆の唱和と共に大きな賞賛の拍手を受けることができました。これらの風景は「成蹊写真館」に投稿しておりますので是非ご覧ください。

来年以降の寮歌祭をどのように運営するのか現時点では未定であります。今秋から来春にかけて横浜白線会で結論を出すものと思いますので、決まり次第お知らせすることにしたと思います。

井川舜喬（政経・29年）

## 第38回 埼玉寮歌祭

平成18年8月27日(日)、標記寮歌祭が、さいたま市大宮区所在の「清水園」で開催されました。成蹊の参加者は、実行委員を勤めておられる野本氏を始め、赤石・小林・渋谷・島尾・西村・半田・渡辺の諸氏と私の計九名でした。(会場係の人にシャッターを切っていました。いただいた掲載写真のとおりです。)

成蹊の出番は、割合いに早く11番目でした。一昨年でしたか、やはりこの会場で、私どもの席近くを通りすがりに「成蹊さんの校歌は素晴らしいですね。私はいつも成蹊さんの出番には寮



歌集を開いて一緒に唱っています」と言ってくださった他校の方の言葉を思い出しながら、西村氏の音頭取りで、校歌を誇り高く斉唱いたしました。

もう60年も以前になりましたが、昭和20年に卒業の旧高19回生である同期の友人や私は、みんな80才台に達しました。埼玉寮歌祭の会場である「清水園」は、大宮駅から徒歩10分程度のところですが、夏場の炎天下の歩行は難儀なものです。駅を出て会場への同方向の道を行く一人或は二、三名の道連れを、その歩行姿勢からみて寮歌祭仲間だろうと思いつながら、ふと自分の歩行姿勢も同じかなと反省させられました。そのとき、心力歌の「心虚なれば體危し、動けば勞し行けば喘ぐ。心凝りて動ぜざれば、體ゆたかにして気飢えず、千里に行くも足軽く、萬鈎を荷ふも身は安し。」という言葉が思い出され、姿勢を正したことでした。

さらに成蹊時代を思い出しますと、敬愛すべき教師、温厚な先輩、愛すべき後輩と、正に「一つに集う、族吾等の園」という感懐が湧き戻って参ります。以前にも書いたことでしたが、「成蹊」の二文字ほど誇らしく懐かしい言葉はありません。この校歌は、いつまでも唱い続けたいものです。

間瀬 博(旧高・20年)

## 武蔵野寮歌祭

武蔵大野に風立ちて

旧制高校寮歌祭

有終の美の近きとき

「鐘子期死して伯牙また

琴を打たじと誓いてし」

かの絶絃を語わず

第17回嘯風武蔵野寮歌祭は9月の重

陽の節句の日、成城学園学生食堂で、

このような格調高い頌歌(四高・大杉

喜久男氏作)で幕をあげた。



春秋の時代の伯牙(琴の名人)と鐘子期(そのよき鑑賞者)の交友関係を旧制高校生の深い友情になぞらえて、「伯牙絶絃」の故事を冒頭に登場させたのはまことに時宜を得たものと感服した。

各校の寮歌斉唱に先立ち、主催校の成城の伝統あるコーロカステロ(旧制成城OB合唱団)が、校歌・ドイツ歌曲・ロシア民謡等を合唱し、聴く人に深い感銘を与え雰囲気盛り上げた。

成蹊は第一部で校歌、第二部で寮歌「膚を濡らす」を高らかに合唱、参加者数は10人で、首都圏や関西の七年制高校の中で他校を圧する人数を誇った。

開会にあたり来賓から、最も若い年齢の方が七十四、五歳なのでくれぐれもおケガのないよう……と念を押されたが、一回の元気はこれを杞憂に終らせ、めでたく定刻に閉会した。

次回は明春3月31日、武蔵高校で、と確定しており、盛会を期待したい。

赤石定次(政経・27年)

## 東海学士会寮歌祭

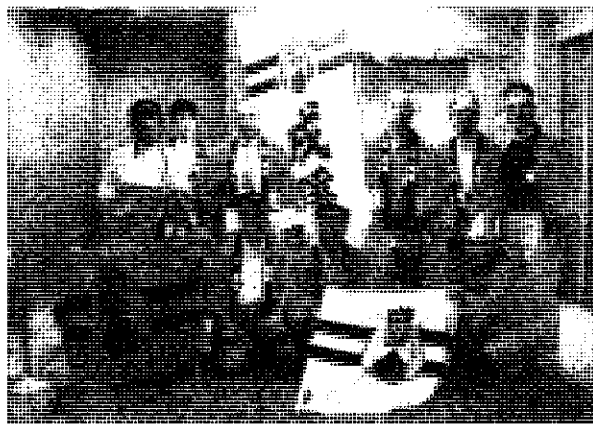
復活第2回東海学士会寮歌祭は、2

006年8月26日(土)、約500名が名

古屋市内の国際ホテル大広間に集まり、華々しく、熱っぽく開催された。

当校も、今年は特に成蹊会本部より

齋藤悠常務理事(当地出身のため友人知己が多い)が応援・激励のためお出でいただいたため、いやが上にも盛り上がり、10名で声高らかに校歌「土の育くむ」と寮歌「層を濡らす」を歌い



上げ、さらに出演前後の約4時間美酒に酔い料理に舌鼓を打ちながら大いに親睦の度を深めた。

なお、愛知成蹊会の参加者はつぎのとおりであった(卒業回順、学部・学科別)。

旧制高校…3名

由比健郎(20理甲) 立松延廣(22文甲)

杉田精孝(23文甲)

新制大学…6名

水野康次(17政経) 加藤 豪(11経済)

杉浦芳一(3法律) 大江秀和(7電気)

岩田賢一(17工経) 田中一徳(17工経)

由比健郎(旧高・22年)



## 情報図書館開館

国際化とともに、情報化を促進するために、多彩な情報機能を備えた成蹊大学・情報図書館が9月16日にオープンした。

成蹊学園の100周年記念事業の対象である同図書館は、各方面からの寄付に支えられており、寄付者を顕彰する第1期分寄付者銘板も披露され多数の卒業生が名前を連ねた。成蹊会は今後も卒業生への募金協力を積極的に呼びかけていく。



前回お届け致しました「成蹊会誌103号」の本文中に語句の誤りがありましたのでお詫び致します。尚、訂正文は左記のとおりです。

3頁一段11行目

誤 来る2014年…

正 来る2012年…

## 朝倉孝吉先生「お別れ会」

成蹊大学名誉教授で元成蹊大学長の朝倉孝吉先生（旧高16回）が平成十八年六月十八日に逝去されました。享年八十四歳でした。朝倉先生の生前を偲び去る七月十五日に聖イグナチオ教会にて「お別れ会」が催されました。

お別れ会では、加藤信也神父の追悼ミサの後、逸見謙三先生並びに杉山和雄先生による弔辞が述べられ、ご親族のご挨拶の後、献花が行われました。参会者一人一人が朝倉先生の遺影の前に、白いカーネーションを献花し、朝倉先生との別れの時間を惜しまました。

朝倉先生は、日本銀行での二〇年に亘るご活躍を経て大学教授に転じ、以後三〇年以上に亘り教育界に身を捧げられました。とりわけ学生の教育に情熱を傾けられ、多くの学生と接し、我が子同様の愛情を注がれました。それは勉学にとどまらず個性ある人格の育成に努められ、卒業後も、教え子の人生の過程において多くの大切な教えを与え続けました。

今回のお別れ会では、朝倉先生よりご薫陶を受けられた成蹊大学並びに東洋英和女学院大学のゼミ生OB（AK会）を中心に、クラブ顧問をしていた蹴球部のOB・現役など多くの方々が、喪主の朝倉きよ子さんを支え献身的に尽くされました。

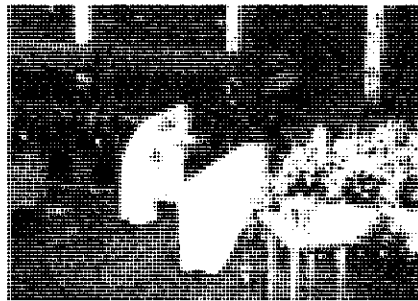
大学時代に恩師と慕う先生に出会い、社会人とし

て恩師と交わり、そして恩師とのお別れにも立ち会  
う、そのような師弟関係に教育の大切さとともに、  
教育の有難さを実感しました。

大学教育を通して、深い絆で結ばれた教え子に囲  
まれ、看取られた朝倉先生は大変幸せであったと思  
います。

朝倉先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

高橋章建（法・60年）



## ● お問い合わせ

同窓会の要は、まず名簿の整備に始まり、  
名簿の整備に終ります。

成蹊会では各学校学部周年行事や各種同  
窓のつどい実施のご報告を戴く都度、又ゼミ  
ナールや体育会文化会OB会地域成蹊会等  
のご協力を得て、住所不明者を少しでも減らす  
べく努力してまいりました。

しかし、未だ二割程度の方々の住所が不明  
です。

一層充実した名簿と同窓会活動活性化の為  
に、ご存知の方の住所が漏れておりましたら、  
本部宛に是非お知らせ戴きたくお願い致しま  
す。

本部ではご本人に確認の上、会員データの  
更新を行います。

## ● 会員名簿取り扱い上

### のお願い

成蹊会の会員名簿には個人のプライバシー  
に関する重要な項目が盛り込まれています。

「会員名簿」の発行を続ける為には、その  
取り扱いに十分注意し、責任を持って利用さ  
れるよう、ご配慮をお願い致します。

特に古い名簿の廃棄処理は、廃品回収に出  
さずに、細断破棄して戴くか成蹊会宛にご送  
付ください。



～私の推める本～

## 『物理学はいかに創られたか』

アインシュタイン (Albert Einstein) 著  
 インフェルト (Leopold Infeld)

石原純 訳 (岩波新書、本体価 上巻700円、下巻740円)

さとう たかあき  
 佐藤 隆昭

大学生活が始まりしばらくすると、この大学生活に何か物足りなさを感じてきました。高校と大学の境界線がまだ分からなかったのか、もしくはそんな境界線があるのかも分かっていない時期だったのかもしれませんが。そんな中、講義の最中にアインシュタインとインフェルトによって書かれた「物理学はいかに創られたか」という本を紹介して頂きました。当時、私は本を読むということについて、ネガティブな印象を持っていました。というのも、今まで本とは自分から読み始める物ではなく、他人に読まされる物だったからです。今思うと、当時の私は全ての事柄について受身でした。

特にやる気を出して読んだわけではなく、通学時のヒマを紛らわすためにこの本を読んだところ、アインシュタインの描く鮮やかな世界観に感銘を受けました。自分の中にあつた疑問が次々と消えていくと同時に、次々と新しい疑問が湧き出してきました。そして僅かな時間を見つけては、新しい疑問について自から解決を試み、また自から問題を見つけるといった主体性に溢れ、結果として充実感に満たされていた記憶があります。大学生活のなかで、能動



的に動くから本気で熱中する事が出来、熱中するからこそさらに面白くなるのだという事を体験しました。今考えると、この本が、受動から能動の境界線を越える、最初のきっかけだったのではないかと感じています。

私は必ず気をつけている事があります。それは決して「憧 (あこが) れない」様にする事です。なぜかという、もし誰かに憧れてしまったら、私は二度とその人と同じレベルの仕事は達成出来なくなると考えているからです。しかし、この本を読むと、今でも私はアインシュタインに憧れてしまいます。(工・平17年)

The Japan Times

Monday, September 25, 2006

4th EDITION ¥150



www.bonjansjapan.net

The Japan Times

Tuesday, September 26, 2006

LDP exec picks told up for '07 Diet poll

...in the election. ex-... have a crucial battle... (winner) and I want to... saying, I have into my... '07 Diet poll

...voter pollsters and former... health minister, and historian... the LDP Executive Council... making the party's top decision... body... '07 Diet poll

...LDP executives expressed... their willingness to push the... agenda forward... Chief Nakagawa said he... wants to actively solicit pub-... lic opinion... '07 Diet poll

...The first thing they have to... do is get a bill passed so... that the consultation can... be held... '07 Diet poll

FROM ONE TOP DOG TO ANOTHER



Thaksin may have spirited some assets overseas

BANGKOK (AP) Former Prime Minister Thaksin Shinawatra may have whisked some of his assets out of the country aboard two aircraft in the days before a military coup ousted him from power, airline officials said Sunday. An official from Thai Airways International, who demanded anonymity because of the sensitive nature of the policy, does not say...



New LDP leaders in a show of unity after appointing... (word from left) as chairman of the Executive Council... '07 Diet poll

改革に終わりはない... 長谷部副... '07 Diet poll



以下に... '07 Diet poll

読者新聞

2006年9月26日



新内閣今夜発足

財務尾身氏... '07 Diet poll

あしん財恒 0120-311-816

安倍首相が誕生

官房長官(益崎)... '07 Diet poll

改革に終わりはない... 長谷部副... '07 Diet poll

改革に終わりはない... 長谷部副... '07 Diet poll

以下に... '07 Diet poll

以下に... '07 Diet poll

速・補強... '07 Diet poll

成蹊学園から初めての内閣総理大臣誕生! 安倍晋三氏 (法・52年) 麻生氏

## 春秋

千円札を使い、たびに野口世世の偉業に思いをはせる。そんな人はあまりいないだろう。歴史の功労者は紙幣や道路の名前となって人々の記憶にとどまり、同時に命なき「記号」化する。

▼「クニナド」に使える「アイビー」のロゴが、野口世世の功績を称え、千円札に採用されたのは「クニナド」が唯一だった。スウェーデンから独立宣言した連年の父エミリオ・クニナドの名を冠した同国の原産品と呼べる場所である。一八九八年に独立軍を率いた初代大統領は当時二十九歳。肖像は五、七歳にも満たない。ニッケル銀の薄い金色の輝きは寂しい。

▼クニナドには日本と浅からぬ縁があった。一点は日活の創設者の一人梅屋庄吉だ。庄吉は二十七歳のとき、東京で写真館を営んでいた。ここに二十九歳の彼と出会い、後年、私財を投じて辛亥革命を支援する。自転車屋だ。亡命者のクニナドと親交を深め、三人はアジアの運賃や自立を熟く語り合った。

▼庄吉が始めた武器を積んだ船は、長崎を出たが、嵐で沈んだ。独立したはずのフィリピンは軍閥不正な度、米国の植民地となり、梅屋家は破産状態となった。庄吉の孫である日比谷の料理店「松本楼」の新居嗣朗副社長(70)は祖父の時代を語り、「名や財より日本人がいたことを忘れないでほしい」

小金井市を拠点に創作を続けた洋画の巨匠・中村研一(1905-1997)年。その作品を後世に伝えるため、妻の富子(98)が自宅に私財を投じて建てた「中村研一記念美術館」が、今月、市立美術館に生まれ変わった。運営資金が乏しくなり、富子さんは高齢になったため、決断した。長年守り続けた思い出の絵を他人に託すことに不安もあるが、「相木で打ち込めばしまらない絵描きなどはいい思い出だから」と富子さんは穏やかに愛情を語っている。

### \* 小金井

玄関の看板は先月末、中村研一記念小金井市立美術館美術館へと掛け替えられた。「研一」は市を東西に横切る高層ビルのカフェで、地域に響かぬ水や緑をほくくみ、親しまれている。少し長い名前を富子さんは「あまのりゃれい」なげに、夫の名が付けただけで良しとしようかと笑みを浮かべた。

中村研一は戦前、帝展や文展を数多く入賞。12歳年下の富子さんと1926年に抱き合い結婚した。代々木のアトリエが空襲に遭った後、自然の豊かな同市に転居。襦袢や着物画などに打ち込み、富子さんをモデルに100枚以上の挿入画を描いている。

しかし、87年3月、体調を崩して入院し、半年後に亡くなった。72歳。富子さんだ。自宅は午前10点を過ぎればシャッター、陶芸作品が並べられた。富子さんが美術館を開いたのは、それから20年以上たった88年。絵に力が見え、つかり、収納庫を造らうと

## 「中村研一美術館」まるごと市に寄贈

## 巨匠洋画家の妻・富子さん 高齢のため

## 夫への思い 「未永く」

## 「未永く」

ただいま、夫の友人から「願ったが、偽作が横行する。陳列したと認められる中、夫の業績を語れる機会がなくなってきた。迷い、後悔を懐い、生霊一度しを消したまま自宅を改装か画廊を開かなくなった夫、自身は「随に任んた。は、自分の美術館なんて反、開館後も心の中で夫に「対するに訴えている。そめんをい」とおびた。

しかし、美術を志す若者、手なげなかつたので、関東が全国から訪ねては、「おで「良くなった。お金も手本になりまし」感動になる。バラの花をなさんとした」とノートに書き残すのを見て、いつも強そうに富子さんを指導して来た夫の姿を思い出した。「研一さんが絵に注いだ情熱を伝えることができて良かった。美術館を建てたときと許してあげるはず」と誓え直すようになった。

だが、最寄り駅から離れた住宅街の私設美術館は、多数の来館者は望むべくもなく、資金繰りは年々厳しくなっていた。自身も年を取り、夫の画廊を今後も運営するため2003年、作品ごと美術館を譲り渡したと市に申し入れた。1階展示室は今後、市の企画展などに利用され、中村研一専用の美術館ではなくなった。しかし、2階に建設ロビーが作られ、富子さんも同じ階に住み続ける。

夫は初対面の後、襦袢の絵を見てショックを受けた。自分の胸中を察し、結婚後1年間、襦袢を描かなくなった。売るための絵は決して



美術館2階の自室に飾られた夫・中村研一の写真を見る富子さん  
富子さんがお気に入りの自身をモデルにした「挿入画」(1963年) 富子さん提供

くれた。これからもそんな人々の思いを語り添っていく。  
もう少し暖かくなった富子さんは、夫の遺影に出かけた。夫の遺影は、おなじみで絵も私も無事です。報告しようと思っ

中村化成  
工業社長

マーク・ポーラさん

故郷から遠く離れ、太田市に根を張って六年。ヘルメット姿も様になってきた。プラスチックリサイクルという仕事に大きな魅力を感じ、日々、新たな可能性に挑んでいる。「家族にも、スタッフにもお客さまにも恵まれている。この生き方を選択して良かった。ハッピーです」

## 挑戦者たち

カナダ国境に近い、米国ニューヨーク州で生まれた。日本文化に関心を持ち、ジョージワシントン大では、アジア文学を学んだ。そこで、運命の人となる中村昇子さんと出会った。

ひかれ合った二人は一九九二年に結婚した。米国で新たな生活が始まったが、日本文化をさらに究めようと成蹊大に留学。夏休みのアルバイトで妻の家業を手伝ったことが、大きな転機となった。

ワシントンの国会図書館に就職も内定していたが、「全く違う分野に飛び込んだ方が、大きな転機となった。」

出荷量は、〇五年には五千トに増えた。「生産能力はエンドレス。需要は年々増えるので、今後さらにリサイクル原料の仕入れに力を入れたい」と意気込みを語る。

## 品質管理で信頼得る

リサイクル装置を開発。県の「一社一技術」にも認定された。「品質管理には特に力を入れ、顧客の信頼を勝ち得た。〇〇年に年間二百トだった」

「ここ数年、リサイクルへの意識は高まっていると実感する。「環境、資源の問題から考えても大切な仕事。社会に貢献できる事業だから、やりがいがある」と胸を張る。出会いを大切にしてきた三



「毎朝、きょうは何が起こるか楽しみ」と話すポーラさん

### プロフィール

マーク・ポーラ 一九六九年米国立成蹊大学で、日本文学などを学ぶ。二〇〇〇年一月入社、〇五年十二月社長に就任。太田市在住。36歳

宮本保孝氏 (旧高・25年)

戦後の金融行政を大きく転換した仕事師だった。大蔵省(現財務省)の銀行局長だった一九八四年、「金融の自由化および円の国際化についての現状と展望」をまとめた。大口預金金利から段階的に自由化する内容で、規制金利に基づく護送船団方式に風穴を開けた。

まとめるに当たって最初に打ち出した基本原則は「自主的」「積極的」「ステップ・バイ・ステップ」の三つ。ところが、当時「ロン・ヤス」関係といわれるほど「リーガン米大統領とのパイプが太かった中曽根康弘首相から、「歩くのは困る、走ってくれ」との電話が入る。

そこでひねり出したのが「ステップ・バイ・ステップ・ウィズ・ロング・ストライド」。歩くのだけど、大またで歩くとの妥協案だった。外圧をかわし、金融秩序に配慮して漸進主義を貫く巧みな手綱さばきだった。それで中曽根首相は降り、日本の金融自由化の基

## 追想録

# 金融自由化へ歩み大きく

前信金中央金庫理事長

宮本 保孝さん



一部の銀行がセントラル・バンクの名を使うのに反対した。

それを押し返した昭和二十八年同期入省の友人である大場智満・元財務官は自ら手がけた自由化で痛手を被った業界を立て直した。立派なセントラル・バンク「だった」と振り返る。

実際、在任中に総資産を三十兆円に寄せ、格付けも邦銀で最上級を確保、さらに東京証券取引所に優先出資証券を上場した。信金中央金庫の「中興の祖」と呼ばれるにふさわしい足跡を残している。

本姿勢が決まった。自由化の道筋をつけた本人が、自由化の影響を受ける金融機関側に転じたのは九三年。信用金庫の上部団体である全国信用金庫連合会の初代専任理事長になった。

くしくも経営不振に陥った若手頃の釜石信用金庫の清算が発表された翌日のことだった。銀行局長を三年務め数々の金融機関救済に携わったが、民間に移ってもその仕事から逃れられなかった。

信用金庫の合併や再編の

支援に取り組むなかで、実質的に破綻した信用金庫は近隣の信用金庫に合併させる「業界内処理」に強くなった。危機に陥った信用組合や銀行が次々に公的資金に頼るなか、「信用金庫はやたら税金は使わない」と強いを強調し続けた。健全性は自ら守り抜くも「のだ」というのが信念だった。

危機をほぼ乗り切った二〇〇〇年に全国信用金庫連合会の名称を信金中央金庫に変えた。英語名はシンキ

11月27日没、75歳  
編集委員 太田康夫

日本経済新聞 2006年(平成18年) 4月14日付より

## ●学園史料館に貴重な手持ち資料のご寄贈を

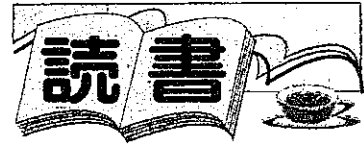
お手持ちの品(写真、教科書、教材、文集、賞状、各種ユニフォームなど)でご寄贈いただけるものがありましたなら、ご連絡をお願いします。写真は複写の後お返しします。書き込みや汚損も歴史を物語る証しです。現存のままでご寄贈いただければと存じます。来る2012年に迎える学園創立100周年に向けて、今後とも一層のご協力をよろしくお願いします。

成蹊学園 学園史料館

〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1

(電話) 0422-37-3517 (Fax) 0422-37-3704

Eメール: koho@jim.seikei.ac.jp



いしだ まさみ  
石田 正美氏

「東アジアの経済回復が軌道に乗り、メコン地域の経済発展の可能性が大きくなりました。」  
「東アジア諸国は、アジア通貨危機以来の困難を乗り越えつつある。04年11月に小泉純一郎首相が、メコン地域支援で42

## 著者登場

6億円の円借款供与を表明。ベトナム中部のハイパントンネル完成で、南北交通のネックが解消され、ラオスとの交通が開けた。タイ・ラオス間の第2国際橋も年末の完成予定だ」

「本書はカンボジア、ラオス、ミャンマーといった国々の経済発展を、域内で発展が相対的に進んでいるタイ、中国雲南省、ベトナムとの関連でどう促すかを検討したメコン地域開発研究分科会の成果を、私が編者となってまとめた」

## メコン地域開発

図説した東アジアのフロンティア

(日本貿易振興機構アジア経済研究所刊、043・299・9735)

### 中・印にはさまれ発展可能性

**プロフィール**  
83年(昭58)成蹊大法学部卒。85年筑波大大学院経営・政策科学研究科修了。同年芙蓉情報センター(現みずほ情報総研)入社。93年日本貿易振興会(現日本貿易振興機構)アジア経済研究所入所。05年5月から同研究所の研究チーム「メコン地域開発研究分科会」主任・幹事。東京都出身。45歳。

「パンコクアソンベン・ホーチミンをつなぐ南部回廊は確実に発展する。東西回廊はタイからミャンマー・モラウィヤン間の可能性が大きい。ラオスからベトナム中部にかけては貧困地帯で難しい。だが、タイ側、ベトナム側の発展次第で大化けする」

「東南アジア諸国連合(ASEAN)諸国は格差是正をうたい、メコン地域の支援を表明。日中韓も同様していますが、各国とも腹に一物ありそうです。」

「関係が密になればなるほど衝突が起きる。利用可能資源が希少化すればするほどエゴは鮮明になる。雲南省は港の確保とタイ市場進出を目指している。タイは中国とインドのバランスを保ちつつ、域内覇権を握ろうとしている。ベトナムは中国・インド市場を狙い、各国と大入の付き合いをしている」

「歴史的に折衝曲折がある地域で、感情は複雑だ。露土関係が続く保証はない。日本は、国間関係を善美に築くべきだ」  
(編集委員・石塚善久)

### 平成十八年度(春) 叙勲受章者

(敬称略)

旭日重光章

佐藤 敬夫(政経37年) 元衆院科学技術委員長

瑞宝中綬章

飯田 芳男(特別会員) 成蹊大学名誉教授

片山 透(旧高25年) 元国立療養所東京病院長

富井 政英(旧高20年) 九州大学名誉教授

### 平成十八年度(秋) 叙勲受章者

旭日大綬章

梶谷 玄(高28年) 元最高裁判事

瑞宝重光章

毛利 秀雄(旧高25年) 元岡崎国立共同研究機構長

瑞宝中綬章

島 一雄(高29年) 元水産庁次長

### 平成十八年度(秋) 文化勲章受賞者

文化勲章

篠原三代平(特別会員) 元成蹊大学教授(経済学部)

(本会調べに漏れがある場合には、お知らせ頂ければ幸いに存じます)

## 多摩に暮らす

小澤酒造社長

小澤 順一郎さん

「一番の趣味はお酒」。と、いって、300年続く酒蔵の2代目となる。ただ飲んでいただけで、酒を数人のベテラン職人と利き酒はないうらだ。「こんな酒が、口し、でまほえを手エックする。

### 「季節感のあるお酒に力を入れる」

社長になってすぐ、仕事は激変した。酒造りには杜氏(こうじ)が欠かせない。冬に出稼ぎにへる

社長になってすぐ、仕事は激変した。酒造りには杜氏(こうじ)が欠かせない。冬に出稼ぎにへる

み。社員は通年勤務に仕事は昼間。酒造りのシステムも設備も新しくなった。

地酒や吟醸酒ブームもあり、日本酒は元気だった。パブルがはじけ、焼酎の伸びと反比例する形で、日本酒人も下降の一途。大型のデ

イスクラント店が続々と開店、酒の価格破壊も進んだ。「出荷量は

約7000石、1升瓶で70万本。最盛期より4割も減った」

酒にもまた日がさし始めた。だが、日本酒も量より質の時代。「四季折々の料理や食事に合う季節感のある酒に力を入れている」

酒蔵は、多摩川の清流に臨む青梅線の沢井駅前にある。予約すれば、見学もできる。周囲は山林。広い敷地に、料理屋「まこと屋」

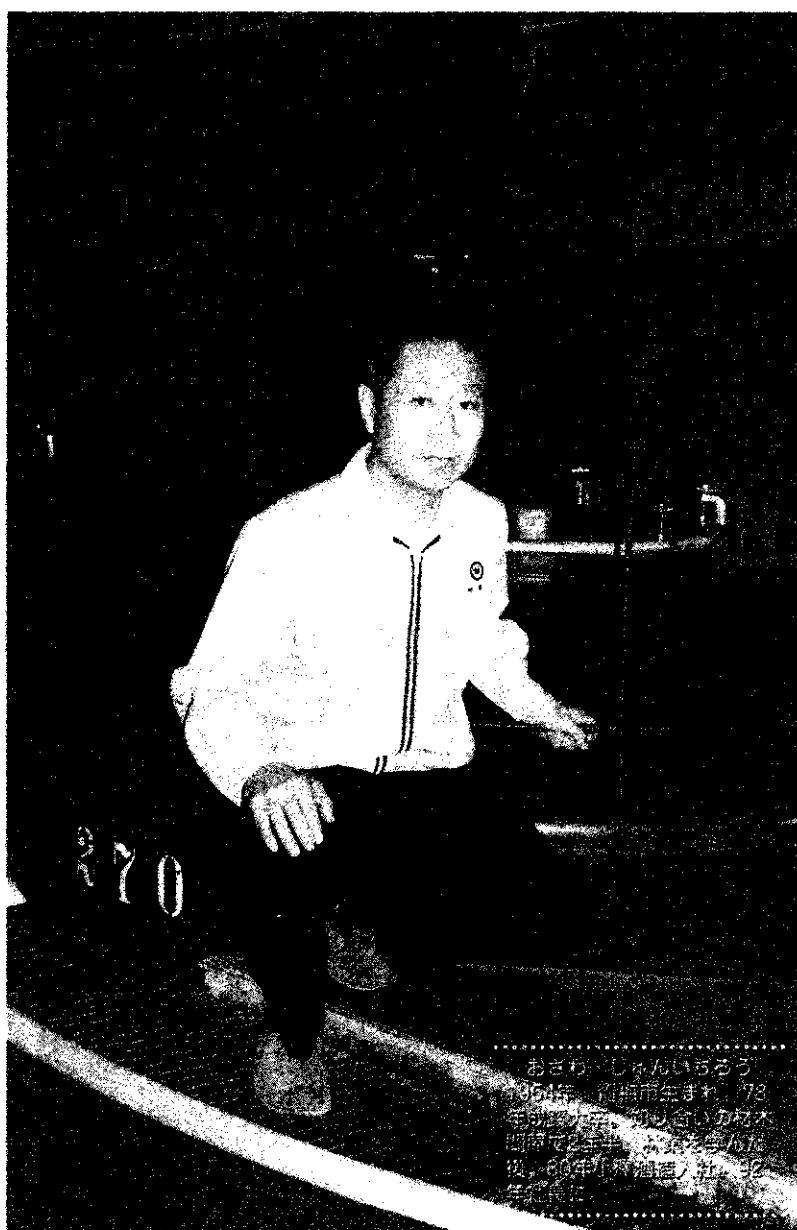
「櫛(くし)かんざし美術館」などを展開、観光バスも立ち寄る。

「お客さまの身なりもスカートに革靴から、ハイキングスタイルへと変わった」。時の変化がここにもある。

東京の酒蔵は13。日本酒ファン「の底上げを目指す」、西多摩地区の4蔵が「西多摩の地酒を楽しむ会」を定期的に開いている。

小澤酒造単独でも寄席などを企画、新たな試みが続いている。「飲食店や料理屋さんにお酒を売っていただくのがうちの本業」。飲食部門をこれ以上拡大して得意先の商売を荒らすわけにはいかない。板ばさみの心境でもある。

(朝日新聞・榎木 裕七)



小澤順一郎氏(経・52年) アサヒタウンズ 2006年(平成18年)6月22日付より

牧田友太郎氏（政経・38年） アサヒタウンズ 2006年（平成18年）7月6日付より



武蔵野スケッチ同好会代表幹事・牧田友太郎さん  
 1枚、小口さんを探しての、  
 2人、人が入っているところまで



スケールをのぞきながら鉛筆を走らせる牧田友太郎さん。いずれも小金井市の江戸東辰たてもこの国で

## 武蔵野スケッチ同好会代表幹事・牧田友太郎さん

「武蔵野スケッチ同好会」の代表幹事として活躍する牧田友太郎さん。その活動の中心は、武蔵野公園のスケッチ活動にある。同好会は、03年4月の発足以来、毎月1回、武蔵野公園のスケッチ活動を行っている。その活動の中心は、武蔵野公園のスケッチ活動にある。同好会は、03年4月の発足以来、毎月1回、武蔵野公園のスケッチ活動を行っている。

## 武蔵野スケッチ同好会代表幹事・牧田友太郎さん

「武蔵野スケッチ同好会」の代表幹事として活躍する牧田友太郎さん。その活動の中心は、武蔵野公園のスケッチ活動にある。同好会は、03年4月の発足以来、毎月1回、武蔵野公園のスケッチ活動を行っている。

「武蔵野スケッチ同好会」の代表幹事として活躍する牧田友太郎さん。その活動の中心は、武蔵野公園のスケッチ活動にある。同好会は、03年4月の発足以来、毎月1回、武蔵野公園のスケッチ活動を行っている。

「武蔵野スケッチ同好会」の代表幹事として活躍する牧田友太郎さん。その活動の中心は、武蔵野公園のスケッチ活動にある。同好会は、03年4月の発足以来、毎月1回、武蔵野公園のスケッチ活動を行っている。

「武蔵野スケッチ同好会」の代表幹事として活躍する牧田友太郎さん。その活動の中心は、武蔵野公園のスケッチ活動にある。同好会は、03年4月の発足以来、毎月1回、武蔵野公園のスケッチ活動を行っている。

「武蔵野スケッチ同好会」の代表幹事として活躍する牧田友太郎さん。その活動の中心は、武蔵野公園のスケッチ活動にある。同好会は、03年4月の発足以来、毎月1回、武蔵野公園のスケッチ活動を行っている。

「武蔵野スケッチ同好会」の代表幹事として活躍する牧田友太郎さん。その活動の中心は、武蔵野公園のスケッチ活動にある。同好会は、03年4月の発足以来、毎月1回、武蔵野公園のスケッチ活動を行っている。

「武蔵野スケッチ同好会」の代表幹事として活躍する牧田友太郎さん。その活動の中心は、武蔵野公園のスケッチ活動にある。同好会は、03年4月の発足以来、毎月1回、武蔵野公園のスケッチ活動を行っている。

「武蔵野スケッチ同好会」の代表幹事として活躍する牧田友太郎さん。その活動の中心は、武蔵野公園のスケッチ活動にある。同好会は、03年4月の発足以来、毎月1回、武蔵野公園のスケッチ活動を行っている。

「武蔵野スケッチ同好会」の代表幹事として活躍する牧田友太郎さん。その活動の中心は、武蔵野公園のスケッチ活動にある。同好会は、03年4月の発足以来、毎月1回、武蔵野公園のスケッチ活動を行っている。

「武蔵野スケッチ同好会」の代表幹事として活躍する牧田友太郎さん。その活動の中心は、武蔵野公園のスケッチ活動にある。同好会は、03年4月の発足以来、毎月1回、武蔵野公園のスケッチ活動を行っている。

「武蔵野スケッチ同好会」の代表幹事として活躍する牧田友太郎さん。その活動の中心は、武蔵野公園のスケッチ活動にある。同好会は、03年4月の発足以来、毎月1回、武蔵野公園のスケッチ活動を行っている。

「武蔵野スケッチ同好会」の代表幹事として活躍する牧田友太郎さん。その活動の中心は、武蔵野公園のスケッチ活動にある。同好会は、03年4月の発足以来、毎月1回、武蔵野公園のスケッチ活動を行っている。

「武蔵野スケッチ同好会」の代表幹事として活躍する牧田友太郎さん。その活動の中心は、武蔵野公園のスケッチ活動にある。同好会は、03年4月の発足以来、毎月1回、武蔵野公園のスケッチ活動を行っている。

「武蔵野スケッチ同好会」の代表幹事として活躍する牧田友太郎さん。その活動の中心は、武蔵野公園のスケッチ活動にある。同好会は、03年4月の発足以来、毎月1回、武蔵野公園のスケッチ活動を行っている。

「武蔵野スケッチ同好会」の代表幹事として活躍する牧田友太郎さん。その活動の中心は、武蔵野公園のスケッチ活動にある。同好会は、03年4月の発足以来、毎月1回、武蔵野公園のスケッチ活動を行っている。

「武蔵野スケッチ同好会」の代表幹事として活躍する牧田友太郎さん。その活動の中心は、武蔵野公園のスケッチ活動にある。同好会は、03年4月の発足以来、毎月1回、武蔵野公園のスケッチ活動を行っている。

「武蔵野スケッチ同好会」の代表幹事として活躍する牧田友太郎さん。その活動の中心は、武蔵野公園のスケッチ活動にある。同好会は、03年4月の発足以来、毎月1回、武蔵野公園のスケッチ活動を行っている。



小口間の橋を眺めながら武蔵野スケッチ同好会のメンバーたち。牧田さん（右）も写っている。

安倍晋三氏（法・52年） 共同通信配信 2006年（平成18年）11月12日付より



小学校の同窓会に向かう安倍首相

## 安倍首相 成蹊小学校 同窓会出席

「やはりほっとできませぬ」。安倍晋三首相は11日夜、都内のホテルで開かれた成蹊小学校（東京都武蔵野市）卒業40周年の同窓会に出席、懐かしい顔触れと旧交を温めた。「行きたいところにも行けず、会いたい人にも会えない」（昭恵夫人）日常だけに「子どものようにリラックスした笑顔」（出席者）で、国政から離れて和やかな時間を満喫したようだ。

首相は、同級生ら約140人の参加者と3人の恩師を前に、母校の理念が「美しい国、日本」というキャッチフレーズを作ったとスピーチ。恩師に感謝の意を伝え、教育改革への抱負も語った。

午後5時から約3時間の同窓会に、首相は最後まで参加。最後は全員で校歌を斉唱。閉会後もしばらく、仲間らに囲まれて記念写真に納まり続けた。



土方敏夫先生 産経新聞 2006年(平成18年) 8月13日付より

## 黒木和雄監督 遺作映画で軍事指導

第二次世界大戦で零戦搭乗員として戦った日々。戦死した同期生たちへの思い。84歳の元海軍大尉が毎週、ウェブサイトへ海軍予備学生時代の思い出をつづっている。黒木和雄監督の遺作「紙屋悦子の青

# 思いにじむ終戦の夏

春(12日公開)で軍事指導を行った土方敏夫さん。終戦から61年目の夏、映画の製作現場や戦争当時を振り返った。  
(市川雄二)

「喜んでお手伝いしましシーンで、ワイシャツの袖口が、海軍少尉として戦闘機隊艦に突っ込むのを援護、B29に配属となった。鹿児島島の戦いを迎え撃つ遊撃戦などに参加した。黒木監督の助監督が東はぶらなっていたかも知れぬ、軍事指導を依頼。土方さんの袖口はシングル、士官はダブルでカフスボタン。海軍式り、昨年10月から約1カ月、の敬礼もアドバイスした。東京・調布の撮影所に毎日の監督とたわいのない話に興じた。

松田正隆原作の「紙屋悦子の青春」は終戦間近の鹿児島が舞台。先輩の妹に心ひかれながらも、同期の整備予備士官に彼女を託して特攻隊員となる13期予備学生が登場する。男女お互いの心に秘める思いがにじみ出る。実際に13期予備学生だった土方さんに彼らの切なさがよくわかった。

町へ出かけるときに飛行靴は履いていたか。腰の短剣はよその家に行ったときどうやっつけてかけるのか。上着を脱ぐ搭乗員に。特攻に志願した

「自分が残るとはいい仕事ですね」と言っ、黒木監督は応じた。「決して偉ぶったりしない、人柄の良い方でした。零戦や飛行場は出てきません。若者たちを温かい目で表

ウェブサイトへ海軍予備学生に関する文章を毎週掲載している土方敏夫さん



## 元海軍大尉 网站上「予備学生のつぶやき」掲載

「まわりはすべて敵」。昭和21年春(るまで、新宿の關市がった青年たちのごを書きなどに出かけるとき、海軍で残したい」といった思いから使った筆跡を腰にさせた。

平成16年に単行本「海軍予備学生 零戦空戦記」(光人を考えるとき役に立ちました)をまとめた。映画の軍事指導もこの本が縁を結んだ。間が解決するのです。戦後は中学や高校で数学教諭となった。東京の成蹊学園は零戦関係者で作る「零戦の会」公式サイトにも書いた。外務省の子女教育相談室長 毎週月曜に「予備学生をつぶやき」を務めた。海外子女や帰国子女の問題にかかわり、力を入れている。連載は50回を超えたのがカルチャーショック。文庫本で出版する計画も持上っている。高齢にもかかわらず、海外へ出た。高齡にか

ときより、日本に帰国したときの方がショックが大きい。数学教諭のころからコンピュータに詳しく、操作に興味を持った。「私も終戦直後に猛烈なカルチャーショックを受けました。手はひら返すように。これからは恋愛に関して世の中が変化。「特攻くずに戦ってきたかとか精神面れ」といった言葉を耳にし、今年も15日は靖国神社に参腹が立った。国や家族、恋人のために死んでいった仲間が、今年も15日は靖国神社に参中けらのように扱われた。語り合っ。

**海軍予備学生 海軍飛行科予備学生の略。昭和9年、航空機搭乗員養成のため発足。のち一般兵科にも拡大され、大学生などの志願者より採用、訓練の予備士官となった。採用人数は9期(17年)まで50人未満だったが、13期(18年)は500人を超えた。**

# ポスト小泉入

## しずみかからの注文

■ 3

—小泉政権で子育て環境は変わりましたか。—  
 「保育園の年中児と小学三年の子供がいるが、何かが変わった実感はない。保育園で言えば、待機児を減らすために人数枠が増えたり、無認可が認可になった所もあったものの、実際、国が何をしてくれたのかは明確に伝わってこない。児童手当を拡充する動きはあったが共働きには関係ない。これまで金銭的な補助を受けたことはない。共働きだと保育料も高くなる。保育園に入れ

—少子化対策として、子育て世代の働き方の見直しを始めました。—  
 「私の会社は理解があり、育児休業も取得してきた。それでも子育てしながらフルタイムで働くのは大変。時間給やワークシェアリングがある。小泉政権では男性の育児休業を進めたが、必ずしも男性に育

は思わない。授乳するのは母親だし、一年間は女性も休職できる。一年過ぎた後に父親が育児にどうかわるかが問題。育児休業が終わったからといって育児は終わらない。出産直後に目を向けず、産まなくなるのかも。若い人に優しくないと会社で問題でもあると思う。年金を払っても将来を養っている感じもする。できれば結婚して子供を産みたいと思わない人はいない」

—出生率は下がる一方、若い人に優しくないと会社で問題でもあると思う。年金を払っても将来を養っている感じもする。できれば結婚して子供を産みたいと思わない人はいない」

—新総裁立候補者の意見をどう思いますか。—  
 「少子化に対する危機感を感じられない。安倍さんのポリシーには共感するが、具体的な理解できるが、それが本当に少子化が解消されるのか疑問。谷垣さんは社会保険費として消費税を上げようとしているが、ますます若い人の税金がなくなってしまう。」

# 危機感欠く少子化対策



「若い人たちが将来が不安で結婚や出産に踏み切れないならば、まずは安心して暮らせる社会が必要。国の施策は当り組めば国民の意識も変わります」

—聞き手・社会部山本真紀

成蹊大時代の同級生で、大手倉庫会社福岡支店副支店長の高山和彦氏(51)は産経新聞に手記を寄せた。

安堵、高山と呼び合ったのはもう30年前。これからは、さすがに呼び捨てはできなくなるな。

それにしても、君が総理になるなんて、学生時代は夢にも思わなかったよ。大卒では「行政学」(佐藤三教授)のゼミで3年間、難しい専門書を読みこなすのにも苦労した。君は人を押しつけて発言するので

## 成蹊大の同級生が手記

はな／＼、ゼミ生の議論が白熱すると、「ポイントはこの」と調整役に回ったもの

## 山登りで指導力 印象一変

だ。甘い物が好き、ときおり真つ赤な外車で大学に来ていた君。いろんな思い出があるけど、3年時の長野県へのゼミ合宿は、いまでも忘

れられない。最終日に2000級級の山登りに行ったと云だ。分岐点が多く、迷いやすい山だったけど、君は先頭に立って、十数人のゼミ生を引っ張っていった。君が担当した年は強面

と。最初の衆院選に挑む会合に応援に行ったけど、「拉致問題は国家的問題だから放置できない」と声を大にして訴えていた。随分たくましくなったと、再びイメージが変わった。

くれた。不慣れた女子学生にも、歩くペース配分も配慮するリーダーシップありで、印象ががらりと変わった。君は、体育会ではアーチ

織田信長型の小泉純一郎首相に比べ、「信長と家康の中間型」と君は語っているように、政策は分らないで信念を貫き、戦後生まれ初の総理として新しい日本をデザインしてほしいと思っている。

西川昌宏氏（高・28年） 読売新聞 2006年（平成18年）10月18日付より

## 昭島の生糸 米博覧会で「グランプリ」

# ひ孫 授賞式

米・フィラデルフィア市で100周年に開かれた国際博覧会「グランプリ」を獲得しながら、授賞式出席できなかった昭島の製糸会社創業者のひ孫が、フィラデルフィア市の「再現、シブツ製糸機」に出席して、足らぬほど涙が溢れ出た。足らぬほど涙が溢れ出た。足らぬほど涙が溢れ出た。足らぬほど涙が溢れ出た。



フィラデルフィア市から贈呈された銀の皿を持つ西川知恵子さん（前）と弟の昌宏さん（右端） 知恵子さんは提供

### 80年ぶり

今日10日に再現された授賞式に招かれたのは、昭島市の西川知恵子さん（75）と弟の昌宏さん（72）。二人は1000年代に同市で「西川製糸」を開業した西川伊左衛門のひ孫だ。同製糸はメソケンケの材料として生糸をアメリカに輸出。その品質への評価は高く、米独立150周年の記念で開かれたフィラデルフィア博覧会「グランプリ」に輝いた。だが伊左衛門は足を骨折したため授賞式には出られなかった。昨年12月に死去した知恵子さんの母は、亡くなる直前まで伊左衛門の無念そうな様子を語っていたとい

### 側が現 米再 創業者の悲願成就

Izaemon Nishikawa is finally getting his due. Nishikawa, a pioneer in Japanese raw silk, won the grand prize during the Sesquicentennial International Exposition held in Philadelphia in 1926. Before he was to leave Japan, he broke his leg. He never made it here. He died 10 years later. Tuesday morning — 80 years to the month later — his great-grandchildren Chieko Nishikawa and Masahiro Nishikawa will accept a copy on his behalf in a ceremony at the Horticultural Center in Fairmount Park. The ceremony was set in motion last year when the mayor's office got a letter from Jun Matsumoto, who had heard the story from Chieko Nishikawa. Both are volunteers with a group in Tokyo called Akishima-Nakagami Citizen's Conference for Establishing a Better Community. Carol Brooks, who manages international trade in the Commerce Department, enlisted the Japan America Society of Greater Philadelphia and Japan's honorary consul general, Dennis Morikawa, a partner with Morgan Lewis.



Michael Klein INQlings

The award and silk samples were found in city archives. Chieko Nishikawa is writing a history of her family and the business, Nishikawa Seishi Ltd. Tuesday's ceremony will be part of the book, Morikawa said. Also participating in the ceremony will be Hiroshi Sato, deputy consul general of Japan in New York. It is clear that the missed opportunity haunted the family. Referring to Chieko Nishikawa, Morikawa said, "Her mother's dying wishes were to ask her to go to Philadelphia and see if she could trace the award and what it represented."

#### 「フィラデルフィアで大きく報道」

現してくれることになり、2人の渡米が実現した。会場には伊左衛門の写真が引き伸ばされて飾られ、多くの地元メディアも取材にきたという。人々には賞状の複製と銀皿が贈呈され、知恵子さんはお礼状に伊左衛門が大切にしていたという掛け軸を贈った。知恵子さんは多くの人の善意がこたえになって実現している。普段父を慕って泣いていると語っている。

台風一過の秋の一日、湯河原に遊んだ。遊んだのは私を含めて五人で、その中の一人は平田博則氏であった。

平田博則氏はアマチュア囲碁界の大長老である。アマチュア囲碁の三大タイトル、名人、アマ本因坊、世界アマ選手権を、過去にあげて十六回獲得していらっしゃる。

そつうわけであるから私たちの湯河原行きの主たる目的は囲碁であった。温泉に入ると、平田氏の囲碁指導をうけ、心のどかに一日をすごそう、という囲碁愛好家としてはこれ以上ということがないほど結構な企画であった。

いま「平田博則氏」と書いたが、本来ならば私は「平田博則先生」と書かなければいけない。平田氏は五十七年前、成蹊学園という学校に新進の教師として赴任してきて、新制

## 平田博則氏

高校の三年生であった私たちに幾何を教えてくれた先生であるからだ。

私は平田氏を師としてとても尊敬申し上げていて、いつも先生という敬称をつけてお呼びしている。しかしここは新聞の紙面であって、読者諸氏に私の立場を押し付けるのは適切

## プロムナード

と思えないので、やはり氏と記させていただく。

湯河原旅行の他の同行者も同じく成蹊学園で平田氏の薫陶を受けていた。この頃は日本人の一般的な国語力が衰えているから、余計なことかもしれないが、ここで薫陶という言葉の意味を三省堂の新明解国語辞典



によって説明すると、これは『そのひとのすべれた人格で他人を知らず知らずのうちに感化し、りっぱな人間にすまうこと』である。というわけで、ここで私が言いたいのは、平田氏がすべれた人格者であり、したがって私たちがりっぱな人間になったというところである。

私たちがむかしから平田氏が好きだったし尊敬申し上げているが、新任教師であった氏にたいしてはぜひぶん失礼なことをした記憶がある。一般的にいつて生徒というのは新任の先生をいろいろ試してみるものである。漱石の坊っちゃん、「二十四の瞳」の大石先生、ジェイムズ・ヒルトンのチップス先生などなど、みな新任先生いじめの洗礼を受けている。平田氏もこの例に漏れなかったのであった。

幾何の先生というのは生徒に背を向け、黒板に図を書いて説明する。そつうとき、文理大の数学科を出てきたばかりの二十三歳の新鋭平田教師は難問を解説しながら黒板に向かつて考え込んでしまふことがあった。平田氏の頭は後ろから見ると四角い格好をしていて、その四角い頭から大きな耳たぶが突き出ている。氏が深く考え込んでしまつとその突き出た大きな耳たぶがだんだん赤くなつてくる。

（エッセイスト）

伊藤 礼

# 会員動静

◎ 本会員動静は会員総会（平成18年6月開催）出席状の近況欄にご記入いただいたものです。 ◎

赤石 定次（政経27年）

今夏の早実の活躍で50年前の東京予選決勝進出の試合を思い出した。並んで観戦した福与正治教授（のち学長）は他界され相手校早実の五番王貞治選手はのちプロ球界の大打者になったうえに世界一の監督の座にもつく。（感無量）

赤星 國夫（旧高13年）

この秋に米寿を迎えます。年令相応にくたびれてますが毎日一万歩を頑張っています。心力歌の本を時折出して昔をなつかしみ乍ら音読しています。

朝倉 成夫（経49年）

三十余年勤務した銀行を思い切つて退職し、一足先に悠々自適生活に突入いたしました。残りの人生を如何に充実したものであるか、現在、模索中です。

渥美 雅夫（法・平17年）

法学部を出て、経済学研究科に入つてから一年が経ちました。新しい学問は分からないことも多いです。しかし、新しい角度から社会を捉え考えることができしました。今は進学準備と院の仕

上げの二つに力を注いでいます。

天沼 彦一（旧高11年）

加令の為に老化が進み、外出の機会も少なくなつて旧知の方々にも永らく御無沙汰しておりますが、一応は元氣に過しております。あと一年位は何とかなるかなという感じでした。

五月二十日記

井上敬次郎（政経39年）

成蹊OBによる男声合唱団が活動を始めました。大学グリークラブOBが中心ですが成蹊の関係者であれば何方でも大歓迎です。現在三三年卒の栗村汪さん会長のもと、五五年卒の柏陽一さん指揮で歌っています。

井上 哲彦（政経32年）  
三鷹市シルバー人材センター

仏教が盛んだった頃 アジアでは平和共存 共存共栄

日本 朝鮮 中国 印度 タイ……  
釈迦の教えて アジアはひとつ。

バイブルが ラクダで船で やつて来て かき回されて 流血の悲劇

鉄水

伊藤 和行（政経27年）

故中村清一教授の門下生で組織され

た「清和会」は先生のご遺徳や追憶等を纏め学園史料館に残してはと思う案が全会一致で採択され、文集としてまとめることになり、会員一同精力的に取り組んでおります。先づは近況まで

伊藤 隆元（高35年）  
日本アルコール産業

昨年6月、東洋ファイバーグラス㈱を退職し、年金生活に入ろうとしていましたが、ご縁があり、旧アルコール専売の民営化の仕事をお手伝いすることとなり、日本アルコール産業㈱の設立と、株式売却に追われています。

飯島喜一郎（旧高23年）  
経営塾

四季の変化、天候不順に身を順応させることが、如何に大変なことかと思う今日、此の頃です。元気なうちは、常に新鮮な情報を求めて、頑張つて、取材して行きたいと思っております。

飯島 正資（高26年）

昨年は中国湖南省張家界の奥、芙蓉鎮、更に奥の猛洞河の急流を苗族の船頭さんが棹差しての漂流（ラフチング）体験、竹製の水鉄砲を貸してくれて僚船同士で水合戦、流れ落ちる瀧を潜る等してびしょぬれ、洗濯する苗族

が豆粒のようなスケール、日本円、米ドルとも両替困難な土地でも通用する韓国ウォンとハングルの案内板に韓国の底力をひしひしと感じた。

池原 正夫 (政経36年) 山武

元気に「山武」で営業担当の顧問として働いております。

渋谷成蹊会と神奈川成蹊会の御世話役の手伝いをしています。お蔭で同窓の先輩・後輩と会う機会が多く楽しいです。

石井 直樹 (経50年) 新日本空調

中央三井信託銀行渋谷支店長を最後に約30年の銀行員生活に終止符を打ち2年前より三井系の空調設備を主とするサブコン、新日本空調株式会社に勤務しております。

石谷 達夫 (経48年) 京王建設

久しぶりに、関東インカレの応援に行きました。

部員が一体となって大声援を送り、選手も良がんばってくれました。

800mで5位入賞。他の種目も、もう少しで決勝に残ることができるとベルにあり、来年を楽しみます。

石橋 晃 (高28年) プース記念老人保健施設

昨年5月で日本東洋医学会会長(会員数9000人)を、本年3月で救世軍プース記念病院院長を辞め、現在はプース記念老人保健施設グレイスの施設長をしております。よろしくご指導いただきたく、存じます。

今井 淳 (旧高23年)

昭和十九年四月文科入学者同窓会組織を、傘寿をすぎたので「有志懇親会」に簡素化した。次回も例年通り六月に開催の予定。お互い健康で参加できるようにしたいもの。尚再度通知連絡希望者は幹事までお知らせ下さい。

今泉 正夫 (高40年) 日本能率協会

成蹊小学校でブリッジの体験教室が開かれたことを知りました。私も30年近くブリッジを続けており、毎週末に競技会に参加しています。8年前にインドに駐在したときも、ブリッジを通じていろいろな国の方と友達になりました。

鶴飼 正明 (高52年)

成せば成る、成さねばならぬ何事も  
小学校時代、良く先生方から教えら

れたこの教訓は、今回の高校ラグビーに於ける快挙に表われていると思う。成蹊学園に長く眠っていた本来の潜在力の目覚めを学力面でも発揮して頂きたい。

植原 映子 (文48年) (旧姓横倉) ウイメンズ・ウィルぐんま

桃李学園平和文化研究所は細々ながら続けております。U.N.女性差別撤廃条約がどのように波及しているか研究中。農を大切にするためアグリ・レディズぐんまに入会しました。マエバシ・ローズ・ミッシェンとして、前橋のバラを宣伝しています。

江上 一郎 (経55年) 太平洋セメント

台湾から帰国して札幌に単身赴任となり二年がたちました。北海道の大自然は、冬も夏も楽しめます。

小川 孝 (法57年) 自営

中学から始めた、蒸気機関車の撮影も、日本から世界へと足をのびし集大成へと近づいています。来年の三月には、アルゼンチンのパタゴニアに行く計画中です。やっとな、夢がかないそうです。

小倉美知子 (文47年) 千葉大学

中世の英語学を専門とする有志で英語史学会を創り、小さいながら国際学会を開いて、ドイツから論文集を出版しました。

これからも英語文献学の伝統を守ることだけを考えて行きたいと思えます。

小澤 利男 (旧高24年)

今年、喜寿を迎えました。おかげ様で元気です。専門が老年医学なので、それなりに健康に過ごしています。私は終戦の翌年、旧制高校に入学しました。それからの三年間、語学、数学、物理化学その他、本当に勉強になりました。

尾崎 敏之 (工41年) シュービー

会社では最近、少し楽をさせてもらっています。ユニフォーム業界から企業を拝見していると、考え方の違い、格差もよくわかります。

岡山成蹊会のお世話をしています。少人数ですが家族会等もし、楽しくやっています。

大河原慎太郎 (工43年) インスジュネラル企画

老いてますががんばっております。

大谷 久行 (工48年) アイ・アール・

学園の良さと仲間との楽しさを感じられる「成蹊校祭」を毎年企画運営しています。来年は三十回で一つの折り返し点です。人生もそうですが、フシメは大事にしたいですね!

大村匡一郎 (旧高13年)

旧制高校、昭和十三年文科乙類の唯一の生存者となってしまったらしい。戦争をやって随分死に面したこともあったのに、今日迄生きてしまった。幸運なのだろうか? 考えてしまう。すっかり寂しくなった。

岡田 正昭 (政経41年) ジェイエムオフィス

64歳をまじかにして、やっとジイジイになりました。孫は可愛いというが可愛いくて人生観が変わりそうだよ。孫をオンブしてベンチャービジネス(株)ジェイエムオフィスの夢に向って走り続ける姿は絵になりますか。なる。

奥田 淳 (工51年) 三菱重工業

大学卒三十周年パーティー。外見第一印象で誰だか想い出せず、態度と話しっぷりが卒業当時と全く変わらぬをもって、ようやく「ああ、あいつか」

と合点がいった相手が何人もいました。歳はとつても魂変わらず。

加藤 聰 (政経31年)

三重県から秦野に帰り満五年。『成蹊校祭・成蹊会総会・26年入学者の集い・準硬式野球OB総会』が年中行事となっています。健康保持は週5回の社交ダンスと皿を切れなくなったゴルフで汗を流しています。

加藤善一郎 (政経35年)

札幌へ移り住んで早8年が経過。冬は雪の中で冬眠状態の生活ですが、春雪融けからは、毎週登山に、ゴルフに、自然の中を元気に歩き回っています。

片岡 弘夫 (工57年)

今年、娘が成蹊大学に入りました。私も卒業して25年、月日の早さを感じます。

金澤 哲郎 (高34年)

医学書編集四十年、定年退職しました。

金子 暁 (政経44年)

この七十年、全国で校歌を歌って下さった無名の人々に想いをいたしました。

よう。そして、よろこんで無名の一人になって校歌を歌いつづけます。

狩野洋太郎 (旧高17年)

犬年生れの大正っ子(のらくろ)は本年八十四才になる。体はともかくとして、目と脳のおとろえを痛感する。飛鳥IIのクルーズも長期は無理と判断して、日本一周クルーズで我慢しておきました。あと何年船旅が楽しめるやら。

釜石 徹 (政経44年)

リタイヤーして一年、毎日ジョギングに精を出しています。

海外マラソンの完走を目指して、今後頑張っていきます。既にロス、パリ、アテネ、ホノルルマラソンを完走。世界を走り切ります(陸上部OBです)

貫洞 哲夫 (旧高24年)

総会当日、中国滞在中で出席できません。誠に残念ですが御了承お願いたします。

菅野 建雄 (政経39年)

少子化の問題が深刻な時代、岩手県に居ります娘が四人目を出産しました。つまり四人の孫の爺さんになりました。

嬉しいですが、正直なところ複雑な気持ちです。産後一ヶ月目に初めて対面しました。応援するのみです。

木下 浩 (工49年) エムイーシーシステム

卒業して三十年が過ぎましたが、最近同窓会が増えました。クラスやクラブの仲間と集い、思い出話に花を咲かせています。仕事は社長業二年目となり、変化の早い顧客の要求に、いかに対応していくのが良いか、頭を痛めています。

木村 明彦 (政経44年) 菱樹商事

昭和44年に大学を卒業し30数年を駆け抜け我々の年代は今年還暦を迎えます。送別会や激励会も多くなっており、成蹊高校・大学と学舎で得られたものを今後も大切に行きたいと思っております。

城戸 毅 (高29年) 岐阜聖徳学園大

大学勤めも余すところ一年になりました。昨年勤務先宿舍の近くで夕刻八時頃ひったくり事件の至近距離での目撃者になってしまいました。こういう場合どうしたら被害をくい止められるか大いに反省させられました。



菊池 隆 (工41年)

仕事から離れて一年になります。体力維持のため週三回のスポーツクラブ通い、スケッチの手習い、暇を見ての「そば」打ちなど、現役時代より充実した毎日です。工学部電気工学科を卒業して四十年になります。一度訪ねたいと思います。

北澤 和彦 (政経27年) 東京都電機厚生年金同友会

成蹊会の益々充実を、一〇〇周年記念事業の発展を念し上げております。傘寿を迎えました。

北畠 裕子 (女16年)

当日お伺い致す可く心掛けて居りましたのですが止むを得ぬ事情で参れず申し訳ございません。近頃の成蹊学園の発展と、きちんとした規律をみて小学校から成蹊ひとすじに卒業致しました私は誇りに思い幸せですし、今も元気にして居ります。

北村 中也 (ブレメ26年入) 口腔保健医療研究所

NPO法人の研究を水道橋に設立して五年がたちました。人間の健康行動や疾病受療行動などの調査研究や職域の健康診断を主として行ってきまし

た。結果については、学会で発表し、学会誌へ論文投稿し報告しております。

吉川 彰一 (高31年) 味の素

近着の「成蹊會誌」誌上で、かつて会長を仰せつかったNY成蹊会の和やかで、活発な様子を拝見し、大変嬉しく存じました。同会の益々の発展を祈念しております。いつの日か飛び入り参加でも出来たらと願っております。

窪寺未都子 (高31年) 旧姓篠原

伊豆沼のほとりに温泉を掘削し排水を流す計画に宮城県知事が許可を出してしまいました。この様なことをすれば取返しのつかない環境悪化になってしまいます。知事に取消しを求める運動に皆様の御協力をお願いします。

熊崎 和久 (高53年) 日本原燃

今年五月、日本原燃株式会社に転職しました。核燃料サイクル施設の安全な運転のために微力ながら力を尽そうと決意を新たにしております。

隈部 清一 (政経38年)

旅行、会社OB会、孫の付合等元気に過しております。成蹊学園、成蹊会

の益々のご発展をお祈り致しております。

小出 康博 (政経37年) 三友商事

同期の皆様お元気でしょうか。仲々お会いする機会もありませんが、私はまだ現役で頑張っています。仕事柄車で山へ入る事が多く、野生の猿や鹿、カモシカ、猪達と交流を深めています。主に林道ですが、山は空気も良く楽しいです。

小島 明 (政経30年)

情報図書館完成。披露パーティにお招き頂き拝見。坂茂氏の力作もさることながら設備の斬新さに驚嘆。図書館が充実しなければ真の大学とはいえない。大慶至極。しかし旧緑陰堂文庫の木造のたたずまいが消滅したことは寂しい。

小嶋はるか (高・平5年) 文化財建造物保存技術協会

昨年十月から埼玉の小日光・歓喜院聖天堂へ転勤になりました。文化財建造物の修復の様子を偶然テレビでご覧になった小学校の小野先生他数名が見学に来られ、二十年ぶりの再会を果たしました。

小林 聡子 (文・平1年) 旧姓森田

現在まだまだ子育て中のため、参加ができず、とても残念に思っております。子育て以外に学校のPTA活動を始め、ボランティア、自宅での子供向け英語教室と、人生楽しんでおります。

紺野 眞一 (経59年) ジブラルタ生命 保険

元気でやっています。皆様お元気でお過ごしでしょうか？

後藤 健 (政経38年)

中村清一ゼミ(清和会)は、平成十九年二月二十四日大学内で総会を開催します。当日、配布する「中村ゼミ文集」を作成中、中村先生の成蹊大学新聞初回の記事、巽先生の文章・思い出の写真等入れてあります。期待して下さい。

後藤 直記 (経53年) 曙ブレーキ工業

早いもので今年で結婚二十年。上の息子は来春大学受験で下の娘は中学二年。少ない給料のほとんどが学費および教育関係で消えてゆきますが子供たちの独立まではまだまだ頑張り続けねばなりません。負けてたまるかエイエイオー！

佐伯 紘 (政経40年)

(甥)オリエンタルランドを退職して三年が経過しました。女の子の孫が一人可愛いさかりです。デジカメ・ビデオ等の撮影量が増加しています。週一回のテニススクール通いで日頃の健康維持増進に役立っています。

佐々木麻人 (政経44年) 新生紙パルプ商 事

初めて書きます。自然医学、運命学プロです。治らぬ病気で困りの方御相談下さい。小金井公園の近くに住んでいます。ネコが好き、旅が好き、今少しフルートを練習し介護福祉士を目指し勉強中、空手五段、太極拳師範その他。

佐藤 洋史 (政経43年) 博報堂

昨年定年を迎えましたが、お陰様で再雇用となり、相変わらず通勤しています。吉祥寺に住んでいますので、朝は成蹊に通う学生さんに会い、夕方また学生が帰る姿を見ます。

齋藤 明美 (文55年) (旧姓星野) 群馬県みどり市立大間々東小学校

桜祭に久しぶりに成蹊のキャンパスを訪れました。今でもその美しさが胸に残っています。今年度は一年のIT、

三年の少人数指導に国語専科としてかわっています。長男は桐生の自宅から渋谷まで毎日通っています。

齋藤 修造 (高33年)

テレビを良く見るのですが、NHK教育の高校講座(月々金、3時)が面白いです。特に社会と理科が面白い。大学受験に関係なしとして受講しなかった科目は、今更へエーツと思いがら見えています。

酒井 四平 (政経28年) 安田教育振興会

成蹊会設立70周年を慶賀申し上げます。今年度は千葉支部も設立55周年を迎え、7月1日の祝賀総会に向け事務局担当として支部55周年記念誌編集など鋭意準備中です。それについても時の流れの速さを実感している此の頃です。

榊田 正史 (政経37年)

人口減少化のまっただ中であって母校成蹊の存続発展に黄色の信号が点滅し始めたとき我々卒業生も成蹊の教職員と共に強い危機意識が必要と認識します。

よって先づは受験生総数と質を維持する為全員で対応しましょう。

品川 和彦 (政経44年) 品川油化研究所

はるか昔に卒業した大学時代を想い出し、なつかしむ年令になりました。去年六月に「ホンダ」を定年退職し、新たな人生を歩んでおります。

成蹊の誇りを今後も、次の世代につなげるのが、OBの役割と思っております。

篠原 周平 (政経30年)

中学校の担任だった上條信山先生の書を拝見にこれ迄二回松本市美術館を訪れました。

今年度は生誕百年で拡大展示がある由是非行きたいと思っております。

柴山 雄一 (フレメ28年入) 柴山医院

府中カントリークラブで、競技委員長、キャップテンとしての務めを終了、今後は5人の孫達と旅行、テニスを楽しみながら、ゴルフの技術を維持して残る人生を大いに楽しみたいと思っております。

嶋田 辰昭 (政経40年)

お陰様で元気です。停年後、炊事、洗濯、家事、親父といったところです。遅ればせながら、自活の学習をしています。

ます。

健康の為、朝の散歩を始めました。途中出遭う、草花等のスケッチをする楽しみを知りました。

菅原 雅郎 (工49年) 三光設備

平成十八年四月から四年半ぶりに単身赴任生活が終わり東京勤務となりました。広島、仙台と地方都市の恵まれた自然環境に触れ東京の過密さが心配になります。また、三菱電機から三光設備に変わり、気持を新たにしています。

鈴木 勝文 (法48年) 鈴木貿易

10年前に妻(当時44歳)、7年前に一人娘(当時21歳)を、いずれも交通事故で失い、今年57歳になる自分を見つめ、生きていく間に何がしたいかを考えた時マッターホルンを近くで眺めたいと思い、今年、行くことにしました。

鈴木まどか (高63年) 平家琵琶伝承者

吉祥寺本町に引越しました。

住江 次郎 (高28年)

元気に過して居ます。毎日の様にプールに行って歩いています。一時間二

軒五百米、そのあと一寸泳いで終ります。少々緑色の水を湛えた成蹊のプールが妙に懐かしいです。

園田 信行 (政経30年)

日ごろは成蹊会千葉支部でお世話になっていきます。毎年五月から六月にかけて中国大連へ出かけています。二十年続けています。大連が近代都市になって百年・緑の美しい日中交流の濃い拠点になっています。美しい静かな町です。

田口 学 (工54年) 全日本空輸

十八年四月ANAスタッフ百二十人が仙台に集まり、西多賀養護学校の生徒さんで病院の許可が出た26人が学校や病院の上空を飛行しました。体が不自由でも病気を直すぞ!とがんばる姿から、みんな感動をもらいました。

高井東一郎 (工・平6年) 高井製作所

特に変化なく楽しく過しています。

高田 聰 (フレメ29年入) 高田整形外科内科医院

目黒線西小山駅西口で整形外科内科医院を開業して二十五年になり、今年で3万人の患者さんを診療しました。

最近ではロスに住んでいる高校同級生内田君の肘関節痛をジョーブの所でなおらないのをなおして感謝されました。

高島 元 (政経40年)

知人や友人が、他界することが多くなってきました。さびしい限りですが、元気に暮らしています。

高柳 慎一 (経45年) 清水建設

先月の四月、成蹊に行き建物の移り変わりに驚きました。昔の成蹊といえ、五十一年木下恵介監督の「少年期」をご存知ですか?この年の成蹊でロケされており、当時の建物や今はない四百メートルグランド等が見れますよ。

滝沢 宏 (法50年) 東邦ビジネス管理センター

三十一年勤務しました日本生命を七月末にて円満退職し、八月一日より(株)東邦ビジネス管理センターに転籍しました。当社は画像処理、テキスト化では業界一番の会社です。今後共、宜しくお願いします。

竹内 克之 (政経42年)

森ビルが中国・上海で建設・運営する世界最高の総合ビルのIRを担当し

ています。上海成蹊会も元気で、今年の大学対抗ゴルフ大会では二十五校中十位(過去七回の内、優勝一回、他は三位、五位、六位等)でした。

橋 薬 (政経29年) 三菱倉庫

神戸新空港での兵庫成蹊会幹事の好企画で盛況。幹事は座る場所なくレジ脇のカウンターで嬉しそうに立ち飲みしていた。高校ラグビーの花園出場で関西在住の成蹊OBが益々結束したのは嬉ばしい限りであった。小生は74才元氣。

棚町 祥吉 (旧高専常科) 弁護士

昭和二〇年に旧制尋常科から福岡の中学に転校し、四修で旧制福岡高校文科に進学しました。司法の道に入り定年後は弁護士をしています。毎年成蹊法曹会と同期尋常科の集いに出席するのを楽しみにしています。

千葉 英治 (経61年) 大成建設

小学校から大学まで、ラグビー部の先輩達の活躍を楽しみにしています。

千葉 芳繁 (工43年)

今年の六月末でサラリーマン生活にも終りが来ました。思い起せば、三十

八年間の長い長いサラリーマン生活でした。第二の人生は、すこしリフレッシュしてから、経営コンサルタントとして自立の予定です。

力石 浩 (法47年) リキ・インターナショナル

昨年9月から独立し、リキ・インターナショナルと称するコンサルタント事務所を立上げました。原子力を中心とした国際的エネルギービジネスに取り組んでおります。

辻 至 (経49年) みずほビジネスサービス

昨年八月に永年勤務したみずほ信託銀行を退職し事務代行会社のみずほビジネスサービスに転籍しました。健康第一に余暇はロック音楽とギター演奏を楽しんでいます。ライブにはまり年一〇回位観に行きすつかり若返っています。

中村 泉 (経54年) 新潟県警察本部

中村春二先生の「多く働くことを光栄とせよ」という言葉を知り感銘を受けました。

年に一回ほど上京することもあり、その時は、大学一年時の同級生と酒をくみかわします。

一人息子は、現在小四、成蹊大学入

学を希望してます。

中村かつ美 (文52年) (旧姓野原)

子育ても終わりと思うと、話題はいつのまにか親の介護の話に……。自分の健康も気になり出して、無茶した大学生時代がなつかしい昨今です。学生時代の友人に会っているとその頃にタイムスリップしますね。

中村 敬 (法51年) 資生堂

エフティ資生堂から資生堂に合流して、化粧品マーケティングを学び直しています。毎日が新鮮な驚きに満たされ多忙な中に手ごたえを感じています。大学を出て30年になりますが今だに学生気分が抜けません。

長屋 晃 (旧高24年) 渋谷ロゴスキー

渋谷ロゴスキーを非常勤になり二年お呼び下されば出勤致します。老後ではなく老中生活真只中で、てくてくとロシアへ団体をお連れして歩きまわっています。去年は十五年ぶりにバイカル湖に再会。東京から青森の湖。ロシアは広い！

二階堂裕行 (法53年) 日本製粉

卒業して、28年、「光陰矢のごとし」

を実感しています。先日クラブのOB同窓会に出席。なつかしく、楽しい時間を過ごすことができました。成蹊を通じて、よき友人達を得ることができ、本当にうれしく思っています。

西村 武士 (法・平12年) インテリジェンス

キャリアコンサルタントとして五年目を迎え、現在の日本の雇用事情について深く考えさせられる毎日を送っております。

野澤 幸弘 (法57年) バコーポレーション

何かと風当りの強い建設業界の中で、営業から工事現場監督までの仕事をこなしていましたが、現在は管理部門におります。

また、成蹊との関わりもますます深くなり、親子で成蹊を楽しんでおります。

野田 國光 (政経31年)

昨年五月に四十年連れ添った家内を亡くし一人暮らしの身になりました。未だに重苦しい毎日ですが娘二人が二人共英国人と国際結婚しハーブの孫が三人になったことが力づけてくれます。清和会の友人とはよく会って居ります。

原 一郎 (政経28年)

ウォーキングなどで健康の維持につとめております。

原田恵美子 (経53年) ホームマット・ロース

離婚して6年経ちました。成蹊同窓生のお付き合いが回復し、つくづく素晴らしい友人に恵まれた事に感謝しています。

原田 住江 (小10年)

母校東門のそばで五十八年間続けた「原田眼科医院」を、年令を考えて十八年三月三十一日に閉院しました。診療中は多数の成蹊関係者に御来院頂き、感謝申し上げます。

皆様の御健康をお祈り致します。

原田 喜倫 (政経37年) 日本エマソン

千代田化工建設(株)・その関連会社(株)アローメイツ(人材派遣)を無事に卒業し、現在、日本エマソン(株)(米国资本)の電気・電子機器メーカーで働いております。

菱田 州男 (高49年) 三菱商事

三菱商事から明治屋商事に出向しています。高校時代クラスメートにはイ

ンターネットを通して仲良くして貰っています。

兵藤 済 (法56年) 日本学生支援機構

四月より転勤で初めての関西生活となり、異なった環境にとまどう事もありますが、成蹊精神にもう一度たちかえって頑張っていこうと考えている今日この頃です。

平田 順一 (高49年) ひらた小児・矯正歯科

今、W杯二十数日前です。さてさて結果はどうなっていることやら……？ ジーコの後任は誰になりましたか？ 小野伸二は、スターになっているでしょうか？ サッカー好きの変わった歯医者者は、笑顔で診療に励んでいますか？

広瀬 行夫 (政経30年)

いろいろな会の世話役をやらされ、お陰様で、元気に忙しく過しています。又、相変わらず気功、水泳、囲碁、ゴルフなどを楽しんでいきます。安藤先生が亡くなられた後も、毎月ゼミを開いているのは、安藤ゼミ位かもしれません。

福田 一郎 (政経29年)

大学を卒業してから五十年以上過ぎ

ました。今年二月大学軟式庭球部創部五十五周年式典を学園の中で開催し出席のOB達も学生時代の昔にタイムスリップして楽しい時を過ごす事が出来ました。(成蹊大学軟式庭球部OB会会長福田一郎)

福原 重雄 (旧高18年)

種目毎に年令別で競う陸上競技IIマスターズ。

成蹊陸友会では80才代60米100米に日本記録をもつ山崎英也君、中距離では50才代町田厚美君、安田幸男君らが常連。

彼らの昔ながらのフォームは、私を若返らせてくれます。

藤田 暉夫 (政経29年)

人間ってすごい。本年七十五年の日を迎えても、以前のようにいかないまでも、まあまあ過しているんだから。あの分厚い名簿をめくると、多くの想い出がつまっていると思います。各各位ご自愛を。

藤谷 寛 (政経41年) 越谷市施設管理公社

今年の能は、能楽師関根根祥六先生の下で仕舞「桜川」を6月より10月まで指導を受け、10月29日に越谷市能楽堂

で発表会を開催いたします。都合のつく方は見に来て下さい。

藤原 宏一 (政経36年) トレドマップ

故佐藤庸先生の商法ゼミ政経第十回卒の仲間が、成蹊校祭当日、校庭に集いました。既に六〇代後半ですが、昔話、現況を賑やかに語り合いました。

古市 倫義 (経47年) 日本原子力発電

確実に加齢して、会社の職場でも最古参の仲間入り。入社の際には世の中あけて頑張ろうでしたが、今は生活を見直そう、の時代に入りました。周辺国の発展で日本のエネルギー問題も再度の分岐点。現実はまだ挑戦の気持ちです。

古川 誠男 (政経38年)

成蹊高校硬式野球部が夏の甲子園の夢を賭け都代表決勝を戦ったのは約半世紀前となりました。この時期になると、その想いが甦り若さが補填されると共に後輩の活躍を祈念しつつ晴耕雨読の日常生活を送っています。

古河 拓 (政経37年)

恩師新井先生の著わされた「江戸語に学ぶ」「江戸語に遊ぶ」の両書を拝

読。会計学とは異色の分野への御造詣の深さには、感心致しております。是非あやかりたいと思っております。皆様も御一読を。

古瀬 萌 (フレ26年入)

先般三月二六日の長野県眼科医会総会に於て四期目の会長に推薦され大変な重責に困っています。眼科医の長男も地元へは帰らず現在岡山大学眼科の講師兼局長で頑張っています。本年四月三日で七十五才になりました。

星野毅子郎 (旧高6年)

小生九十三才を超えましたがお蔭さまで元気ですが、足が弱くなり杖を突いても短い距離しか歩けなくなりましてので会合等には凡て失礼しております。

堀尾 駿吉 (政経44年) ほりお農園

西条柿の他に昨年「ブルーベリー」「いちじく」が少しづつ収穫できるようにになりました。

四月からブログ「ほりお農園の農作業日誌」を開設しました。ホームページ「ほりお農園」からアクセスして下さい。

本田 光芳 (フレメ25年入) ヒロセクリニック

今年の秋から後期高齢者になります。三月には待望のイスラエル、五月には旧ユーゴのスロベニア・クロアチアを徘徊し悦に入っています。弟子共は、なんで好き好んで紛争地ばかり旅行するんですか、と心配する振りをします。

前田 信幸 (政経29年)

病気の妻の看護に専念しております。

牧野英一郎 (小39年) 武蔵野中央病院

両親が五十年前に創立した武蔵野中央病院の院長です。「心と体の病院」目指し、内科精神科リハビリ訪問看護まで全人的アプローチを心がけております。昨今の医療行政の激変に動ぜず、

成蹊の風景



皆様のご要望に添えていく所存です。

増田 寧子（文・平4年）（旧姓浅原）

思いがけず主人が開業することになり、只今病院建設中です。

小学校に入学した娘と幼稚園に通う子の世話に加えての準備作業に、目が回りそうです。

松田 寿子（高61年）（旧姓落合）

子ども達の小学校のPTA会長をしております。近年、様々な事件がおこっておりますが、子ども達の安全を守るために、地域と、学校と、保護者が協力し、日々がんばって活動しております。

松本 敏（旧高16年）日本電子計算

最近体調が思わしくなく、どちらにも御無沙汰しています。おゆるし下さい。

松本 晴次（政経31年）

元気で頑張つて居ります。登山が楽しみで毎日山に登つて居ります。御蔭様で本当に自分でも不思議な位元気です。成蹊時代が一番なつかしく思います。出来るものならもう一度学生時代に戻りたいです。皆々様御元気で御返し下さい。

三好 榮（旧高16年）

今の所は元気で、趣味の鮎釣も続けて居ります。

水本 桂子（文57年）

（旧姓横手）  
日本語教師

日本語教師に加えていくつかの大学で、留学生向けに日本語と就職活動対策のセミナー講師をしています。秋に出席予定（計画）の愛犬ミニチュアダックスの仔犬の里親を探したり、父（英語・横手）とゴルフをしたりと適度に忙しくしています。

宗像 誠二（工42年）

日十八年三月二十日をもって旭硝子を退社しました。第二の人生を始めたばかりで、これからさきのアンサーテイニーにどのように対処して行くか、楽しみにしております。

森本 隆（旧高17年）

旧制高校卒業以来六十四年。文科級会に集う者も六一七名となり、つくづく時の流れを痛感しています。御蔭様で何とか元気、音楽、読書、散歩等々。又友人との会合には出来る限り出席。旧交を暖めています。

矢野 岳（旧高24年）勝光山鉱業所

役員をすべて退いたが、オブザーバーとして役員会には出席するが、発言は控えている。'06年3月、同業者の国際会談がサン・フランシスコで開かれ、弊社の鉱山、鉱石について英語とパソコンで30分講演した。日本人として初。

安田 敬一（政経28年）安田教育振興会

成蹊会設立70周年を心よりお祝い申し上げます。千葉支部も丁度55周年を迎え、7月1日に総会を予定、いよいよ発展をしています。成蹊の理念を忘れることなく、次なる70年を展望し努力して行きたいと思っております。

柳井 道夫（高28年）大学基準協会

ひき続き財団法人大学基準協会の専務理事と財団法人日本世論調査協会の会長を勤めています。文部科学省でも今度は大学設置・学校法人審議会専門委員に選ばれました。その他にもいろいろあり多忙な日々を過しています。

柳澤 宣明（政経37年）

七〇周年おめでとうございます。卒業して四十四年たち現在は父の介護と放送大学の勉強に明け暮れる毎日

です。

十八日、父の日の健勝会と重なり欠席します。

皆様増々のご健勝をお祈り致します。

山岸 常夫（政経27年）

近年校歌を斉唱する際二番（昨日の吾を越えし輝き尊し……）が外されて居ると思われる。二番が可愛ソウーでならぬ。昔はこんなこと無かったと思うが、私も年令をとったのかな。

山口 能弘（工12年）山口組

自然との調和を楽しみながら、毎日仕事に励んでいます。

山崎 英也（旧高20年）

体力の衰えを練習で補いまだ走り続けています。80才の100mの日本記録は更新（14秒75）しましたが世界大会ではまたも銀メダルでした。なお世界一に挑戦します。

山田 卓郎（旧高24年）

まずまずの健康にめぐまれ、特に下手なゴルフを楽しんでいます。

山田 正仁（旧高20年）

昨年3月末で開業医をやめました。

その後、請われて献血ルームに月8〜10回朝から夜6時頃まで検診医として出かけています。元気で仕事が出来ただけ幸せです。

山本 恵章 (政経29年) 大日精化工業

昨年六月の株主総会をもって専務取締役を退任しました。現在は足腰が弱っている為、ジム通いと、種々な趣味の世界に没頭し、又近くの大学のオープンカレッジで二つの講座を受講し、私としては充実した毎日をお過ごししています。

山本 靖夫 (政経30年)

卒業以来あつと云う間に月日が過ぎ櫻並木も変りなく青春の思い出を残してくれています。「心の奥底にある尊い心」の人格教育こそ現代に必要と痛感しています。

我が母校の着実な発展に誇りを感じている今日この頃です。

由比 健郎 (旧高22年)

小、中、高、大の各校のクラス会、同期会、同窓会やかつて勤務した4社の各部門のOB会などが年約60回あり、昨年はそのうち約40回に出席した。成蹊関係は14回中9回出席で大いに旧交

を温ためている。忙しいが、元気です。

依田 武 (政経36年)

退職四年目、晴歩雨聴の自適な生活を送っています。本格的な室内合唱団も続けていますが、新たに発足した成蹊グリーンクラブにも参加し、男声合唱の醍醐味復活の一員として唱って居ります。

横田 一也 (政経41年) 三井住友海上安心ステーション

卒業以来トラバユすることもなく今いる会社になんと四十年も関係しています。お手伝いという形で労働の機会を得て体をこわすこともなく無事にすごしています。後は二人の子供の独立(結婚)を展望しつつ家内に感謝を表わしていきたい。

吉岡千賀子 (高39年) (旧姓渡辺)

尾瀬が原紀行

二〇〇六年平成十八年六月一日縁あるお仲間と、尾瀬を探訪した。日帰りで行き午前八時頃より尾瀬ヶ原の鳩待峠より山の鼻そして牛首。

東電小屋によりヨッピ橋。そしてぐりりと山ノ鼻、鳩待峠と十八キロメートル位六時間位歩きました。鳥は鳴き空は春のライトブルー。山

道は残雪厚く、萌えたつ若緑の木々の合間に白樺の大木があり、そこを抜けると広大な残雪を置いて尾瀬ヶ原が在り、一線木道を引いて至仏山に向かっています。

尾瀬の行く道にまだ咲き始めの水芭蕉が初々しく美しく、またリユウキンカというたんぽぽ位の黄色い可愛い花が水の中で輝いて咲いていました。水も空気もこの上なく美味しかった。雪解けの水中光る水芭蕉

還暦を越え足もと続く水芭蕉 尾瀬の春天地を繋ぐ日燦々 山路きてカッコウウぐいす歎歌なり 尾瀬ヶ原流麗描く水芭蕉 至仏山拜して向かわむ残雪原

また何度か訪れたいという思いの尾瀬を後にした。

吉田 英男 (法57年) 東急コミュニティー

出向生活も二年目となり、日常業務に追われる毎日です。今後とも先輩の方々の目に見えない助力を感じながらがんばっていききたいと思えます。

吉田 瑞穂 (文・平3年) 成蹊学園

ずっと怖くて嫌だったのですが、最近ハリ治療を始めました。結構合っているのか、体調良くなってきました。

吉野 剛史 (工・平16年) つるや

ゴルフ道具販売のつるやへ就職し、現在は仙台店の店長として頑張っています。クラブの設計をするのが目標です。

和田 雅明 (経・平1年) ミナミ

昨年10月より建て替えた実家の二世帯住宅に住み始めて半年以上経過しました。両親と私の家族ともに慣れてきたように感じています。現在勤めている会社も順調に業績も伸び、これからは経営幹部の一人として、がんばりたいと思えます。

風景の成蹊



●ここに謹んで哀悼の意を表します●

物故会員

(平成18年4月18日～平成18年10月31日迄に連絡のあった方を掲載いたしました。  
ご逝去の年月日が不詳の方については、お名前だけを列挙いたしました。)

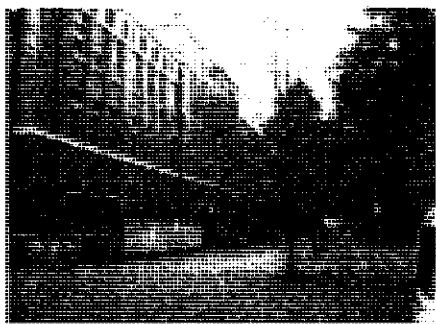
三浦 信一(特別会員)平成17年8月12日	草野 新作(小) 11)平成18年2月24日	竹野 尚子(小) 50)平成18年8月18日
永田 正男(特別会員)平成18年1月11日	赤沼 孝一(法) 2)平成18年3月4日	長島 正純(政経6)平成18年8月18日
三浦 一郎(旧教員)平成18年3月13日	小泉 芳和(旧高21)平成18年3月5日	藤山 真佑(旧高23)平成18年8月22日
石川 稔(特別会員)平成18年4月20日	押久保幸彦(政経11)平成18年3月12日	酒井 一男(政経14)平成18年8月25日
瀬戸 翠吉(特別会員)平成18年4月26日	長谷川 淳(旧高15)平成18年3月19日	青木 清子(フ) 11)平成18年9月7日
佐藤 功(特別会員)平成18年6月17日	牧野 剛(政経11)平成18年3月27日	石田 忠治(旧高15)平成18年9月28日
朝倉 孝吉(特別会員)平成18年6月18日	松原 豊(政経1)平成18年4月15日	上田 苑子(女) 13)平成18年9月29日
古軸 隆介(特別会員)平成18年8月24日	藤村満寿夫(旧高12)平成18年4月23日	富山久美子(文) 20)平成18年10月13日
大野 功(旧教員)平成18年8月29日	松本 俊二(旧高18)平成18年4月17日	川平 博子(高) 12)平成18年10月14日
高頭 正元(旧高5)平成6年5月19日	石原 宏(旧高21)平成18年5月1日	小林 彦也(政経10)平成18年10月25日
佐山 恭正(工) 1)平成13年3月31日	植木 毅(政経6)平成18年5月1日	古西 玉夫(小) 11)
家田恭一郎(経) 1)平成13年7月11日	加藤 晨(高) 7)平成18年5月17日	桑原美恵子(小) 37)
曾我 信之(経) 12)平成16年3月5日	貞森 俊一(旧高8)平成18年5月20日	小一原 正(旧高6)
飯塚 智(工) 23)平成16年6月21日	今野 實(経) 1)平成18年5月23日	川林 昭郎(旧高20)
田中 道雄(政経5)平成16年10月14日	平山 省一(旧高18)平成18年6月6日	渡辺 徳介(旧高24)
橋本 潤子(女) 10)平成16年11月22日	鈴木憲一郎(経) 28)平成18年6月9日	橋本 肇(政経11)
久保憲二郎(高) 17)平成17年4月23日	齋藤 正和(法) 8)平成18年6月15日	中村 真澄(政経15)
小林 邦雄(高) 2)平成17年6月9日	山口 和子(女) 28)平成18年6月22日	上倉 友香(高) 47)
山田 哲也(高) 34)平成17年7月28日	石田 攻(工) 2)平成18年6月23日	長野 修一(工) 25)
磯原 正義(政経3)平成17年7月29日	藤野 直也(旧高17)平成18年7月12日	桜井 玲子(文) 8)
加藤 満(政経14)平成17年8月31日	岡本 公成(高) 4)平成18年7月27日	北 英峰(法) 20)
平塚蒼生代(文) 1)平成17年10月22日	守谷 孝夫(フ) 6)平成18年7月30日	丹波瀬 鋭(法) 31)
東郷 昭郎(政経6)平成17年11月24日	大河原正太郎(旧高8)平成18年7月30日	
荒井誠一郎(高) 1)平成18年1月31日	後藤 信義(旧高15)平成18年8月4日	
稲毛 徹(工) 7)平成18年2月19日	柳本 暁(高) 12)平成18年8月17日	

浜中英男様(政経44年)には、「成蹊会誌」誌号「物故会員欄」にて誤って物故会員として掲載してしまいました。ここに訂正させていただきますとともに、浜中英男様にお詫び申し上げます。

35頁三段24行目

浜中 英男様(政経18)

成蹊の風景





# 成蹊会報告

〔自平成18年5月1日  
至平成18年10月31日〕

## 一、会員総会

### ■第51回通常総会(18・6・18)

- (1)平成17年度成蹊会事業報告及び収支決算並びに剰余金処分案承認の件
- (2)平成17年度財産目録承認の件
- (3)平成18年度事業計画及び収支予算案承認の件
- (4)社団法人成蹊会同窓会規程の一部改正の件

## 二、会議

### ■理事会

#### 第164回理事会(18・5・10)

- (1)第51回成蹊会通常総会付議事項審議の件

- (2)成蹊会特別会員(教職員)推薦の件

#### 第158回理事会(18・10・25)

- (1)成蹊会常務理事候補者承認の件

- (2)成蹊高等学校同窓会の名称変更に関する件

### ■評議員会

#### 第62回成蹊会評議員会(18・5・9)

- (1)平成17年度成蹊会事業報告及び収支決算・剰余金処分案の件

- (2)平成17年度財産目録承認の件

- (3)平成18年度事業計画及び収支予算案承認の件

- (4)社団法人成蹊会同窓会規程の一部改正に関する件

#### 第63回成蹊会評議員会(18・10・24)

- (1)成蹊会理事選任に関する件

- (2)成蹊高等学校同窓会の名称変更に関する件

### ■特別委員会等

育英奨学・学術教育助成委員会(18・5・15)

総務企画委員会(18・5・18/6・22/7・21/9・20)

総会実行委員会(18・6・2)

スポーツ振興委員会(18・6・6)

成蹊会70周年委員会(18・6・7)

財務委員会(18・7・18)

広報委員会(18・7・28)

推薦委員会(18・9・14)

桜祭委員会(18・9・26)

### ■同窓会委員会

経済学部同窓会委員会(18・5・20) プレメ同窓会総会(18・7・9)

高等学校(旧制)同窓会委員会(18・9・15)

高等学校同窓会委員会(18・9・28)

工学部同窓会委員会(18・10・10) 法学部同窓会委員会(18・10・19)

### ■支部・地域成蹊会

岡山成蹊会(18・5・13)

遠州成蹊会(18・6・10)

愛媛成蹊会(18・6・24)

千葉支部総会(18・7・1)

茨城成蹊会(18・7・8)

渋谷成蹊会(18・7・11)

新潟成蹊会(18・7・23)

群馬成蹊会(18・7・29)

愛知成蹊会(18・8・8)

山形成蹊会(18・8・20)

宮城成蹊会(18・8・25)

阪奈和成蹊会(18・9・9)

埼玉成蹊会(18・9・15)

神奈川成蹊会(18・9・21)

九州支部総会(18・10・14)

## 三、催事

育英奨学資金説明会(18・6・13)

学術・教育研究助成対象者説明会(18・6・19)

スポーツ振興助成金贈呈式(18・7・10)

## 四、刊行物

成蹊会誌第103号(18・7・1)

平成19年1月1日 発行所 社団法人 成蹊会 発行人 瀧 秀彦

企画・編集 成蹊会広報委員会・成蹊会事務局 印刷・製本 株式会社 光邦

〒180-8633 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話 0422-51-2244 FAX 0422-54-6766

メールアドレス seikeikai@jim.seikei.ac.jp ホームページ http://alumnet.ne.jp/

# 社団法人成蹊会の設立と経緯

昭和11年、当時の成蹊学園の各学校同窓会が大同団結して、学園創立（明治45）以来の卒業生団体として「成蹊会」を設立しました。

その後、昭和30年、文部大臣（文部科学大臣）の許可を受けて公益法人の法人格を取得し、「社団法人成蹊会」として現在に至ります。

大正5年	(1916)	成蹊実務学校第1回生卒業。(15名)
大正6年	(1917)	成蹊小学校第1回生卒業。
大正7年	(1918)	成蹊中学校(旧制)第1回生卒業。
大正8年	(1919)	成蹊実業専門学校(別科)第1回生卒業。
大正9年	(1920)	成蹊実業専門学校第1回生卒業。 成蹊女学校第1回生卒業。
昭和3年	(1928)	成蹊高等学校(旧制)第1回生卒業。
昭和11年	(1936)	学園創立者中村春二先生の胸像除幕式挙行(北村西望氏製作)。これを契機に、建学以来の各学校同窓会が大同団結して卒業生団体「成蹊会」を結成。(会長、丹羽孝三)
昭和12年	(1937)	「成蹊会」設立総会。
昭和24年	(1949)	成蹊大学医歯学進学課程(プレメディカルコース)第1回生修了。 機関紙「成蹊会誌」第1号を発刊
昭和25年	(1950)	成蹊女子学園第1回生卒業。 成蹊高等学校(新制)第1回生卒業。 成蹊会支部(九州支部、関東支部、東海支部)を結成
昭和26年	(1951)	成蹊会支部(北海道支部、千葉支部、東北支部)を結成
昭和27年	(1952)	成蹊大学政治経済学部第1回生卒業。
昭和30年	(1955)	文部大臣の設立許可を得て「社団法人成蹊会」(公益法人)に組織変更
昭和31年	(1956)	成蹊会育英奨学金制度を設ける
昭和32年	(1957)	「社団法人成蹊会功労者謝恩顕彰規程」を設け「恩師謝恩会事業」を開始
昭和33年	(1958)	「成蹊倶楽部」を開設(数寄屋橋のニユートーキョービル7階)
昭和34年	(1959)	学園創立50周年事業として元理事長「岩崎小弥太」レリーフ建立(北村西望氏製作)
昭和38年	(1963)	元池袋公園内に「成蹊学園発祥之地」の碑を建立。(平成10年に元池袋史跡公園に移転) 学園賛助員「今村繁三」像を大学1号館前に建立(菅原安男氏製作)
昭和41年	(1966)	成蹊大学工学部第1回生卒業。
昭和42年	(1967)	成蹊会会員総数が1万名を超える
昭和44年	(1969)	成蹊大学文学部第1回生卒業。
昭和45年	(1970)	成蹊大学経済学部第1回生卒業。 成蹊大学法学部第1回生卒業。
昭和49年	(1974)	成蹊会学術、教育研究助成制度を設ける
昭和50年	(1975)	成蹊会国際交流基金を設ける 成蹊会支部(中国支部)を結成
昭和52年	(1977)	第1回「成蹊桜祭」開催～成蹊会主催、成蹊学園後援～
昭和57年	(1982)	電算処理により作成の「成蹊卒業生名簿」を発行
昭和59年	(1984)	第60回枯林忌追悼会、以降学園と成蹊会の共催開催となる
昭和63年	(1988)	成蹊会本部事務局を学園本館から学園史料館に移転
平成2年	(1990)	成蹊会学術表彰制度を設ける
平成3年	(1991)	成蹊会スポーツ振興基金を設ける
平成8年	(1996)	谷岡基金を設ける
平成13年	(2001)	成蹊会文化振興基金を設ける(平成8年からの旧谷岡基金の全額を移す)
平成18年	(2006)	成蹊大学大学院法務研究科第1回生修了。

# 成蹊会の母校への後援事業にご協力を

本会は成蹊学園創立(1912年)以来の卒業生団体であり、昭和30年社団(公益)法人に組織を変更して、従来の親睦団体活動のほかに下記のとおり幾多の有意義な事業を行っております。何卒ご後援のほどお願い申し上げます。

- 1. 育英奨学事業** (基金22,105万円・17年度実施額1,440万円)  
昭和31年以降、育英奨学制度を設け、主として成蹊大学生・高校生を対象に毎年奨学金を貸与しております。社会の要請に対応したより良い奨学金制度を目指しながら、この事業の拡充に努めております。(貸与額累計28,827万円・貸与者合計702名)
- 2. 学術・教育助成事業** (基金5,537万円・17年度実施額340万円)  
昭和49年以降、学術・教育助成制度を設け、小学・中学・高校・大学の教員に研究助成金を、小学校に教育振興助成金を贈呈しております。また、平成2年度より成蹊会学術賞を設け、学術研究上顕著な業績をおさめた成蹊大学の教員に対して賞状と副賞(賞金)を贈呈しております。(助成額累計7,835万円・281件)
- 3. 国際交流事業** (基金2,869万円・17年度実施額90万円)  
昭和50年以降、国際交流基金を設け、成蹊高校と米国・濠州の高校との交換留学生交流諸費に充てております。日本の国際的地位の向上とともに、真に国際的に通用する人物の育成に寄与したいと考えております。(助成額累計1,845万円)
- 4. スポーツ振興事業** (基金2,878万円・17年度実施額557万円)  
平成2年度より新たにスポーツ振興基金を設け、小学・中学・高校にスポーツ振興助成金を贈呈、成蹊学園のスポーツ団体及び個人に後援金を助成しております。この奨励金により母校のスポーツ興隆を期待しております。(助成額累計1,881万円)
- 5. 文化振興事業** (基金4,389万円・17年度実施額486万円)  
平成12年度に旧「谷岡基金」の全額を移して新たに文化振興基金を設け、「成蹊桜祭」及び成蹊学園の文化団体に後援金を助成しております。その他、社会的に有益な文化事業を支援するため、必要な助成を行っております。(助成額累計2,749万円)

上記の各事業はご寄付金及び各基金から生じる運用収益金により賄われております。これらの事業の健全な発展のため、卒業生・ご父兄並びに関係法人のご高配を切にお願い申し上げます。

- 上記基金のうちいずれかをご選択(各基金1口1万円以上)指定いただければ当該基金に繰入れさせていただきます。
- 巻末の払込用紙(ご寄付金用)をご利用下さい。
- ご寄付金に対する税法上の優遇措置はございませんのでご了承下さい。
- 本件につきましてのおたずねは成蹊会で承ります。

〒180-8633 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話 0422-51-2244

社団法人 成蹊会